

立命館

父母教育後援会だより



A Magazine for Ritsumeikan University
Parents Association of Student Education Assistance

2012年度
夏号

2012 Summer Issue

CONTENTS

【特集】親が気になる就職事情

- | | | | | | |
|----|-------------------|----|-------------------------|----|--------------------------------|
| 4 | 2011-2012 進路・就職状況 | 6 | まるわかり!! 就職活動の流れと大学のサポート | 8 | 親が知りたい就職の疑問 |
| 10 | 社会で活躍する校友インタビュー | 38 | 施設紹介 | 53 | 父母教育後援会だより2011年度冬号 読者アンケートについて |
| 12 | 春のオープンカレッジ | 40 | きょうのおひる | 54 | 保健センター健康通信 |
| 28 | データに見る学生実態 | 42 | 2012年度総会 | 56 | 公費助成について |
| 32 | 親の心配、子どものホンネ。 | 46 | 都道府県父母教育懇談会 | 57 | 学園トピックス |
| 34 | 立命館のゼミナール訪問 | 48 | アカデミック講演会 | 58 | 学生イベント&スポーツ |

ごあいさつ

父母教育後援会会員の皆さまには、平素より立命館大学の教学に深いご理解と厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、東日本大震災から一年が経過しましたが、改めて犠牲となられた方々のご冥福と一日も早い復興を衷心よりお祈り致します。本学は教育・研究機関として、学園のネットワークをフルに活用し、可能な限りの支援を継続して行い日本の復興に貢献して参ります。

さて、世界はグローバリゼーションと知識基盤社会が急速に進展し、労働市場や産業・就業構造の流動化など将来の予測が困難な時代にあります。このような中で高等教育機関が果たすべき役割はこれまで以上に重要になってきています。

これからの社会に求められるのは、自分自身で未来を切り拓いていこうとする強い意志と、既成概念に捉われない創造性、そして新しいことに挑戦し続けられる力です。

全国から学生が集う立命館大学は、一貫して学習者中心の教育に軸をおき、多様な人的・知的交流を実現する学びの場「ラーニング・コミュニティ」を教学の柱としてきました。

「多様性」は今日の世界で最も重要なキーワードとなっています。変化の激しい時代において新しい発展を生み出す可能性、創造性は多様な環境に身をおき自分と異なる価値観に触れることによって磨かれるものだからです。特に、日本の学生が海外の学生と切磋琢磨して学ぶスタイルこそが重要であり、これからの国際社会に通用する人材を育成する場として必然のものでしょう。

立命館大学は中国の大連理工大学と共同で2012年9月に国際情報ソフトウェア学部を開校する予定です。また、昨年秋には日中韓の国家プロジェクトである「世界展開力強化事業・キャンパスアジア」に私立大学としては唯一採択され、中国の広東外語外貿大学、韓国の東西大学校と連携して人文学分野を学ぶプログラムを設置しました。

21世紀はアジアの時代といわれています。日本の復興・復旧も含め、21世紀文明を創り上げていく過程ではアジア全体で学生を育て、アジアの未来を支える人材を輩出することが使命であると考えています。

大学での学びにおいて本当に大切なことは、自己の問題意識や関心をどう育てていくかということです。本学には、自分の好奇心や好きなことを育むチャンスがたくさんあります。多様性の中で自分の可能性を伸ばしてみようという学生のチャレンジを私たちは全力で支援することをお約束致します。

最後に、立命館大学は教職員のみならず、学生、ご父母、校友、地域の方々など学園に関わるすべての皆さまの参画によって未来を築いていくものだと考えています。ご父母の皆さまには、大学に対して是非忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2012年度、未来へ向けた確かな一歩を皆さまと共に進めて参りたいと思います。

“*Creating a Future, Beyond Borders*”

学校法人立命館総長 立命館大学長
立命館大学父母教育後援会名誉会長

川口清史



親が気になる 就職事情

「グローバル採用元年」、「採用選考に関する企業の倫理憲章」の改定。ここ数年、学生の就職をめぐる情勢は大きく変動しています。こういった状況に一喜一憂する学生、ご父母も少なくありません。先がみえない不透明な時代に、どうすれば道が開けるのか。その答えは、大学生活4年間を通して「じぶん」と向き合うことで見えてきます。キャンパス内・外の学び、そして多様な価値観と出会う経験。こういった積み重ねが、社会で活躍しうる力量形成と、世界観・社会観・人生観の醸成を助けてくれるでしょう。そして、学生の一番の味方であるご父母の皆さまが、人生の節目ともいえる就職活動をするわが子を、誰よりもあたたかく見守っていただくことが安心につながるのではないのでしょうか。



【2011年度の進路・就職実績】

東日本大震災の影響、厳選採用傾向のなかでも健闘が光った

2011年度(2012年3月卒業)の進路・就職結果を振り返ると、就職決定率(※)は91.4%となりました。【図1】立命館大学生の実績は、全国屈指です。とりわけ従業員数500名を超える大企業への就職が約65%にのぼるなど、大企業への高い就職率が目立ちます。【図2】厳選採用、東日本大震災の影響などで厳しい活動を強いられた昨年度にあっても、かなり健闘したといえます。

難関試験合格者数についても、西日本の大学でトップクラスを維持しています。中でも、国家公務員Ⅰ種(23名)は全国の私立大学で3位、同じくⅡ種(146名)は全国2位と、「公務員に強い立命館」との評価を改めて実証しました。【図3】

2011年度は、企業の採用意欲に回復の兆しが見られていたものの、3月に起きた東日本大震災によって、大きく変動しました。都

市圏に本拠をおく大手企業を中心に採用選考時期を遅らせる動きが起こるなど、近年の採用選考の長期化に拍車がかかり、就職活動スケジュールを立てる学生にも混乱をもたらしました。

選考において量より質を求める傾向は変わらず続いており、厳選採用を行う企業が数多くみられました。また近年の顕著な傾向として、グローバルに活躍できる人材へのニーズが高まっています。とりわけ外国人留学生への注目度の高さが2011年度も顕著に現れました。本学では、こうした企業の採用動向を迅速に把握するとともに、学生への情報発信や必要な支援を積極的に行ってきました。

※就職決定率：就職決定数／就職希望者

【2012年度の就職動向(4回生)】

倫理憲章の見直しで、企業の採用スケジュールに変化

2012年度(2013年3月卒業)は、新卒求人倍率が1.27倍と、昨年度より0.04ポイント増加。ここ数年の求人減少傾向が下げ止まっている印象です。【図4】

本学へ到着する企業からの求人も、例年以上に増加しています。本学内定率も、震災のあった昨年と比べて、文系学部生で8.9ポイント増加(前々年比3.4ポイント増)、理系学部生で2.8ポイント増加(前々年比0.9ポイント増)、理系院生では前年比6ポイント増加(前々年比3ポイント増)と増加傾向にあります。(2012年7月6日現在)

2011年度に改定された「採用選考に関する企業の倫理憲章」により、企業の採用広報が2ヶ月遅いスタートとなりました。一方、採用選考が始まる時期は4月と例年通りなので、実際には、採用スケジュール

が2ヶ月短縮されることになり、「短期決戦」の傾向が強まりました。企業との接点をもったり、研究する機会や時間が少なくなり、企業理解が不十分なまま選考に入る学生が多いようです。就職サイトの情報では、学生のエントリー企業数も昨年と比べて2割ほど減少しているとのことです。厳選採用傾向を強めるなか、まずはエントリーシート、筆記試験対策といった初期段階での対策が非常に重要になります。

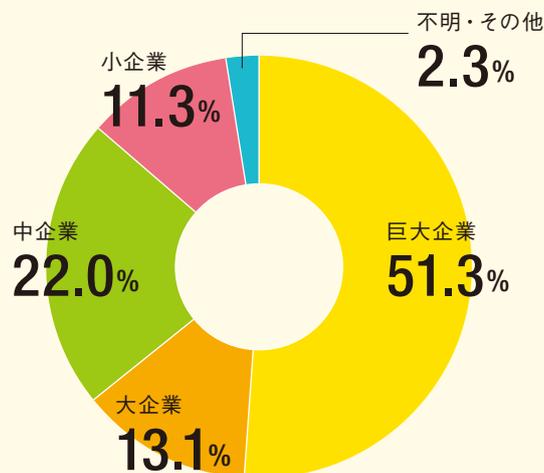
内定時期を4回生の春から初夏までと想定している学生が多いですが、実際には本学の学生のうち約60%が、4回生の9月以降に進路決定をしています。キャリアオフィスでは、就職活動を粘り強く続ける学生をサポートするため、卒業式のある3月まで支援企画を継続しています。ぜひキャリアオフィスを活用ください。

図1 2011年度(2012年春)就職決定率(各学部合計)

		全体	男子	女子
A	卒業者	7,382	4,628	2,754
B	就職希望者数	5,467	3,244	2,223
C	就職決定報告者数	4,998	2,933	2,065
D	大学院進学報告者数	1,087	885	202
(C+D)/A	進路決定率	82.4%	82.5%	82.3%
C/B	就職決定率	91.4%	90.4%	92.9%

◎就職決定報告者数には就職見込を含む
◎大学院進学報告者数には海外進学を含む

図2 2011年度従業員規模別就職状況



◎従業員規模
巨大企業：1000人以上／大企業：500～999人／中企業：100～499人／小企業：99人以下

[進路・就職と学生生活]

学生生活の充実が、社会で求められる力を育む

2012年度の採用選考で実際に多く問われた設問は、学生自身の価値観を引き出すような問い、社会で活躍できる力量、そして熱意(志望動機)でした。多くの学生は、これらの問いにこたえるための「対策」にどうしても走りがちですが、企業が採用で問うのは、物事を捉える視点であったり、その人がもつ価値観です。

今のビジネス社会では、多様なバックグラウンドをもった人々とともに仕事をしていくことが求められています。成果を出すプロセスでは、考え方の相違から衝突する場面も経験することでしょう。そうしたときに自分の考え(軸)をもったうえで他者と議論し、目指す方向性、解決策を導きだしていきます。この価値観は、短期的に身につくものではなく、日常生活(人生)を過ごすなかで各人が培っていくものです。立命館大学には多様な学生が3万人集い、活動の場は正課

はじめ部活動、ボランティア、留学と多岐にわたっています。

1、2回生のうちはまずはキャンパスにしっかりと根をおろしましょう。正課や課外活動、アルバイトなど多忙な生活を経て、スケジューリングする力、優先順位をつける習慣なども身につくのではないのでしょうか。また他者と活動をともにするなかで、自己の価値観と向き合うことができたり、集団のなかでの自分の役割を考える経験になるでしょう。

3年生では、正課や課外活動において、リーダーの役割が回ってくる学年でもあります。就職活動もはじまり多忙にはなりますが、自分の役割と向き合い、目の前の課題や問題に正面から向き合い、仲間や後輩と議論を重ね、全うしましょう。その経験は、社会が求める力量形成に繋がると思います。

[進路・就職での親子のかかわり]

ご父母の温かな見守りが、粘り強い就職活動の「カギ」に

キャリアオフィスでは進路相談、エントリーシートのチェック、面接対策などを通して学生の就職活動をサポートしており、年間のべ2万7000人の学生がキャリアオフィスの窓口相談を活用しています。その窓口相談でキャリアオフィススタッフが日々実感していることは、学生にとっての一番のサポーターはご父母の皆さまであるということです。

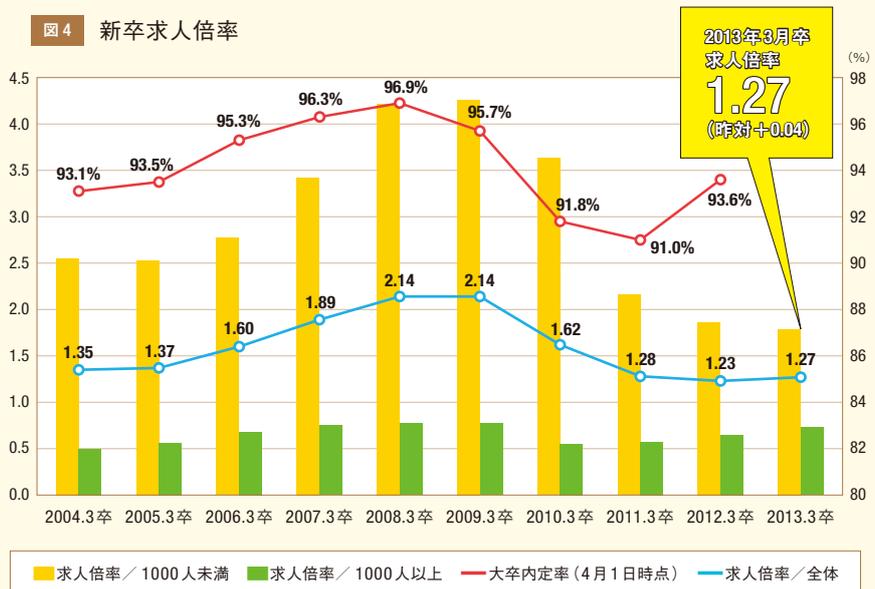
落ち込むことや焦ることが多くなる就職活動時期に、学生自身が焦りで見えてない自分の長所、強みなどについて、成長を見守ってこられた立場から率直にお話いただければと思います。学生にとって、何よりの励みとなるでしょう。

先述のとおり、就職活動は長期戦です。企業の採用選考が進めば、その分交通費がかかります。関西圏内での交通費(約40回往復)は5万5000円程度、関西圏外への交通費(約5回往復)は9万円程度かかるとされています。〔「親子で考えるキャリア講座vol.4」より〕スーツやかばん、靴なども揃えると出費がかさむことが想定されます。お子様への可能な範囲での経済援助をお願いできればと思います。

図3 2011年度難関試験合格状況

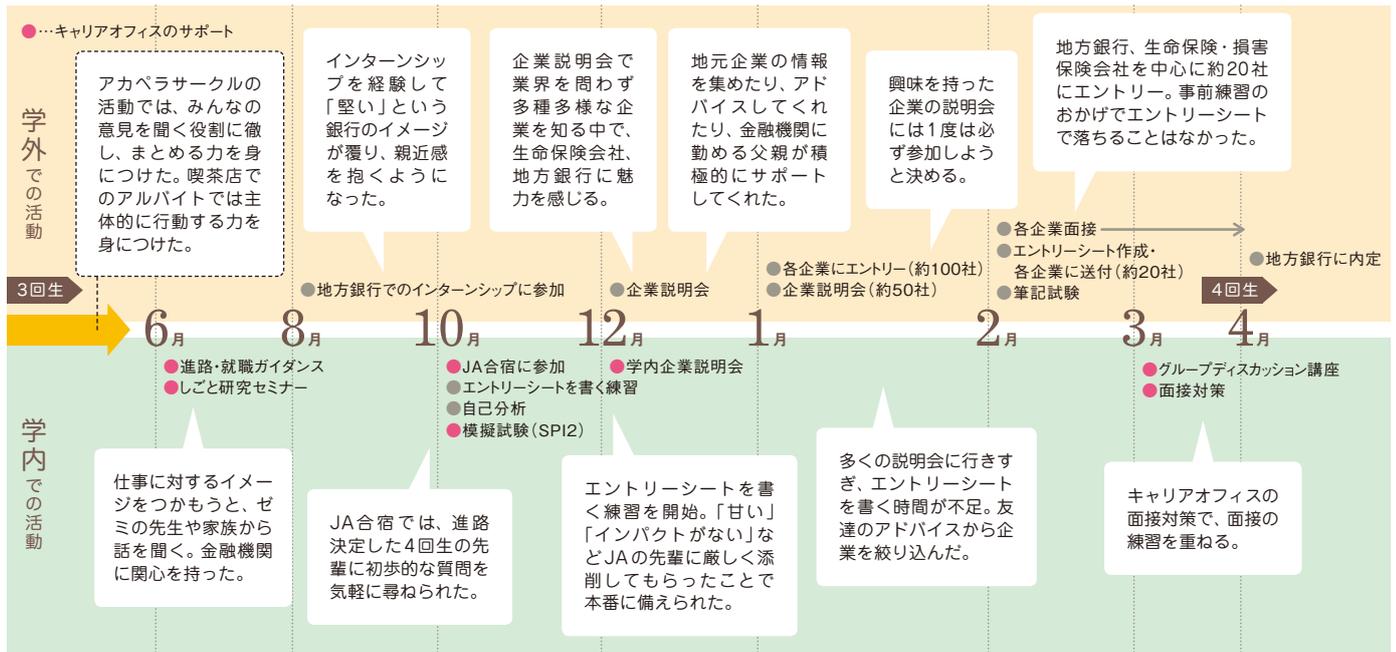
試験	区分	合格者数
公務員	国家公務員Ⅰ種	23 (全国私大3位)
	国家公務員Ⅱ種	146 (全国2位)
	国税専門官	86
	裁判所事務官 (Ⅰ種/Ⅱ種)	36
司法試験	新司法試験合格者	40
公認会計士	論文式合格者	39
教員	採用試験	286 (既卒者を含む)

図4 新卒求人倍率



出典：厚生労働省・文部科学省・ワークス研究所

CASE 01 地方銀行内定



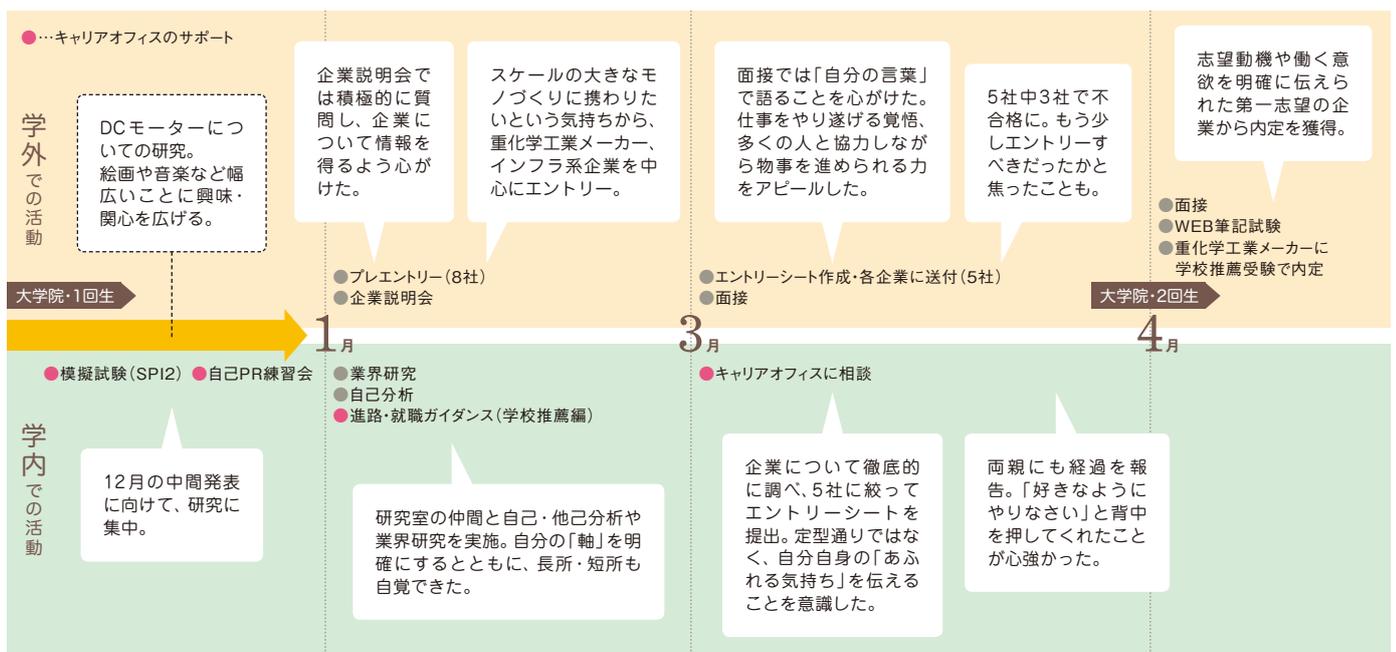
さまざまな人から意見・刺激を受け、失敗を立て直した

初めての面接で、企業の方から厳しい言葉をぶつけられ、大ショック。後で思い返して、企業研究が十分ではなかったこと、また相手が何を求めているかも考えず、自分のことばかり話してしまったことに気づきました。キャリアオフィスの方々はもちろん、大学の友達、面接試験などで出会った他大学の学生、両親などさまざまな人からアドバイスや刺激を受け、立て直すことができました。

小山 美沙樹さん(経済学部4回生)

まるわかり!! 就職活動の流れと大学のサポート

CASE 02 重化学工業メーカー内定

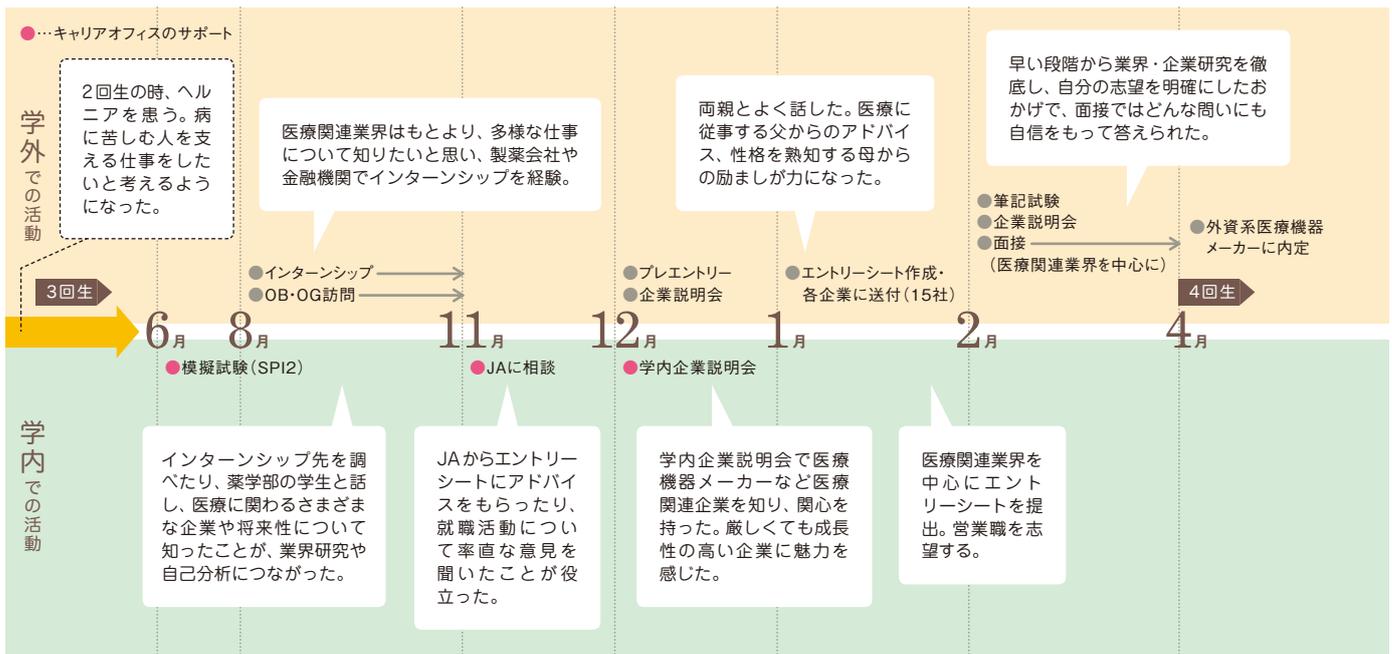


目的意識、意欲、のびしろが評価された

モノづくりを通して国際社会における日本のポジション向上に貢献したい。そんな壮大な夢を抱いて、造船事業などを手がける重化学工業メーカーを志望しました。面接では、自分の研究内容を簡潔、かつわかりやすく伝えること、企業の事業に対して感じるワクワクする気持ちを素直に、熱意をもって語ることを意識しました。コミュニケーション力や意欲、将来的なのびしろが評価されているなど感じました。

伊佐 敏さん(理工学研究科2回生)

CASE 03 外資系医療機器メーカー内定



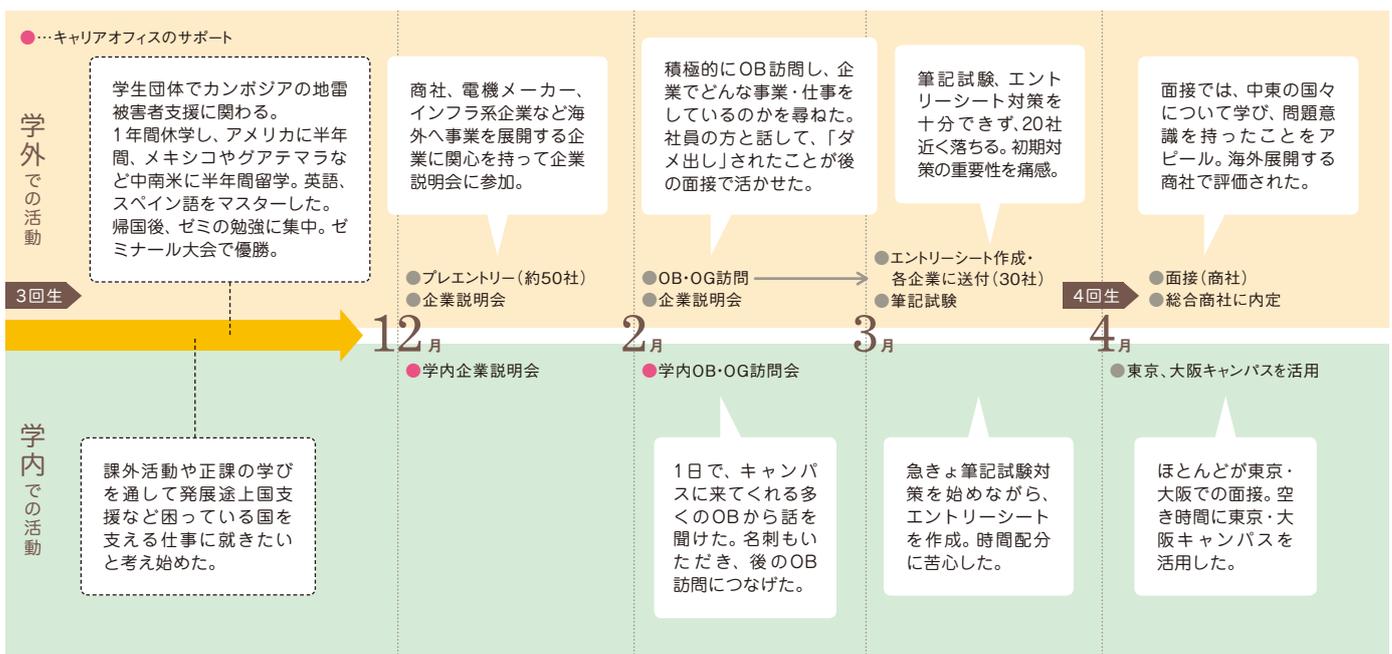
早い時期からのキャリアデザインが成功のカギ

希望の進路を勝ち取るには、早い段階から将来について考え、目標を定めることが重要だと思います。就職活動が本格化する前に、インターンシップや業界・企業研究を通して自分の志望を明確にしたことが、第一志望の企業から内定を得る結果になりました。厳しい環境の中で自分の能力を高め、成長していきける。そんな企業で力を試したいと思い、成長性の高い外資系企業に就職を決めました。

沼田 慶大さん(法学部4年生)

いつから就職活動を始めるのか、どのように取り組めば良いのか、学生やその父母の不安や心配は尽きません。このページでは、今年度の就職活動を経て希望の進路を獲得した4名の学生が登場。開始時期から各段階での取り組み、キャリアオフィスの活用法までを実際の活動に沿ってご紹介します。

CASE 04 総合商社内定



正課・課外活動を通して育んだ確固とした問題意識が評価された

明確な将来のビジョンを描けるかが、就職活動の成否を分けると思います。カンボジアの地雷被害者へ義足を送る活動に携わる中で、困っている国や人々を支援するには、社会基盤を変えるところからアプローチする必要があると実感したことが志望動機に。面接で「あなたはどう思うか」と問われた時、正課や課外の活動を通じて得た自分の意見や問題意識を述べたことが評価されました。

深田 美咲さん(国際関係学部4年生)

親が知りたい 就職の疑問

毎年、各都道府県で行われる父母教育懇談会では、ご父母の皆さまから『わが子の進路・就職』についてたくさんの質問が寄せられます。ここでは、特に多い質問をピックアップし、キャリアオフィスが詳しく解説します。

Q1 学部卒と大学院卒では、職種や求められる能力に違いがありますか。

A 理工系の学生は、学部・研究科で学んだ専門、研究につながる仕事に就職する場合があります。より高い専門性やスキル、技術力が求められる研究・設計・開発職の場合は、大学院生により多くの求人が集まるのが特徴です。人文社系では、学部生・大学院生とも事務系総合職への就職が中心になります。大学院生の場合は、採用面接の段階で、専門分野の研究活動を通して培われる調査・分析・問題解決などの能力・実績や経験を問われます。

Q2 民間企業、公務員、教員の採用見通しを教えてください。

A 民間企業では、リーマンショック以降、経済情勢が採用にも大きく影響する状況が続いています。最近の各種調査では、非製造業を中心に景況感が若干上向き、採用人数を昨年並みか、少し増やすという企業が目立ちます。しかし円高の影響を受けている製造業は、まだ厳しい状況が続きそうです。公務員については、国家公務員・地方公務員ともに政策によって採用数が大きく変動します。特に国家公務員については、政府の「採用数を平均56%減らす」という発表もあり、面接の場面では、熱意(志望理由、高い志など)をより明確に問われるでしょう。教員についても各都道府県・市の採用計画に依拠しますが、近年団塊世代の退職者が増えた影響もあり、若干ですが採用数の増加傾向が続いています。

Q3 教員や公務員試験と民間企業の就活の両立は可能ですか。また各種試験や大学院入試に合格しなかった場合、試験後からの就活でも間に合いますか。

A 公務員試験の結果が出揃う秋以降に民間就職に切り替えても間に合います。ただし、大企業の多くは夏までに採用選考を終えます。キャリアオフィスでは、公務員から民間就職活動へ切り替える学生を対象としたガイダンスの実施や、採用活動を継続している企業や秋採用を実施する企業に対する求人開拓など、秋から就職活動をスタートさせる学生の支援を積極的に行っています。公務員試験や教員採用試験、大学院入試突破には一定の対策が必要です。進路に迷われる際はキャリアオフィス、エクステンションセンターの窓口にて個別相談を活用してください。

Q4 その他就職活動の流れを教えてください。

A 本格的に企業と学生の接触が始まるのは、12月からです(2011年度の場合)。この時期に、学生は就職情報サイトに登録し、エントリーや合同企業説明会、企業セミナーなどへ参加し始めます。その後、1月から随時、エントリーシートと呼ばれる選考書類を提出し、会社説明会に参加していきます。3月になると、筆記試験などを開始する企業が出てきます。4月に入ると、大手企業の選考が一気に開始され、選考活動が本格化します。中堅中小企業の場合は、夏以降も採用人数が充足するまで採用活動を継続する企業が多くみられます。7月以降も本学学生への採用意欲が高い中堅中小企業を中心に採用活動が続きます。

Q5 大学が行っている就職支援について体制や内容などを教えてください。

A OB・OGのべ400名を年間10回程、キャンパスに招き懇談会や交流会を実施したり、大手有力企業が多数参加する学内企業説明会(3年生・4年生を通じて約1,500社)の実施、就職支援企画(筆記試験対策や自己分析、模擬面接など)も数多く展開しています。支援の大きな柱は、スタッフによる個別相談です。窓口相談の件数は年間2万7千件以上。衣笠、BKC両キャンパスあわせて約30名のスタッフが相談を受け付けています。

Q6 OB・OG訪問の方法について教えてください。

A 学生向けの学内ポータルサイト「CAMPUSWEB」からOB・OGの連絡先を検索することができます。ここには10年分のOB・OGの就職体験談がストックされており、志望する企業の選考内容やアドバイスを調べることもできます。OB・OGによってはメールアドレス、電話番号が公開されているので、積極的に自分からアポイントをとり、OB・OG訪問に活用してください。

Q7 留学のため 4回生時に帰国した場合、 就職活動に間に合いますか。

A 帰国後の就職活動でも間に合いますが、大手企業の採用活動はおおむね夏までに終了するため、志望企業や業界の採用時期をあらかじめ調べておく必要があります。とはいえすべての企業が採用活動を終了しているわけではありません。中堅中小企業は夏以降も採用活動を行うケースが多いほか、最近では留学経験者を対象として秋採用を実施する企業や、留学先(アメリカや中国など)で就職活動を行えるケースもあります。特に、新卒採用が活発になる3回生冬以降に帰国をする場合は、帰国後から就職活動までの期間が短いため、事前に情報収集を行っておくことをおすすめします。キャリアオフィスでは、留学前の学生を対象としたガイダンスを実施し、帰国後の就職活動をサポートしていますので、ぜひキャリアオフィスにご相談ください。

Q8 インターンシップ制度について 教えてください。

A インターンシップに参加することで単位認定されるものと、そうでないものがあります。単位認定のあるインターンシップは、主に大学の学びの一環として、数ヶ月にわたって取り組むもので、就業体験や企業の課題解決を提案するグループワークなどがあります。一方、単位認定のないインターンシップは、企業、行政機関、NPO団体などが「独自」に募集するものです。よって、学生自身が企業、行政機関、NPO団体のHPから調べるなど主体的な努力が求められます。インターンシップは通常5日以上で、多くの場合、夏期休暇中に実施されます。参加する際は、自分の目的に合ったものを探すことが重要です。クラブ・サークル活動、研究活動、アルバイトと重複する場合もあるので、早期からスケジュールを組む必要があります。

Q9 Uターン就職をする学生への 支援内容と、各地で開催している キャリアフォーラムについて 教えてください。

A 学生の約半数が地方出身である立命館大学では、Uターン就職/Uターン就職など地方での就職を希望する学生のために支援を行っています。各地域を代表する有力企業や自治体の採用担当者を招聘し、「立命館大学キャリアフォーラム」と称して、例年2月に全国11会場(札幌/仙台/東京/金沢/静岡/名古屋/京都/岡山/広島/高松/福岡)で、本学学生のみを対象としたセミナーを開催しています。またこれまでに広島県、徳島県、高知県と『就職支援に関する協定』を締結するなど、Uターン希望学生の進路実現のため、今後も支援の強化を図っていきます。

Q10 前期卒業の場合、 就職に不利になることはありますか。

A 秋入社を採用活動を行っている企業もありますが、多くの企業は4月入社を前提に採用活動を行っています。そのため志望する企業の情報を入手し、採用・入社時期にマッチした活動が必要です。前期卒業の学生の多くは、春までの半年間の履修や活動を計画し、そのこともアピールしながら就職活動を行っています。

Q11 就職できなかった場合、卒業後も 大学の支援は受けることはできますか。 留年して就活の方が有利ですか。

A 在学時と同じように窓口で相談を受けることができます。また卒業時に登録すれば、緊急支援として、大学に寄せられる求人を自宅でも閲覧できるサービスを半年単位で最長1年間利用できます(2011年度)。各県のハローワークやジョブカフェなどを並行して活用することも重要です。卒業か留年かについては、卒業後3年まで「見なし新卒」として応募可能な企業も増えていますが、現状としては厳しい実態があります。とはいえ、留年についても同様に、厳しい雇用情勢の中、留年の積極的な理由を問われるケースが多々あります。全体として企業の採用活動も長期化しています。キャリアオフィスに相談しながら粘り強く活動を続けることが重要です。

Q12 就活について、親からの援助のひとつとして 金銭面の援助が挙げられますが、具体的に どれくらい援助する必要がありますか。

A 2011年度に就職活動を行った本学学生にアンケートを実施したところ、平均として衣服代(スーツ、靴など)に約8万円、また関西圏内での交通費に約6万円、関西圏以外(京都→東京など)での交通費に約9万円かかったという結果が出ました(親子で考えるキャリア講座 vol.4より)。会社説明会や面接のために関西圏以外に足を運ぶ機会が増えると、交通費などの出費もかさみます。キャリアオフィスでは学内に人事担当者を招いての合同企業説明会なども年間を通じて実施していますので、それらも利用してください。

Q13 一人暮らしの学生へのサポートは、 金銭面の援助以外に 何が有効ですか。

A 20数年間生きてきたなかではじめて味わう挫折が就職活動という学生もいます。明確な答えなど無いエントリーシートや面接に、学生は悩んだり焦ったり落ち込んだりすることもあるでしょう。そのような折、さりげない声かけやご父母からの温かいお気持ちが学生にとって、一番の支えになると思います。学生が次の行動につなげていけるよう、見守る気持ちでサポートしていただければと思います。就職活動についての対策企画や窓口相談などは、キャリアオフィスで実施していますので、一度学生本人に入室するよう促してください。



北九州銀行 頭取

加藤敏雄 さん (1971年 経営学部卒)

Toshio Kato

日本の産業の要衝であり、人口百万人を擁する政令指定都市、北九州市。日本銀行の支店が所在しながらも、これまで同市に本店を置く銀行はなかった。「地元の本拠を置く銀行を！」との長年にわたる市民・財界・行政からの熱望に応え、2011年10月に設立された北九州銀行。その初代頭取を務める加藤敏雄さんは立命館大学の卒業生である。「仕事には明るさと前向きな姿勢が何より大切」と語る加藤頭取にお話をうかがった。

立命館での学生時代

私は山口県の周防大島出身です。大学進学については、本当は国立志望だったのですが、受験結果の「縁」で立命館の経営学部に進みました。私立、しかも地元から遠く離れた都会ということで、学費や下宿代で親に随分負担をかけてしまったと思います。しかしながら立命館に入学後程なくして、当時文学部史学科の教授を務めておられた奈良本辰也先生が周防大島出身であることを知りました。同郷の碩学が教壇に立つ大学に学んだことは、やはり縁だったのでは

うね。立命館は教授陣が素晴らしく、学校もきちりしていたことを今でも誇りに思っています。

私が入学したのは1967年。1・2回生は大変真面目に勉強したものの、3回生になる頃には学園紛争が激化してキャンパスに入れなくなってしまい、仕方なく、麻雀や社会勉強をしていました。試験もなくレポートになりましたが、そのおかげで無事卒業できたのかもしれない、と思うこともあります(笑)。

毎年夏には郷里に戻って、山口県青少年海洋訓練所で指導員を務めていました。小・

中・高生相手に、水泳、カッター、手旗、キャンプファイヤーなどを指導するのですが、これがなかなかの重労働。責任のかかる厳しいアルバイトでしたが、今となってはそれも楽しい思い出です。ストレス解消のため、今でも時折泳ぐこともあります。もっとも、当時ほどには息が続きませんが。

立命館卒第一号として、 銀行マン生活をスタート

1971年春に山口銀行に入行しました。立命館出身者としては私が第一号の採用であ



部下行員の校友中村祐治さん(85経営・後列左)、魚重貴宏さん(06法・後列右)と一緒に

「明るさとひたむきさが何よりの武器になる」 —銀行＝サービス業と考える、私の仕事姿勢—

り、行内に同窓の先輩は一人もいませんでした。現在、YMF（山口フィナンシャルグループ。傘下に山口銀行、北九州銀行、もみじ銀行を擁する持ち株会社）全体では、およそ140名の校友が在籍しています。これだけ後輩が続いてくれましたので、就職先の開拓ということで少しは大学に貢献できたのかもしれない。

山口銀行福岡支店から銀行マン生活をスタートしました。その後若松支店長、本店審査部長、北九州本部長などを経験、そして今回の北九州銀行初代頭取就任となりました。職場結婚した家内も九州出身ですので、ご当地には大変縁が深い人間だと思っています。私どもの役員は皆、家族も一緒に北九州で暮らしており、仕事も生活も地域密着を実践していますよ。

座右の銘は 「得意淡然、失意泰然」

仕事をしていると、良いことも、そうでないことも色々起こりうるものですが、そのような時、リーダーがどのように振舞うのかを部下はつぶさに見ています。リーダーたる者は一喜一憂せず、風格もって的確な判断を下していかなければなりません。私は「得意淡然、失意泰然」という言葉が胸にしみますね。ふり返ってみると、私がこれまでに会ってきた上司や先輩は、みなさんこの言葉を体現されておられました。私自身もそうありたいと思っていますし、後輩たちにも是非伝承していきたいですね。

ただし、日頃仕事をする上でのモットーは、「明るく楽しく仕事をしよう」です。明るいスタンスで仕事に向き合うと、物事の捉え方が大局的になり、視野がぐっと広まります。お客様も明るく前向きな話ができることを望んでおられます。セールスは明るく楽しく！私自身が率先垂範しています。

金融機関を目指す学生に 伝えたいこと

毎年春先になると、大学生の就職希望先企業ランキングが発表され、銀行をはじめ金融機関は必ず上位に入ってきますね。私

どもの銀行にも毎年多数の学生より応募があり、そのこと自体はとても嬉しく、また心強く思っています。

しかしながら、学生の皆さんには是非発言しておきたいことがあります。それは、自分の性格や向き不向きをよく考えて業種を選んでほしいということです。銀行というと、どうしても「堅実である」「安定性がある」といった企業イメージを抱かれがちですが、それは正しい見立てではないかもしれません。

私は、銀行＝（イコール）サービス業であり、お客様のお困りの事案と一緒に解決する、あるいは願いを成就させることに、銀行マンとしての仕事の原点があると考えています。お客様との関係づくりにおいても、まずは土台に常識と礼儀があって、それから専門知識の出番となります。特に若い銀行マンは、明るく誠実な人柄でお客様に好かれる存在であってほしいですね。お客様にファンになっていただくことにより、その銀行マンに人的な成長がもたらされます。

銀行マンに求められる資質

銀行をはじめ金融機関の仕事にはシビアな面が多々あります。私自身もかつて経験しましたが、くじけそうになってしまうことだってあります。でも、決してくじけずに前に進んでいく心意気があれば、何とか障壁を乗り越えていくことができます。わが立命館には昔も今も、良い意味でハングリー精神が息づいているようですね。私どもの部下行員である卒業生をみていると、仕事に対する姿勢が前向きで行動力があることに感心しています。

断られても、断られてもへこたれない。これは勉強プラスアルファの要素であり、私は高く評価していますよ。

なお学生面接の際、「調査や審査、企画部門の仕事を是非やりたい」という志望動機を頻りに耳にしますが、これらの部門は営業現場での実務経験を豊富に持つベテランスタッフが、長年にわたって培ってきた知見をもとに、どうしたら案件を仕組み化できるか、あるいは組織的・効果的な取り組

みをいかに展開するか、などを一生懸命になって考え行動する職場です。新人がいきなり配属されることはまずありません。こうした現実を受容しつつ、「いつかはその業務を担当するぞ!」という気持ち、言い換えればガッツを胸に抱き、営業現場で頑張ってくれそうな人材との出会いを期待しています。

学生父母の皆さんに 伝えたいこと

学生父母の皆さんに対しては、子どもをしっかりと叱っていただきたい、とお伝えしたいと思います。社会に出ると自らの非のある無しに関らず、叱られる機会がとて多いですね。私自身二人の子どもを持つ親としての経験から申し上げますが、叱られたことの無い人間にはどうしても一抹の弱さが残ってしまいます。叱られることによって善悪等の判断が身について、まっすぐにたくましく育っていくのだと思います。なお、私どもの若い行員を見ていると、女性より男性のほうが、やや心もとないかもしれません。男子学生を持つ親御さんは、とりわけしっかりと叱ってください。



かとう・としお

1947年10月生まれ。1971年3月山口銀行入行。新下関駅前支店長、若松支店長、本店審査部長、取締役本店営業部長、常務取締役北九州本部長、専務取締役北九州本部長を経て、2011年10月に開業した北九州銀行初代代表取締役頭取就任。現在、山口フィナンシャルグループ専務取締役も同時に務める。家庭は夫人と一男一女。趣味はゴルフと水泳。



OPEN COLLEGE 2012

in Kinugasa Campus & Biwako Kusatsu Campus

2012年度 春のオープンカレッジ

2012年5月20日(日)、衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスで「2012年度春のオープンカレッジ」が開催されました。

緑が鮮やかさを増すキャンパスにたくさんのご父母が集い、今年も賑やかな1日となりました。

「進路・就職講演会」や「大学院進学説明会」など学生の進路にかかわる企画の他、

「学生生活講演会」や「留学説明会」といった学生生活の過ごし方についての企画など、多様な企画を実施。

「アカデミック講演会」や「キャンパスツアー」などご父母の皆さまに楽しんでいただける企画も盛況でした。



進路・就職講演会

「就職活動生の親が今、知っておくべきこと」をテーマに催された進路・就職講演会。日経BPビズライフ局長であり、就職活動生の保護者向けの書籍を執筆されている麓 幸子氏が、ご子息の就職活動を見守られた一人の親として、また学生を採用する立場から、厳しい採用の実情を明かし、就職活動に臨む子を持つ親に求められていることは何かを語りました。

厳しい就職状況は 企業の採用戦略の変化が原因

2009年から10年にかけて、計444日間の長い「就活」を経験した息子を傍らで見守りながら、現代の就職活動がいかに厳しいかを知り、大変驚きました。

厳しい就職状況を「景気が悪いから」と考え、安易に留年や就職浪人の道を選ぼうとする人がいますが、それは間違いです。景気の影響以上に、そもそも日本企業の採用戦略・人事戦略が変わったことが最大の理由だからです。今の企業の採用活動の特徴の一つが、「厳選採用」です。その人材が企業にとって価値を生むか、端的に言えば、5年後、10年後、リーダーとなって会社を支えてくれるかが厳正に見極められます。採用予定数を満たすために基準が緩められることもありません。もう一つは、採用活動期間の早期化と長期化です。実際息子は、大学3年生の10月から、4年生の12月まで、就職活動は実に1年以上も続きました。

採用試験で問われるのは 企業に貢献できる人材か

息子の就職活動は、3年生の秋、リクルートスーツを買うことから始まりました。年が明けると、毎日のように合同説明会や企業のセミナーへと出かけるようになりました。その中から数十社に絞り込んでエントリーし、実際には10社にエ

ントリーシートを送付。しかし結果は、すべての企業で不採用に。大手企業の採用活動のほぼ終わる5月中旬頃には、「持ち駒」がすべてなくなってしまいました。

今振り返ると、息子がつまづいた理由がいくつか見えてきます。一つは、だれもが知っている有名企業のみを志望したことです。大学生はほとんど企業を知らないのが実情です。大手人気企業にばかり注目し、規模が小さくても、また知名度は低くても、優良な企業がたくさんあることに気づきません。就職活動の成否は、多様な企業の情報をごだけ集められるかにかかっているのです。

もう一つは、「自分本位」の視点でエントリーシートの作成や面接に臨んだことです。企業が求めているのは、「企業にどう貢献できるか」という視点です。企業が求める人材像は、ずばり「商社マンタイプ」。コミュニケーション能力が高く、主体性と協調性を備え、チャレンジ精神を持っていること。さらに近年は語学力や専門性も求められます。採用試験でも、こうした能力を持っていることを示すことが大切です。息子もその視点からエン



トリーシートの書き直しから始め、ようやく内定を得ることができました。

仕事観を磨くのを手伝い 選択を尊重するのが親の役割

現代の就職活動は、ますます厳しさを増しています。個人重視の厳選採用、早期化・長期化の進展に加え、グローバル化の時代を迎えて、いまや国内の学生だけでなく、意欲も能力も高い外国人学生とも競わなければならない時代になっています。努力が報われるとは限らないのが、就職活動の辛いところ。企業の求める人材像やタイミングに合わなければ、どんなに優秀でも採用されません。おそらく初めて努力の報われない経験を積み、学生は深い挫折を味わいます。

その中で親にも適切ななかかわり方があります。まずブランド企業、大手企業志向を子どもに押しつけないこと。子どもが一生懸命選んだ企業を決して否定しないでください。親がすべきなのは、主体は子どものだと認め、見守ることです。その上で、ご自身の職業観や仕事のやりがいや喜びをお子さんに語ってください。また子どもの選択に「どうして？」と問うことで子どもの考えを深め、仕事観を磨くのを手伝ってあげてください。愛する子どもたちが、みな希望の進路を掴み取れるよう願っています。



BKCの進路・就職講演会のテーマは「就活に備えて、何をすべきか」。『就活革命』の著者であり、数百社の企業において社員採用と人材育成コンサルティングをリードしてきた辻 太一朗氏に、就職活動の現状と家庭でできることについて話していただきました。



学生・企業・大学の負のスパイラルについて

「日本の大学生の学習時間は米国に比べて短い」という調査結果があります。アメリカでは40%が16時間以上勉強するのにに対し、日本は11時間以上が20%弱。60%は5時間以内という驚きの結果です。圧倒的に勉強時間の差があります。

では、なぜ日本の学生は勉強をしないのか？学生、企業、大学、それぞれの関係性に問題があるからです。現状では、多くの場合、就職活動に大学での成績が直接関係しません。企業側が実施するSPIなどの試験結果と、後は面接で決まります。面接では、「大学ではどんなことをがんばったの？」という話に花が咲く。つまり、簡単な授業でラクに単位を取得して、課外活動に力を入れた方が、学生も楽しく、面接のネタにもなるというわけです。こういう目的意識を持つ学生、言うなれば「目端が利いた学生」＝「企業のはほしい人材」ですから、勉強をせずに自分のしたいことばかりする学生が増えます。つまり、学生、企業、大学の間で負のスパイラルが起こっているのです。その結果、日本の学生の質が低下し、就職活動の歪みを生んでいます。

企業が求める力とは？

企業が求めている力は、「社会人基礎力」と呼ばれます。2006年、経済産業省が社会人に必要な力を提唱したもので、主体性や実行力などの「前に踏み出す力」、

課題発見力や計画力などの「考え抜く力」、発信力や傾聴力などの「チームで働く力」、これら3つの能力が求められています。

この社会人基礎力をさらに分解すると、企業がほしい共通能力は「シンキング」「セルフコントロール」「コミュニケーション」の3つであると考えます。「シンキング」とは分析的に考える力、「セルフコントロール」はやるべきことのために奮起する力、「コミュニケーション」は口語でのコミュニケーション力です。

実は、シンキングとコミュニケーションは、大学での授業・ゼミで鍛えやすい力です。授業とは論理的に考える訓練であるし、少人数のゼミでは、教授や学生と口語でしっかり意見交換することが求められます。またセルフコントロールは、やりたいことしかやっていない学生には培えない能力です。

この3つの能力は急には伸びません。スポーツで言えば筋力と同じで、反復的な行動で必ず身につく能力です。この3つの能力を時間をかけて伸ばしていくことで、就職に有利な、社会で活躍できる人を作ることになります。

加えて言えば、「興味・関心」を持てる人間かどうかも大切です。何かに対して興味を持てること、また「信頼されたい」など人との関係性に興味を持てること。これらは、知ること、気づくことで急激に変化することが見込めます。

家庭でこそできる「機会」と「話題」づくり

では、共通能力を育てるために家庭でできることは何でしょうか。それは、「能力を伸ばす機会を与える」ことです。授業やゼミ、課外活動の相談にぜひ乗ってあげてください。その中で、「どうして?」「何をやるの?」と考えることを促してほしいと思います。

また、興味・関心については、家庭での日常会話や親の姿から感じる人が多いのです。働くことの価値観は親の影響を受けますから、仕事の辛さだけでなく、楽しさも話してください。せめて、家庭で仕事の話をするのを避けないでほしいと思います。

ぜひ、家庭もご一緒になってお子さんを育ててください。「能力を伸ばす機会を与えてあげること」と「仕事に対して興味が湧くような会話をしてあげること」、この2つのポイントを実践されれば、おそらく就職活動に苦勞されない、自分のしたいことを考えて動いていける人材に成長されると思います。



衣笠

就職相談会

「氷河期の再来」とも言われるほど厳しい新卒雇用の状況が続く中、キャリアセンターの杉町 宏課長から、今年の就職状況や今後の企業の採用活動について解説されました。また、立命館大学の就職支援体制について説明された後、学部ごとのグループ別懇談会では、より具体的な内容の質疑応答が行われました。

現状を冷静に受け止め 大学の支援を最大限活用して

最初に就職活動の環境は非常に厳しい状況であることが説明されました。しかし「一元的な視野で見えてしまうと誤った理解になる」とし、ご父母の皆さまにご理解いただきたい点が次のように語られました。

「大手企業など一部の企業に人気が集まることで、厳しい状況が生まれている」とご理解ください。採用試験は、「企業の人材に対するニーズと学生の志や能力がマッチしているかどうか」で合否が決まります。能力だけではなく、適切な時期に志を持って臨むことが大切だということも忘れないでください」と述べられました。

大企業の多くが5月末くらいまでに採

用活動を終わりますが、そうした企業の内定を獲得する学生は、全体の3割ほどです。実際には、それ以降も「第2クール」と呼ばれる採用活動が再び活発化します。「本学への求人倍率は、求人開拓に努めてきた成果もあり、ここ数年増加傾向にあります。こうした求人は、大手求人サイトなどには掲載されず、企業が大学を絞って出すものですが、こうした情報を見逃している学生もいるようです。卒業式を実施する3月まで学内で合同企業説明会を行いますので、存分に利用してください」と強調されました。

また企業の採用広報活動の開始時期が、昨年度までの10月から12月へと見直され、就活の期間が2ヶ月短縮されたことについても触れられ、「一見すると短期集中型に

見えますが、実際には採用は長期化しています。途中で力尽きないように、しっかりスケジュールを管理することも大切」と述べられました。最後に「面接は社会人とのコミュニケーションです。大人との会話で“気づき”が生まれることも少なくありません。ぜひご父母の皆さまも、お子さんと話していただき、“気づき”を与えていただければと思います」と締めくくられました。



BKC

就職相談会

依然続く厳しい新卒雇用情勢を踏まえ、キャリアセンター小柳 滋副部長より、立命館大学に寄せられる求人の状況、就職活動に臨む上で押さえるべきポイントの解説や、多彩な支援体制についての説明が行われました。その後に催された学部・学科別のグループ別懇談会では、活発な質疑応答が展開されました。

自己選択を大前提に 中長期的な視点で活動を

最初に2012年度の就職動向について、「リーマンショック以降、少し持ち直してはいますが、厳しい状況に変わりはありません」と解説。採用選考の流れを説明した上で、「注意すべきは、就職活動は4月以降もずっと続くという点です。今すでに内定が出ている学生もいますが、大多数の学生はそうではありません。ここで諦めるのではなく、まだまだ続くのだということを念頭に置いていただきたい」と、就職活動に臨む上で持つべき姿勢が述べられました。

あきらめない姿勢を持つことの大切さは、立命館大学を指定して寄せられる求

人の動向からも読み取れます。「実は5～8月の求人数も決して少なくはありませんし、秋にも求人がきます。2011年度は、前年比127.8%の求人が寄せられました。報道に惑わされず、じっくりと取り組んでください」と語られました。

続いて、幅広い支援策が紹介されました。効率よく活動を進められる学内合同企業説明会、企業が学内で採用選考を行うオンキャンパスリクルーティングなどを実施しているほか、キャリアセンター職員による窓口相談も行われており、年間延べ2万7000人の学生が利用しています。こうした立命館大学の就職支援は、他大学の事務局からも高い評価を得ています。

「存分に活用するよう、お子さまに勧めてください。またご家庭でアドバイザー

としてコミュニケーションを図る際には、就職活動への細かい点ではなく、どのような人生を送るのかという視点を持つこと、就職後に直面する社会人としての壁を乗り越える力を備えるために、本人が進路を選択・決定するべきだということを大切にしてください」と結ばれました。



大学院進学説明会

国際競争の時代に突入した21世紀、社会では国際舞台でリーダーシップを発揮できる高度な能力が求められています。衣笠キャンパスでは、日本の将来を担う高度専門職業人や研究者などの養成を目指す文社系大学院と法科大学院の説明会が開かれました。

〈文社系大学院〉

「21世紀は知の国際競争時代です。高度な知的訓練を受け、国際社会でリーダーシップを発揮できる人材が、社会のあらゆる領域で求められています。本学大学院は、新たな教学領域の創造ならびに奨学金や多様な支援制度の充実を進めており、私立大学の中で有数の環境を持つ大学院に発展しています」と、米山裕教学部長が本学大学院を紹介されました。

次に、大学院生へのサポート体制について、特徴ある2つのプログラムを挙げて説明。「大学院生のための自己力向上支援プログラムでは、幅広く世の中で活躍できるスキルを身につけるために多様な課外セミナーを実施しています。また、



キャリアデザインプログラムは、入学前から入学後、就職活動準備にわたるプログラムです。限られた大学院生活の中で着実に学びを深め、力をつけて社会に出るためには、入学前からキャリアについて考えることが重要で、多くの学生がこのプログラムに参加しています」。

さらに、本学大学院には外国人留学生も多く学び、日常の学習環境が国際化していることや、留学先の海外大学と本学の2つの学位取得ができるDMDP(デュアル・ディグリー・プログラム)など、多様な海外留学プログラムがあることが紹介されました。「留学支援の奨学金制度も整っています。留学は価値ある投資と言っていていいでしょう」と述べられました。

また、大学院生の約半数が奨学金を受給していることに触れ、学会発表や海外調査費を支援するものなど、手厚い奨学金支援があることが伝えられました。

最後にご父母へのアドバイス



として、「大学院進学は、将来のキャリアにとってプラスになる力を身につけ、その後の人生を切り拓くための重要なステップです。そのためにはまず、学生本人が志望の研究科でどのような力を身につけたいか具体的なイメージを持って勉強することが大切です。大学院では専門的な知識だけでなく、社会のあらゆる面で活躍できるスキルが身につくはずなので、幅広い進路先を考えるようにアドバイスしてください」と語られました。

続いて、3名の学生が大学院生活について報告した後、事務局から入学試験日程や奨学金制度などが案内されました。

VOICE

文学研究科
博士課程前期課程2回生
長尾 泰源 さん

地理学を専攻しています。災害に対する昔の知恵と、自治体などがつくる最近のハザードマップの内容を融合し、より確かな情報を発信して減災



できないか研究しています。将来は研究者も選択肢の一つ。人にはない武器が必要だと考えて、気象予報士の勉強も始めました。大学院生活は研究漬けの毎日です。筆が進まない日もあれば、いい発想が浮かぶ日もあって、それが楽しい。これからも、自分の軸をしっかり持って研究に取り組みたいと思います。

VOICE

先端総合学術研究科
一貫制博士課程3回生
野島 晃子 さん

私は、高校を卒業し、社会経験を経て大学院へ進みました。大学院生活にかかる費用は積極的に奨学金制度を利用しています。研究テーマは、大学生のコミュニ



ケーション能力と実態、その教育方法の改善について。学生がメールや仲間内の会話に長けても、人前でうまく思いを伝えられないのは、話す訓練を受けなかったことも要因の一つです。今後は海外の大学院で調査を行い、研究で身につけたことを生かして、時代に即したコミュニケーション教育の一端を担いたいと思います。

VOICE

法学研究科
博士課程前期課程2回生
柏倉 寛至 さん

私は、国民ID化や個人情報保護法制のあり方について研究しています。インターンシップに参加するなどして自分の挑戦幅を広げることで、就職活



動にも備え、大手通信会社に内定を得ました。明確な目標を持って学び、大学院生活を楽しんでいる人の多くは希望の内定を得ています。一方、学部時代の就職活動にふんざりがつかず、やむなく進学した人はやはり大学院でもうまくいっていません。そういう学生には、家族からの叱咤激励も必要だと思います。



〈法科大学院〉

「当初年間3,000人程度の司法試験合格者数が目論まれていましたが、現状の合格者は年間2,000人。他方で弁護士の供給過多といわれ、行政や企業においても、法律の専門家に対する需要は、増えず法曹養成を取り巻く環境は厳しいです。しかし、今年から国家公務員に司法試験合格者ができたり、地方自治体にも法曹ないし法科大学院卒業生を採用する動きも見られ、明るいきざしもあります。いずれにせよ、法曹が社会から尊敬され魅力ある職業であることは変わりません」と、山田泰弘法科大学院副研究科長。

立命館大学法科大学院の目標は、地球市民法曹を育成すること。「国際的視野を持って活躍できる、かつ市民の目線に立って地域に奉仕する法曹づくりを目指しています。また専門性を身につけて得意分野を持つことも大切です」と語られました。

続いて、カリキュラムについて説明されました。未修コースの場合、1回生は講義を中心に法律の基本的な枠組みを学習し、2回生の演習では、判例を用いて問題を把握する力を育成。3回生で総合的に分析し、他者に伝える力を育むなど段階的学習が用意されています。また専門性を系統的・効果的に学ぶプログラムパックについても解説されました。

さらに国際性を身につけるプログラムとして、「ワシントンセミナー」と「京都セミナー」を紹介。「ワシントンセミナーは、法曹資格者が多様な分野で活躍するアメリカの実情を知るプログラム。アメリカ・ワシントンDCにあるアメリカン大学ロー・スクールで3週間勉強します。京都セミナーでは、オーストラリアの学生と一緒に英語で日本法を学び、日本法につ



いてディスカッションする機会があるので、英語力アップにもつながります」と述べられました。合わせて、市民から法律相談を受ける「リーガルクリニック」、学外で実務研修を受ける「エクスターンシップ」なども紹介。学生からの質問を受けつける「オフィスアワー」や、資格取得をサポートする「エクステンションセンター」、卒業生から試験対策などについてアドバイスが受けられる「弁護士ゼミ」など、手厚いサポートが整っていることも伝えられました。

その後、入試、学費、奨学金についての説明があり、現役弁護士である卒業生の体験談へと続きました。



VOICE

弁護士（法科大学院法学既修者コース）・2010年度司法試験合格

堀田 康介 さん

どこの法科大学院へ行くとしても重要なのは、法曹に必要な資質を磨くために何をすべきか考え、「一回で合格する」という意識で勉強することです。本学で学んで良かったのは、正課を補う弁護士ゼミに参加できたこと。ゼミの練習で答案作成の実力を伸ばすことができ、一発合格につながりました。弁護士の就職活動には、「公募」「紹介」「飛び込み」の3方法があります。公募は少数なので応募者が殺到します。紹介は、同窓会を通して応募したり、教授をお願いすることもできます。飛び込みは、直接話が聞けるメリットがあります。私の場合は弁護士ゼミの先生から、勤める弁護士事務所に採用予定があると聞いて訪問し、採用となりました。「目の前の人を助けたい」と志望した弁護士。法律相談で簡単なアドバイスをするだけでも感謝され、とてもやりがいのある仕事だと、今実感しています。



大学院進学説明会は、経済学研究科・経営学研究科・スポーツ健康科学研究科の社系大学院と、テクノロジー・マネジメント研究科(MOT大学院)、理工学研究科、そして2012年に新設された情報理工学研究科、生命科学研究科を含めた理工系大学院に分かれて実施されました。進路や就職、充実の支援体制について説明された後、大学院生による体験談が披露されました。

〈社系大学院〉

グローバル化といわれて久しい昨今、日本社会はもちろん、国際社会においても「知識の創造と活用」が厳しく求められています。立命館大学の大学院が目指すのは、そうした社会のニーズに応え、国内外問わず活躍できる人材の養成です。

その実現に向けたキーワードが、「キャリアパス」です。倉田玲教学部副部長は、「大学院生のキャリアパスについては、家庭や大学で教わるものではなく、自ら思い描くものだといわれた時代もありました。そのような時代を脱却しつつある今、一人ひとりにキャリア形成の道を切り拓いてもらうことが、最も重要な課題であると認識しています」と述べ、具体的な取り組みの一つとして、大学院生対象の『自己力向上支援プログラム』を紹介されました。また、「入学前の段階から、いかに大学院を活用し、どのような道に進むのかをデザインすることが大切」とした上で、人



社系大学院生向けキャリア支援である『キャリアデザイン演習』についても触れ、「入学直前の3月に、社会で必要な基礎的能力をどのように身につけるかの計画を立て、10・11月には、その能力を就職活動で活用する方法を考えるという、大学院生活の流れに即した体系的なプログラムとなっています」と解説されました。

続いて、グローバル化の時代にふさわしいキャンパスの国際化について説明されました。学部も含め、外国人留学生数

は約1150名。全国で14位、私立大学では6位を誇ります。「進学後すぐに国際交流のできる環境を整えています」と語られ、在学中に海外の学位を取得できるDMDP(デュアル・ディグリー・プログラム)をはじめとする留学支援プログラムについて説明。その後、全国トップクラスの奨学金にも話は及びました。

最後に、「希望する研究科が、自分の関心やキャリアプランに合っているかを確認し、心を定めて進学してほしい」と強調。「人間は成長します。進学後に視野が広がり、研究領域を変える可能性もあるでしょう。その時には大学院全体で、その『第2の気づき』を支援していきたいと考えています」と結ばれました。



VOICE

スポーツ健康科学研究科
博士課程前期課程2回生

中塚 惇 さん

専攻はトレーニング科学。研究室で開発した特殊なトレーニング装置を用いて、トレーニング効果の検証を行っています。学部時代は、トレーナーやコーチといった進路しか思い描けずいましたが、大学院進学を検討する中で「健康」というキーワードを見出すことができました。進学後の研究を通して、興味の幅や将来の選択肢がどんどん広がっていくのを実感しています。今年、医療機器を扱う会社から内定をいただくこともできました。



VOICE

経済学研究科
博士課程前期課程1回生

小田 巻 友子 さん

専門分野を極めたいと思い、4回生の春に進学を決意。経済理論・政策コースで、ワークライフバランスの改善につながる支援やその運営方法など、地域企業福祉のあるべき姿を探究しています。大学院生の約半数が留学生なので、第一公用語は英語。日々各国の経済や考え方の違いなどについて英語で議論し、刺激を受けています。目標は、福祉分野に貢献すること。公務員や研究職、後期課程への進学も視野に入れ、進路を決めたいと考えています。



VOICE

経営学研究科
博士課程前期課程1回生

安藤 拓生 さん

3回生の秋、将来のビジョンを描けずにいた私は就職活動を中断し、ゼミの先生のプロジェクトに参加。そこで出会った学問が、「デザインの知」を戦略的に活用する「デザインマネジメント」でした。研究者や起業家との交流を通じて「この分野の研究を仕事にしたい」と考えるようになり、大学院に進学。後期課程にも進むつもりです。学部が「知る」学びなら、大学院は「深める」学び。国際性・多様性に富んだ環境も魅力だと思います。





〈理系大学院〉



2011年度に情報理工学部と生命科学部が完成年度を迎え、2012年4月、それぞれ独立した研究科が設置されたことにより、理系大学院は、理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科の4研究科となりました。

説明会ではまず、特に前期課程における大きな教学目標となっている、社会で活躍するための知識・スキルの育成について語られました。登壇した市木敦之教育学部副部長より、社会から理系の学生に望まれる素養として、『科学技術に関わる素養』、『専門分野の学識』、『主体的に問題

を解決する力』、『コミュニケーション力』が挙げられ、「とりわけ鍛えられるのが、『主体的に解決する能力』です。これは、問題を発見し、解決策を考え実行し、その結果を評価するプロセスを繰り返すことで身につくもの。実験、ゼミ、学外での研究発表などを通して着実に養われていきます。その他、プロジェクト遂行能力、マネジメント能力、プレゼンテーション能力なども培われます」と解説されました。加えて、大学院生の研究活動やキャリアパスにつながる能力・スキルの養成を目的に、『自己力向上支援プログラム』も実施していることが報告されました。

次いで、「国際感覚を身につけてもらうこと」も目標に掲げられました。「大学院全体の留学生比率は、前期課程で約12%、後期課程で約22%です。理系ではさらに比率が高くなります」と、国際色豊かな環境について説明。また、大学院のもう一つの特色として、入学者数の半数ほどが利用しているという多彩な奨学金制度についても触れられました。

就職に関しては、「大企業、特にメーカーにおいて、就職者数・就職率とも大学院卒が学部卒を上回っていることに加え、中央省庁でも、大学院卒を主体に採用する傾向がでてきました。国家公務員

総合職(旧国家I種)試験では、今年度から院卒者の区分が設けられました。採用も、その後のキャリアも、学部卒と大学院卒が区別される時代になりつつあると言えるでしょう」と、大学院進学必要性が高まっている現状が語られました。



VOICE

テクノロジー・マネジメント研究科
博士課程前期課程2回生
みずほ情報総研株式会社 内定

小 基弘 さん

本学に入学した当初から大学院進学を考えていました。知能情報学科で人型ロボットの研究をする中で、どのようにすれば技術が世の中に普及し、人々の生活に役立つのかに関心を持つようになり、本研究科を志望しました。進学後は「電子政府・電子自治体のITリスク」というテーマに取り組んでいます。留学生や社会人学生に加え、文系・理系両方の学生と多様な議論ができるのが、本学科の魅力でしょう。就職活動を本格化させたのは2月から。企業別説明会は20社程度、選考を受けたのは10社程度と少なめでしたが、一番に第一志望から内定をいただき、早く終えることができました。IT技術を生かし、金融機関向けシステムを開発することを通して世の中に貢献できればと思っています。



VOICE

理工学研究科
博士課程前期課程2回生
株式会社東芝 内定

迫田 翔悟 さん

3回生の頃、就職か進学か、熟考しました。進学したのは「挑戦」するためです。失敗してこそ学べるものがたくさんある、その経験を掴み取ろうという思いで決意しました。大学院では、機械工学におけるカオス理論の応用について研究。自分の責任で行動する経験を積み重ねることを重視して過ごしてきました。スイスの大学への留学もその一つです。約3ヵ月間、アパートを借りて一人で生活。研究においても、人間としても成長できたかなと感じています。また、外から日本を見て、「日本をどこに行っても胸を張れるような国にしたい、その一助になりたい」という気持ちが高まりました。就職先は大手メーカー。機械工学の専門知識と、大学院で培ったチャンスを掴み取る力を活用し、自分で決めた道をまい進します。



留学説明会

いまや国内企業で働く上でも「国際感覚」は不可欠となっています。留学説明会では、そうした社会の実情を解説した上で、立命館大学の留学制度を紹介。短期から長期にわたる多様なプログラムのほか、事前ガイダンスや留学中のサポート、留学後のフォロー体制の充実ぶり、さらには留学に際する心構えや準備の必要性についても説明されました。

海外経験を通じて培う 多様な力が社会で求められる

留学の意義を語るにあたって、堀江未来国際教育推進機構准教授・国際部副部長はまず、今社会で求められる人材として、「主体的に物事を考え、多様な価値観や文化的背景を持つ人と理解し合いながら、新しい価値を生み出すことのできる人」と紹介。学生時代の長期的な海外経験と通じて、さまざまな困難にぶつかり、それを克服する中で身につく力こそが必要とされていると説きました。

異文化環境で主体的に学び、生活する中で培われるスキルとして挙げられたのは、「多様な文化、価値観や行動様式を理解し適応する力」「主体的に考える力」「互いの強みを引き出し、相乗効果を生み出す力」、そして「外国語運用能力」です。「事実、立命館大学でも留学経験者の就職率は、一般学生より高い」ことが明かされました。

留学をより意義深いものにするためには、事前の準備が不可欠です。「留学の目的を具体的に考えてください。家族とよく話し合い、自分自身について知ることでも大切です」と強調され、さらには留学後も学習を継続することが、いっそう力を

伸ばすことにつながると説明されました。最後は、故スティーブ・ジョブズ氏がスタンフォード大学卒業式で行ったスピーチとともに、「国際的視野で『自分を創る』4年間を送ってください」と締めくくられました。



奨学金制度を新設し 留学支援体制をさらに充実

続いて、国際教育センターから、留学プログラムについて具体的に説明されました。留学派遣先は、現在25カ国・地域以上、123大学・機関に及びます。留学プログラムも、2～7週間の短期から、1セメスター程度の中期、そして1、2年以上にわたる長期のものまで多様に揃っています。「イニシエーション型(初級)、モチベーション向上型(中級)、アドバンスト型(上級)と、自分のレベルや希望に応じて留学

プログラムを選んでください」と述べられました。

「立命館大学の留学制度は、プログラムだけでなく、サポートの手厚さが特長です」とも解説されました。保険や日本語での24時間対応サービスを提供するほか、渡航前にさまざまなガイダンスを実施し、危機管理や健康管理についてのアドバイスを実施。さらには留学アドバイザー制度を設け、留学経験者が留学中の学びや生活、注意点などを具体的にアドバイスすることも功を奏しています。

さらに今年度、留学希望者を支援するため、既存の奨学金に加え「経済支援奨学金制度」を新設。家計の状況などから留学が困難な学生の支援をスタート。「こうした支援制度を上手に利用し、ぜひ留学に挑戦してください」と結ばれました。



VOICE

オーストラリア・シドニー大学 交換留学、海外スタディ 国際連合訪問
国際関係学部3回生

松末 洋輔 さん

政治学に関心を持っています。留学を考えたのは、英語力を伸ばしたいという思いに加え、広島県出身者として原爆について海外の視点から学びたいと思ったからです。留学先の大学で取得した単位は立命館大学でも認められるので、単位を落とさないようがんばりました。とはいえ、大学で学ぶ内容を英語で理解するのは、想像以上に大変でした。分厚い英語の教科書を読み、徹夜で長い英語の論文を書く毎日。英語と格闘した分だけ、語学力は伸びたと実感します。また国も価値観も異なるさまざまな人との出会いを通じて、自分自身をより深く知ることができました。留学にあたっては、両親の後押しが非常に心強かったです。「行きたいなら行きなさい」と、金銭的、精神的に支えてくれたことに感謝しています。



VOICE

カナダ・オカナガンカレッジ 異文化理解セミナー、スペイン・グラナダ大学 交換留学
国際関係学部4回生

高橋 小夜子 さん

それまで一度も「英語だけ」という環境に身を置いたことがなかった私は、「英語を勉強したい」という一念で、カナダ・オカナガンカレッジでの異文化理解セミナーに参加しました。現地では、英語の授業のほか、カナダの習慣や文化を学ぶ授業を受講。1ヵ月で語学力が急激に伸びることはありません。けれど「ホストファミリーにその日のできごとを伝えたい!」という気持ちから、積極的に話す姿勢が身についたことが、後に語学力を伸ばす原動力になりました。短期間でも、異文化に直接触れることで大きく視野が広がり、世界がより身近に感じられるように。また初めて親元を離れ、家族の大切さにも改めて気づかされました。この経験を基礎に、翌年にグラナダ大学の交換留学を実現。スペイン語でさらに将来が広がると実感しています。



立命館大学では、正課以外においても学びをサポートする体制が充実しています。英語をはじめとするさまざまな外国語の講座を提供するCLA(言語習得センター)、公務員試験合格や各種難関国家資格取得をバックアップするエクステンションセンターの特長が紹介されました。

〈CLA講座〉

冒頭で「英語を社内公用語とする日本企業、会議で英語を使用する企業、TOEIC® 730以上を新卒採用の条件とする企業が登場している」など、就職における英語力の重要性が述べられた後、CLA(言語習得センター)の目的や特長について説明されました。CLAは「正課の授業プラスα」として、英語をはじめ、ドイツ語、フランス語といった初修外国語の講座を開講しています。学生の語学レベルや、留学や将来の進路といった目的に応じたクラスを用意しています。「講座は、企業の語学研修や教育機関で授業を行なう経験豊かな講師陣が担当、キャンパス内で受講できるため、空き時間を有効活用できます。また外部の講座と比べて非常に安価であることも大きな特長です」と解説されました。

また、外国語教員が常駐する『外国語コミュニケーションルーム』についても紹

介されました。日々の授業に関する質問や学習相談、学生同士で自主的な語学学習を行う場となっており、すべての学生が自由に利用することができます。さらに、本学学生が無料で利用できるインターネット自学自習教材『ぎゅっとe』についても紹介されました。「半年で平均40点ほどアップするという報告がありますし、繰り返しやることで800点をマークした学生もいます。ぜひ活用してください」と勧められました。



VOICE

理工学部4年生

大矢 綾香 さん

海外の大学院への進学を志望しています。出願の際にTOEFL®のスコアが要求されるため、3回生後期の約3ヵ月間、TOEFL®講座を受講しました。専門分野の課題やサークル活動もあったので大変でしたが、道具の一つである英語をがんばるのだから、専門科目もしっかり取り組もうという意識が芽生え、学びに対する姿勢が大きく変化。結果、志望する大学院が要求する最低ラインをクリアでき、TOEIC®のスコアも大幅に上げることができました。



〈エクステンション講座〉

国家公務員総合職、公認会計士、司法の難関分野の試験に備える講座をはじめ、各種資格取得やスキルアップ、就職を支援する講座など、25以上の講座を学内で開講しているエクステンションセンター。他の専門学校よりも安価な価格設定、大学の試験期間中は開講しないなど大学生活に配慮したスケジュールを組んでいます。

「近年は公務員試験でも人間力などを重視する傾向にあるため、個別面談や集団討論会を行うなど、面接対策も充実さ



せています。また難関分野では、現役で活躍されている方から話を聴く機会など、モチベーションを高める企画も充実しています」と、きめ細かなサポートが説明されました。

続いて、2011年度の実績を報告。公務員試験では、国家Ⅰ種合格23名、国家Ⅱ種合格146名と、私立大学の中でもトップクラスの合格率をマーク。公認会計士試験合格者は52名(「公認会計士三田会」調べ)で、関西1位を誇ります。また、新司法試験が始まってから6年間の合格者数合計は295名で、全国10位という高い実績を残しています。

「大切なのは、なぜ資格を取得したいのか、その資格をどのような場面で活かしたいのかを明確にすることです。そのことを踏まえ、ぜひ親子で話し合う機会を持ってください」と述べられました。

VOICE

滋賀県東近江土木事務所勤務
2012年3月経済学部卒業

小澤 浩喜 さん

現在、経理用地課で、公共事業用地の取得やその際の損失補償事務に携わっています。「公務員講座」の受講は3回生春から。試験で課される全科目を受けました。講義内容は必ずその日に復習し、知識を体系的に整理するスタイルを徹底したことで、面接前に何度も模擬面接をしてもらったことが採用につながったと感じています。講座の仲間は、競い合ったり、一緒に遊んでリフレッシュしたりと、長い受験勉強期間を乗り切る大きな力になりました。



衣笠

キャンパスツアー

学生のナビゲーターに案内されながら、衣笠キャンパスを巡り、キャンパス内の施設を見学するキャンパスツアー。学部棟をはじめ、図書館や体育館、学生会館、言語習得センター（CLA）といった施設の解説だけでなく、ナビゲーターの学生生活のエピソードなども語られ、大学生生活を垣間見る絶好の機会となりました。



学生生活を垣間見ながら 衣笠キャンパスを一巡

キャンパスツアーでは、学生のキャンパスナビゲーターの案内のもと、衣笠キャンパスの各施設を巡りました。

最初に訪れたのは、正門を入ってすぐ東側にある末川記念館です。故末川 博名誉総長の偉業を讃えるとともに、その精神を継承する施設として、1983年に建設されました。「ふだんは私たち学生も、あまり足を踏み入れません」と言うキャンパスナビゲーターと一緒に厳かな雰囲気の中に足を踏み入れた一行。京都地方裁判所から移設され、昭和初期の陪審制を今に伝える「松本記念ホール陪審法廷」を見学しました。

続いて、第一体育館からクラブ・課外活動のために使われている学生会館へ。体育館の前で、縄跳び競技「ダブルダッチ」の練習に励む学生を横目に、キャンパスナビゲーターが、「たくさんのクラブや同好会が、学生会館を拠点に活動しています。私もアカベラサークルに入っています」などと自身の学生生活についても触れながら、解説しました。

時計台がシンボリックな法学部棟（存心館）や国際関係学部の学生が学ぶ恒心館、文学部の学生が学ぶ清心館といった学部棟のほか、1000人規模の学生を収容できる大教室のある明学館、TOEFL® や TOEIC® 講座の開講など、語学習得にかかわるプログラムや情報を揃える言語習得センター（CLA）、書籍だけでなく、パソコンルームを備え、調べものや試験勉強にも使われる図書館などを見学。ご父母は、ナビゲーターの話聞きながら、各施設を興味深く見入っていました。

キャンパスを歩きながら、ふだんはうかがい知れないリアルな大学生活を垣間見られるのが、キャンパスツアーのいいところです。ご父母はキャンパスナビゲーターの話から、ご自身のお子さんの学生生活にも思いを馳せておられました。途中、しばらくベンチに腰を下ろし、キャンパスナビゲーターへの「質問タイム」も設けられました。ご父母からは、「学生は主にどこでアルバイトをしていますか？」「授業の空き時間には何をしていますの？」「他学部や他大学の学生さんと交流する機会がありますか？」など、さまざまな質問が投げかけられました。「京都市内

のコンビニや飲食店でアルバイトしている友達が多いですね。また大学内のカフェやサンドウィッチショップ“SUBWAY”で、授業の空き時間を有効利用してアルバイトしている学生もいます」、「アカベラサークルの活動を通じて、他学部はもちろん、他大学にもたくさんの友達ができました」などのリアルな回答に、熱心に耳を傾けたご父母。キャンパスツアーがお子さんの大学生活を知る絶好の機会となったようでした。

[キャンパスナビゲーター]

産業社会学部2年生
井上 由貴奈 さん



アカベラサークルで活動しながら、オープンキャンパススタッフやオリターとしても活躍する井上さん。「キャンパスナビゲーターに挑戦するのは今日が初めて」と、最初は緊張しながらも、「授業と授業の間の空いている時間を有効利用してさまざまな活動を両立させています」「学生生活を充実させるのは自分次第です」など、学生ならではの視点から、ご父母の問いに明るく答えていました。



教職説明会

1993年に全国に先駆けて「教職支援センター」を設立するなど、教員の養成において早くからサポート体制を確立している立命館大学。教職教育総合センターの副センター長を務める大友智教授と、BKC教職支援センターの塩貝光生講師より、本学の教職課程の特徴、近年の教員採用試験の動向について解説されました。



た経歴を示すことが必須です」と、現在の教員採用試験の動向について説明がなされました。

また、近年の採用状況に関しては、このような話もありました。

「平均倍率は、どんどん下がり、有利になっています。平成12、13年度の倍率が14倍だったのと比較すると、現在は6倍程度。門戸が広がる傾向は、今後数年も変わらないと見込んでいます」。

しかしこの傾向は、地域差が極めて大きいことが近年の特徴であり、都道府県別に見ると、大都市圏での倍率は低く、地方府県ほど高くなります。「大都市では教員の入れ替わりも激しいため、多く採用する傾向があります。志望する地域によって倍率が異なることも視野に入れ、志望都道府県を選択することも必要です。さらに教科によっても差があります。保健体育は非常に倍率が高いですが、理科・数学はどの府県も人材不足なのが現状です。とりわけ理数系学部の志望者にとっては朗報です」と、分析されました。

最後に、数多くの教員志望者を支えてきた立場から、「本学内で調査したデータを見ると、入学前から教師を志望していたの方が合格率は高くなっています。教員採用試験のための勉強を始める時期としては、3年生からが圧倒的ですが、早い段階で決断し、準備を始めるほど、希望の進路をつかむ可能性も高まります」と、アドバイスがありました。

教育現場での体験実習など 教員になるための 自主的な経験が求められる

教員に対する様々な期待や資質能力が求められる中、本学の教職課程では〈高い専門的力量〉、〈子ども（人間）理解力〉、〈伝える力（＝実践力）〉を有する教員の養成を目標とし、カリキュラム改革や特色ある取り組みなどを行っています。そのような本学ならではの教職課程について、大友教授より説明がなされました。

本学では、現実の教育現場で力を発揮できる人材を育てることに主眼を置いています。4年間を通して学ぶ必修科目はもちろん重要ですが、大友教授が特に強調したのは、希望選択科目の重要性です。「『学校実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』は、選択科目ですが、ぜひ多くの学生に履修してほしいものです。これらはインターンシップで学校に出向き、授業の補助や部活のお手伝いなどを通じて生徒達と触れ合うなど、実践を通じた学びです。その経験は、まさに“発見”の連続。理論や専門知識は大学で学ぶことができますが、実体験は現場でしか培えません」と語られました。

こうした体験を通じた学びを積んでおくことは、教員採用試験においても有利になります。

その他、教員免許状取得までの4年間の流れ、本学で取得できる教員免許状、

教員採用試験の内容について、わかりやすく説明されました。

また立命館大学ならではのサポートシステムである「教職支援センター」についても紹介されました。「教職支援センターのスタッフは小中高校の教員歴を持ち、教育現場に精通した人ばかりです。小論文、面接、模擬授業の個別指導なども行いますので、うまく活用してほしいですね」と、述べられました。

地域差はあるものの 門戸が広がりつつある 教員への道

続いて、教職支援センターの塩貝講師から、「7月に1次試験（筆記・面接）、8月に2次試験（面接・模擬授業・実技）が行われます。最近の1次試験の傾向として面接に、より重点が置かれる傾向があります。つまり、しっかり人を見るということ。かなり突っ込んだ質問も出されますので、中途半端な思いではポロが出ます。教師になるための確固とした軸を持ち、そのためにがんばってき



アカデミック講演会

衣笠キャンパスでは、「大学での学び・体験と自己形成—青年期と保護者の役割」をテーマに、アカデミック講演会が開かれました。臨床教育学を専門にする春日井敏之文学部教授から、現代社会の課題、青年期の発達、キャリア形成、親の役割などについて熱く語られました。



現代社会の課題が生む 青年の生きづらさ

本学の学友会が最近行った新入生アンケートを見ると、「大学でやりたいこと、望むことは何ですか?」という問いに対して、「学部専門の学び」「幅広い学び」「自分の生き方を考える」「人との出会い」という回答が、上位に並んでいます。専門分野と幅広い教養分野を通じた学びが、教員や友人との出会いの中でさらに深まり、自分の生き方にまでつながる。立命館大学における出会いや学びを、こうした学生たちの期待に応えるものにしていきたいと考えています。

現代は、多くの青年に大学で学ぶ機会が与えられるようになった一方、青年期の出口で待ち受けているのは、就職難や非正規雇用層の増加という厳しい社会状況です。そして、そのことが不安や葛藤を共有できず、自分を責めながら孤立感を深める青年の生きづらさを生み出しています。

社会や他者とのかかわりを通して 自己を形成する

現代の青年が見せる友人への過剰な気づかいの背景には、「自分が傷つきたくない」という自己防衛と、「他人に迷惑をかけてはいけない」という相手とかかわる

ことに対する躊躇があります。その一方で、「誰かに聞いてほしい」「わかってほしい」という願いも強くなっています。もちろん学生の多くは、ゼミやサークル、アルバイトなどを通して、学内外に居場所を得て、多くの人とのつながりを実感しながら生きていますが、思春期・青年期葛藤と親和性の高いインターネットの世界に居場所を求める青年も増えています。

子どもは、「スキンシップを含めた身体的なかかわり」(乳幼児期)、「遊ぶことと働くことを通したかかわり」(学童期)、「負の感情・体験、葛藤が出せるかかわり」(思春期・青年期)、「聴く、聴いてもらうというかかわり」(思春期・青年期)を通して自分と出会い直し、他者とつながっていきます。つまり青年期に至るまでの発達・成長とは、他者とのかかわりの中でつながりを実感し、自己形成していく人間的な営みなのです。

次に青年期に直面する現実的なテーマが、社会的自立です。これは、ある到達点を示すのではなく、社会とつながって自分を生きるプロセスと言えます。青年も私たちも、この人生のプロセスの途上にあるのです。この時期の大きな課題は、「社会や他者とつながって生きる力の育成」と「人生の主人公となる自己形成」です。したがって、大学生活においても、学びや体験を自分の人生の中に意味づけることや、出会った他者に自分の言葉で思いを伝えながら、他者や社会とつながっていくことが大切です。



なりた自分になるために 必要な「ゆらぎ」

就職活動の早期化などで苦勞しているゼミ生や受講生たちに向かって、意識的に話すことがあります。それは、「『どう生きるか』という幹があれば、どこに行っても通用する」「第一希望がすべて叶う人生などない」「職業適性は与えられた仕事を通して育つ」などです。

社会とつながって生きようとするとき、多くの青年が、「自分が何に向いているのかわからない」「何がしたいのか決められない」と悩みます。こうした「ゆらぎ」は、自分の人生を創造したいと願う時、誰しもが当たり前前に経験することです。大学生になった今、この「ゆらぎ」に直面するという事は、逆に言えば、それまで「何のために働き、生きるのか」「本当にしたいことは何なのか」を、家族や教師、友人と問い合うことが少なかった結果ではないでしょうか。

「なりた自分になるために」とよく言いますが、現実には、やりたいことを仕事にして生活も成り立つケースは稀です。なりた自分も変わります。そんな中で「より良く生きたい」と願うからこ

そ、人は葛藤を抱えます。そして、人生の挫折や失敗をしのいで生きる中に、新たな出会いや成長があるのです。父母の皆さんが、わが子にできるキャリア教育は、挫折や葛藤に満ちた自分の人生をどうしのいで生きてきたのか、リアルに語っていくことではないでしょうか。

BKCでは、加齢による筋量・筋機能低下(サルコペニア)を研究している真田樹義スポーツ健康科学部教授がアカデミック講演会を実施。運動不足が引き起こす肥満や筋機能低下を防ぐため、「中高年期の健康的で美しい体づくり」について述べられました。

寿命と肥満に関わる 運動不足を改善する

WHO(世界保健機関)が発表した「健康を脅かすリスク」におけるランキングによると、1位高血圧、2位喫煙、3位高血糖であり、5位の肥満を押しよけて4位には「運動不足」が挙げられています。高血圧や高血糖には薬が有効ですが、運動不足には薬はありません。つまり運動をすること自体が薬であり、寿命に関係しているのです。

日本人の死因を見ると、ガン、心臓病が上位を占めます。中でも血管系の病気が大きなウェイトを占め、たどっていくと「肥満」が大きな原因となっています。肥満細胞が肥大することで血糖コントロールができなくなり、血管に異常が起りやすく(動脈硬化)、心筋梗塞や脳梗塞にもつながります。つまり、運動不足と肥満を改善することが健康のために重要なのです。近年の日本の健康づくりの施策としても、「一に運動、二に食事、しっかり禁煙、最後に薬」をキャッチフレーズに進められています。

生活活動をアップして 小間切れの運動を取り入れる

体を動かす身体活動とは、「運動」と「生活活動」に分けられます。運動とは、余暇



に目的を持って行われるもので、ゴルフやジョギングなどのエクササイズです。これら運動に参加している人は増える傾向にあります。一方で生活活動は減っています。生活活動とは、日常生活を営む上で必要な行動や家事のこと。買い物、犬の散歩、通勤、家の掃除などが挙げられます。これら日常の活動レベルをいかに上げるかが重要で、そこに運動を取り入れれば、肥満改善に大きな意味を果たします。

2006年に厚生労働省が発表した資料では、「1日に8000歩以上歩く」ことが大切とされています。早歩き(速歩)なら一週間で60分。これが近年の健康作りのための運動基準です。メタボ改善のためには、一週間で150分の速歩が必要。また、昔は「運動を20分続けないと脂肪が燃えない」と言われましたが、最近は小間切れの運動でも効果があると言われています。5分間の

運動を一日に3回、4回…としてもいい訳です。つまり、1回30分の速歩を週5回取り入れれば、理想の健康体に近づきます。

ちなみに、減量には望ましいペースがあります。1ヶ月で-1kgがベスト。多くても-2kgまでに留めましょう。1ヶ月1kg減らすには、1日240kcalの減量が必要です。ただ、食事だけで減量すると体に必要な筋肉を減らし、基礎代謝が減ることで太りやすい体になるのでおすすめしません。食事7:運動3くらいの割合がベストだと思われます。缶コーヒー1本分くらいを食事で減量し、30分歩行を1日1回取り入れることで、1ヶ月-1kgをめざすと良いでしょう。

週2回の筋トレで サルコペニアを予防する

私は本学で、サルコペニア(加齢と共に筋肉量が減少すること)の研究をしています。サルコペニアは特に40代から顕著に現れ、つまづきやすくなったり、階段の上り下りがきつくなります。サルコペニアの原因は、一番に運動不足。筋トレをすることでサルコペニアの進行を遅らせることができますから、自宅で簡単にできる筋トレを週2回程度行うのが理想です。

男女とも、腹部と大腿の筋肉が特に減りやすいというデータがあるので、腹筋運動とスクワットを中心に行うことをおすすめします。1セット15~20回を1日1セット、慣れてきたら3セットを行きましょう。腹筋運動は、仰向けに寝たまま膝を曲げて、20cmほど頭と肩を持ち上げるような感じで十分です。筋肉を維持することは、肥満にもサルコペニア対策にも大きな意味を持ちますから、ぜひ日常に筋トレを取り入れていただきたいと思っています。



学生生活講演会

「充実した学生生活をサポートする本学の制度」と題して、本学の特色ある学生支援制度や、正課・課外を通して身につく力についての講演がありました。後半は、3名の学生を交えて座談会が行われ、課外活動における成長や学業との両立、親のサポートについて紹介されました。

正課・課外の両方で バランス良く成長する

日高勝之学生部副部長は、本学の特色ある学生支援制度「ピア・サポート」について、「ピア・サポートは学生同士が支え合う活動です。中でも新入生の小集団クラスで、上回生が大学での学びや学生生活の相談に応じるオリター制度は、自発的で伝統的な活動です」と説明しました。

本学では正課と同様に課外活動での成長を重視しています。卒業時の学生アンケートで、「大学生活での成長に影響を与

えたもの」に対する回答は、上位から「卒業論」「課外活動」「友人との交流」でした。また、正課では、「幅広い教養」「専門知識」「論理的思考力」が身についたと回答する



一方、課外活動では、「対人コミュニケーション力」が抜きん出て1位だったことから、「正課と課外の両方から学ぶことで、バランスのとれた幅広い成長ができます」と解説。企業の面接で最も重視されるのもコミュニケーション力というアンケート結果から、「正課で良い成績をおさめても、それだけで企業から高い評価を得ることは難しい」と、分析されました。

続いて、予算19億円の奨学金制度や、臨床心理士がいる学生サポートルームが紹介され、最後に学生支援制度の利用が呼びかけられました。

〈パネルディスカッション〉



学生部副部長
産業社会学部

日高 勝之 教授



映像学部2回生
映画制作サークルNTKS所属

柴田 クマールアージュン さん



文学部3回生
混声合唱団メディックス所属

岡本 佳子 さん



産業社会学部4回生
2010年度産業社会学部自治会副委員長

中原 大智 さん

勉強と課外活動の両立は可能か

中原 私は産業社会学部自治会で副委員長を務めました。2人の所属団体での活動を教えてください。

岡本 混声合唱団メディックスで指揮者をしています。練習は週3回で、学内外で演奏会を開いたり、他大学との交流演奏会もあります。

柴田 私は映画制作サークルNTKSに所属しています。入学前はテレビ番組の制作に興味がありましたが、入学後に映画制作の面白さに目覚めました。

中原 課外活動を通して成長したことはありますか。

岡本 指揮者の一挙一動が演奏に影響するので、自分の行動に責任を持つようになりました。

柴田 映画一本を作るのは大変。壁にぶつかりながら、日々成長しています。

中原 どんな勉強をしているのか紹介してください。

岡本 万葉集の読解に取り組み、中でも柿本人麻呂の歌を研究しています。

柴田 映像学部では映像制作が必修です。1回

生で機材の使い方や編集技術を学び、2回生で短編作品を制作します。

中原 忙しいと思いますが、勉強との両立はできますか。

岡本 なんとかやっています。

柴田 私の場合はサークル活動が将来にもつながると思います、がんばっています。

中原 私も自治会活動と同じくらい、勉強にも力を注いできました。3回生では論文が表彰されました。

日高 やはり正課あつての課外活動です。学業をおろそかにしては本末転倒ですね。

親への相談・連絡について

中原 2人とも下宿生ですが、ご両親に連絡していますか。

岡本 私がゼミやサークルで忙しいのを知っているので、親はほとんど連絡してきません。その代わりに、時折必要なものを送ってくれるのがありがたいですね。

柴田 私も食料品を送ってもらおうと電話

をかけたりはしません。

中原 2、3回生だと友達や先輩に相談することが多いですね。

柴田 親には生活面の相談はしても、将来のことは友達や先輩に相談します。

中原 でも、本当に辛かったり、困った時は親に相談するようになりますよ。経験上、就職活動中などにうまくフォローしてくれるのが親の役割かなと思いました。

岡本 確かに。教職課程で科目が増えたのを悩んで親に相談し、背中を押してもらった時は、心強かったです。

中原 今後はどうしていきたいですか。

岡本 まずは指揮者としての責任をまっとうし、充実して合唱団生活を締めくくりたいです。勉強も単位を落とさないようがんばります。

柴田 もっと映像技術を身につけて、たくさんの作品を作り、認めてもらいたい。将来も映画制作に携わりたいです。

中原 私は納得できる進路を決めて、学業の集大成である卒業論文に取り組みたいと思っています。

学生生活講演会

BKCでは、前半は「充実した学生生活をサポートする本学の制度」というテーマで、種子田穰学生部長（スポーツ健康科学部教授）が講演しました。後半は、課外自主活動に力を注ぐ4名の学生たちが登場。どんな思いで学生生活を送っているのか、自らの経験を語ってくれました。

コミュニケーションを重視した 学生生活サポート体制について

本学では、学生が素晴らしい学生生活を送るためのサポート体制に事欠きません。そのひとつが、課外自主活動の支援です。種子田教授より、「正課に力を入れることは大前提ですが、課外自主活動を通じて、学生たちはより多くの力を身につけます。正課では幅広い教養や専門知識が得られ、課外活動ではコミュニケーション力、協調性、チャレンジ精神など、社会で求められる力が得られるのです。

〈パネルディスカッション〉

学生同士の学びや自主性を大切にしつつ、適切な支援を行うことが私たちの役割だと考えます」と、課外自主活動の重要性も述べられました。

また、学生同士の相互支援システムについても紹介されました。「本学ではピア・サポート活動と称し、オリターと呼ばれる学生スタッフが、自分たちの経験を踏まえて新入生の学生生活全般をサポートしています。学業面では、ES (Educational Supporter) と呼ばれる教育サポーターも存在。ESになれるのは高い学力を有する選抜学生のみで、教員や



学生をサポートし、より効率的な学習効果を生み出しています」と、種子田教授。就職活動の支援についても話が及び、日本一の就職部と評価される「キャリアセンター」による全面的なサポートシステムについて紹介されました。



学生部長
スポーツ健康科学部
種子田 穰 教授



経営学部4回生
ダブルダッチサークル“Fusion of Gambit”所属
中島 直人 さん



経済学部4回生
オリター、震災ボランティア
畠中 美咲 さん



理工学部4回生
女子陸上競技部（長距離走）所属
砂川 侑紀 さん



理工学部3回生
ロボット技術研究会所属
川端 健太郎 さん

課外自主活動を通じて 人間性も心も成長する

種子田 課外自主活動の分野で頑張ってきた学生の皆さんから生の声を聞いてみたいと思います。どんな活動をしてきたのでしょうか？

中島 ダブルダッチというスポーツのサークルに所属し、世界大会出場を目指して練習を重ねてきました。2回生までは結果が出なかったのですが、ついに3回生の時、世界大会2位の成果を得ることができました。また、地域での普及活動にも力を入れています。

畠中 私はオリターとして、新入生の悩みや不安を解決できるよう日々活動しています。特に思い出深いのは、3カ月間にわたって大変な思いで準備を重ねた新入生のための企画です。成功した瞬間は、涙を流すほど感動したのを覚えています。また、東日本大震災で、仮設住宅に住む人々の心のケアをするボランティアとしても活動しています。

砂川 私は陸上競技部での全国大会優勝を目指し、長距離走にずっと取り組んできました。寮生活で陸上漬けの毎日を送ったにも関わらず2

連敗…。悔しい思いをしましたが、ついに昨年、優勝することができたんです。

川端 現在50人弱のメンバーがいる「ロボット技術研究会」の会長を務めています。個性豊かなメンバーを引っ張っていくのは大変ですが、充実感がありますね！今は、「NHK大学ロボコン」への出場が決定したので、毎日必死にロボット制作に取り組んでいます。

正課と課外活動との充実 本当に実りある学生生活とは？

種子田 なるほど、皆さんイキイキと学生生活を送っている印象ですが、課外自主活動の上で何か困ったことはありませんか？

川端 やはり勉強との両立は大変です。そういう意味でも、友達と励まし合いながら勉強するピア・サポートの必要性を痛感しています。おかげで、落とした単位はゼロです！

砂川 私も、文武両道が一番大変でしょうか。体育会クラブは週6日も練習があって、平日は朝と午後の2部練習。時間をうまく使わないと勉強できませんが、メリハリをつけた生活にす

れば両立できると実感しています。

種子田 では、就職活動も経験している4回生の皆さんは、どんな学生生活を送ることが大事だと考えますか？

中島 4年間は長いようで短いです。いろんなことに挑戦するのもいいけれど、ひとつのことを頑張り続ける、そのプロセスや結果が大事だと思います。

畠中 何となく過ごしていたら、大学生活はあっという間に終わります。振り返った時に何か残るよう、いろんなことにチャレンジして、自分から動いていかないとダメだと思います。

砂川 やはり目標を持って過ごすことですね。めいっぱい熱中できることが、ひとつでもあるといいと思います。

種子田 では、いつもサポートしてくれる保護者の方に何かメッセージはありますか？

川端 お世辞抜きで、立命館大学は素晴らしい大学だと思います。いろいろ心配事はあると思いますが、実際に手を出すのではなく、陰ながら支えてもらえれば嬉しいなと思います。

データに見る学生実態

—学生の学びと成長を支える奨学金—



本学では、多くの学生が日本学生支援機構奨学金（旧日本育英会奨学金）をはじめとする学外奨学金や本学独自の奨学金を受給しながら学生生活を送っています。

最も受給者数が多く、本学学生の3人に1人が受給しているのが国の奨学事業である日本学生支援機構奨学金です。この奨学金は経済援助を基本とした貸与制の奨学金となっており、第一種奨学金（無利子）、第二種奨学金（有利子）があります。

本学では、経済支援・成長支援の2つの側面から独自の奨学金制度を充実させるとともに、学生・父母の学費等の負担を軽減するため、大学全体として、公費助成連絡会等を中心に、私立大学の財政的負担の軽減や国の奨学事業充実のための取り組みを進めています。

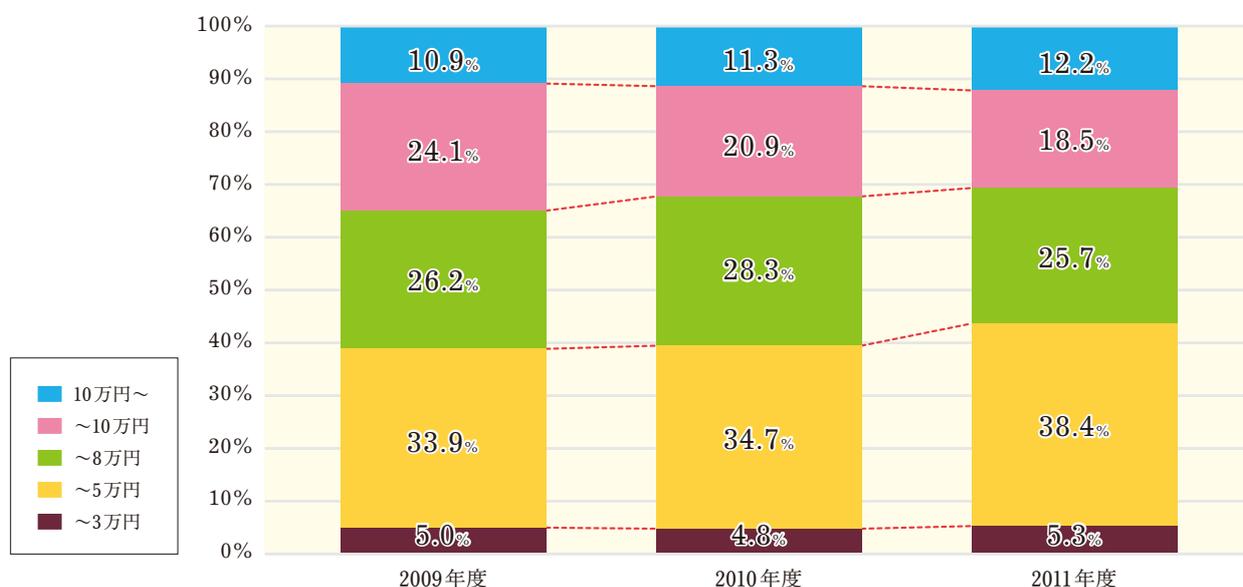
今回は、日本学生支援機構奨学金（以下、「奨学金」と記述）を受給して大学を卒業した学生のアンケート（満期者アンケート）から、奨学金が学生生活にどのような役割を果たしていたのかをご紹介します。

●実施時期：2011年11月 ●対象人数：2839人 ●回答人数：2564人 ●回答率：90.3%

DATA 01

奨学金受給月額

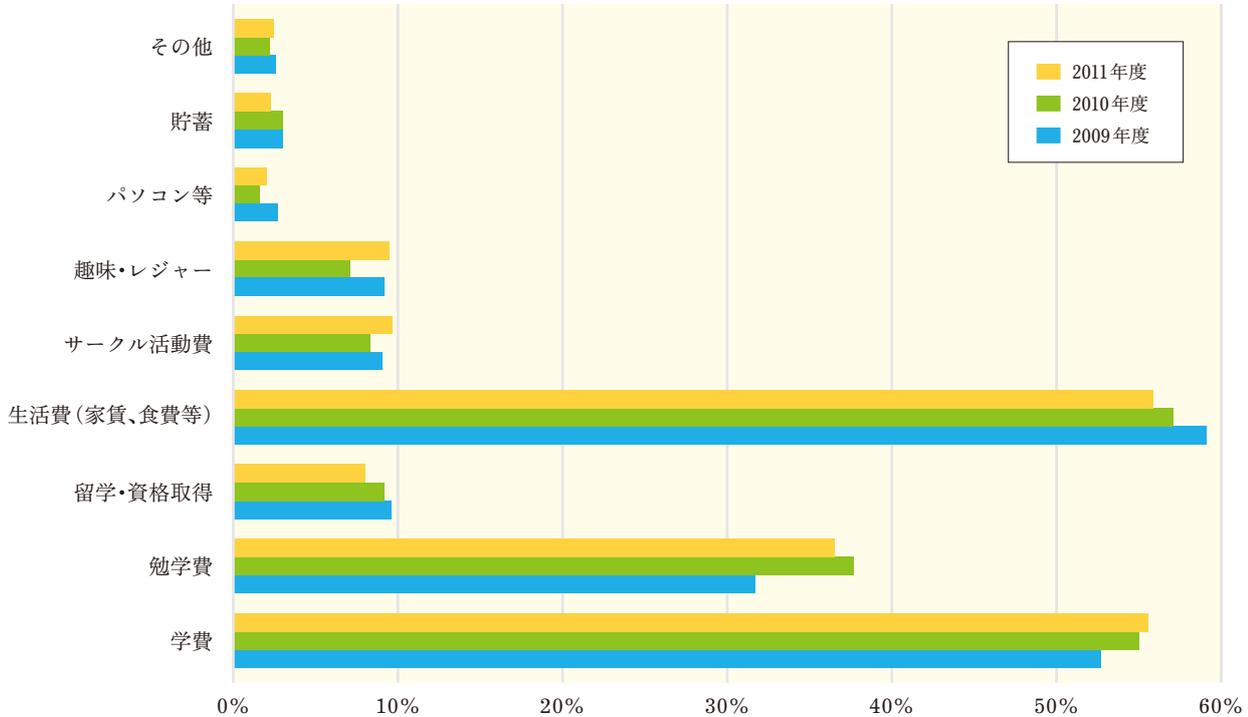
月額5万円が最も多く、38.4%でした。月額が10万円を超える者も2009年度から増加傾向にあります。なお、月額は、第一種奨学金と第二種奨学金を併用（同時受給）している方の回答も含みます。



DATA 02

奨学金の使途 (主なものを2つ選択可)

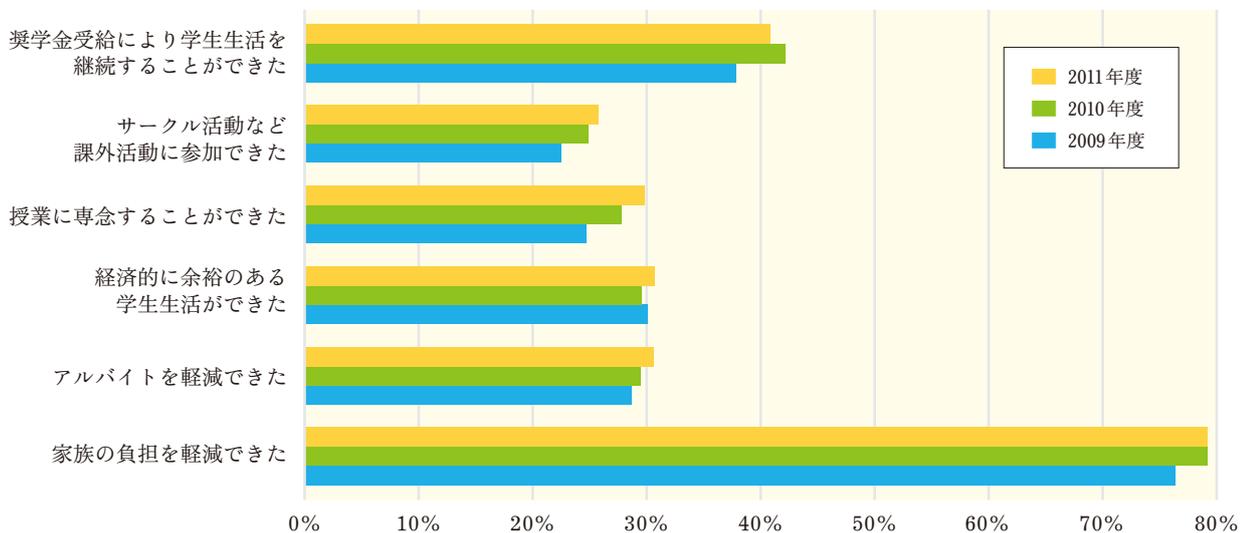
最も回答数が多かったのは「生活費(55.9%)」、ついで「学費(55.6%)」となっており、この構図は3年間で変化はありません。しかし経年変化を見てみると、「生活費」「留学・資格取得」が減少傾向にある一方、「学費」が増加傾向にあります。また、貸与月額が多くなるほど「学費」の回答割合が高くなっています。



DATA 03

奨学金の役立ち度 (複数回答可)

「家族の負担を軽減できた」との回答が79.2%に達し、「奨学金受給により学生生活を継続することができた」も40%を超えています。学生本人のみならず、ご家族にとっても奨学金が学生生活を送るうえで大きな意味を持っていたことが伺えます。経年変化を見ると、「授業に専念することができた」「サークル活動など課外活動に参加できた」が増加傾向にあります。

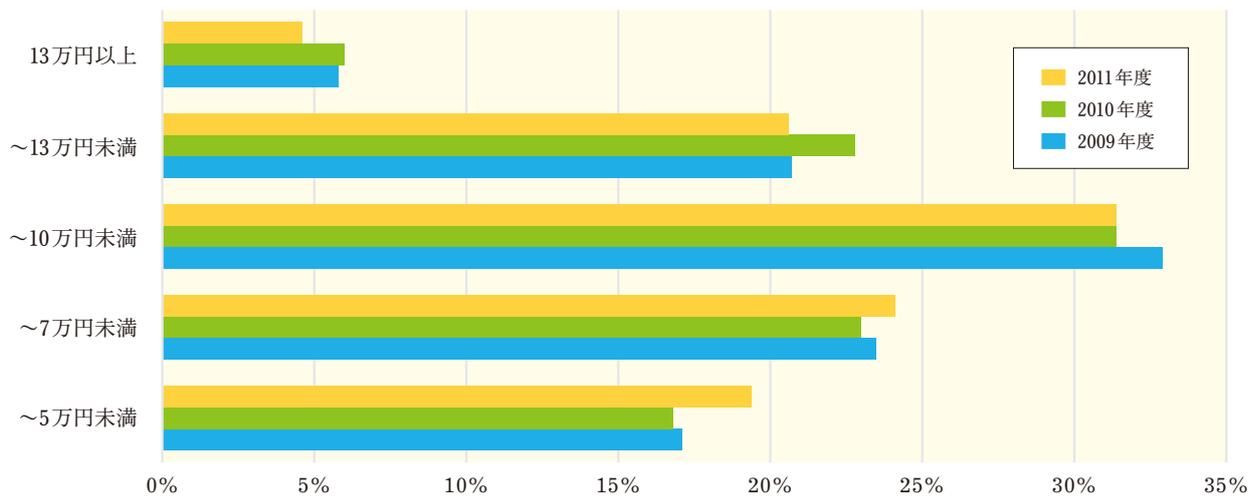




DATA 04

自宅外通学生の生活費支出

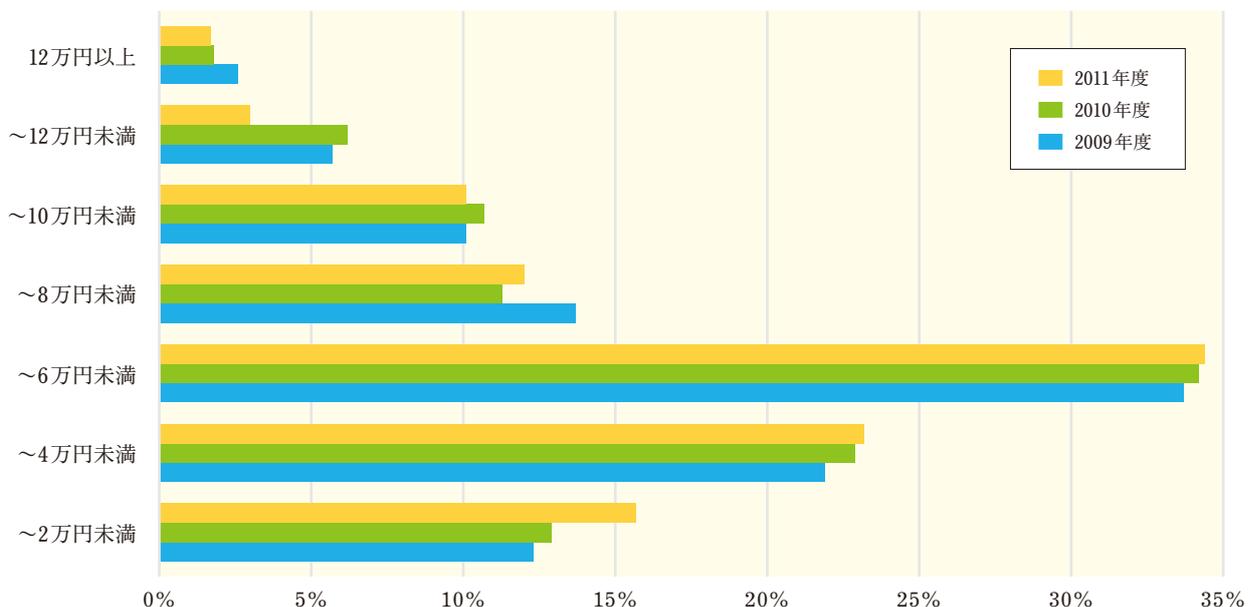
最も回答が多かったのは「7万円～10万円」で31.4%でしたが、この層の回答比率は減少傾向にあります。一方、「7万円未満」の回答数が経年的には増加傾向となっています。「2011年度学生生活実態調査(立命館生協)」では、平均が約12万円となっていますので、奨学生は支出を抑制している様子が伺えます。



DATA 05

自宅外通学生の家庭からの仕送り月額

「仕送りなし」を除いた回答の中では、「4万円以上6万円未満」が最も多く、34.4% .となっています。「10万円以上」が減少傾向にある一方、「6万円未満」の回答が増加傾向にあります。「2011年度学生生活実態調査(立命館生協)」では、平均が約7万円、全国大学生生活協同組合連合会の調査でも仕送り額は年々減少し、2011年度の調査では69,780円となっています。



COLUMN

日本学生支援機構奨学金に関して、よくあるご質問

Q 第二種(有利子)の資格を満たしています。出願すれば採用となりますか？

A 必ず採用になるとは限りません。毎年、日本学生支援機構から本学に対して提示される推薦枠がありますので、資格を満たした出願数が推薦枠を超えた場合は、経済困窮度の高い方から採用となります。なお、2012年度は資格を満たす出願数が推薦枠を下回っていたため、全員採用となりました。

Q 給与収入が1000万円を超えると第一種には採用されないと聞きました…。

A 日本学生支援機構奨学金をはじめとする経済支援型奨学金は、「収入」だけで選考しておりません。「ご家庭の状況」(学生本人の授業料・居住形態/ご兄弟の就学状況/ひとり親家庭であるかどうかなど)を考慮して選考します。そのため、給与収入が1000万円以上であっても、ご家庭の状況により採用となる場合もあります。ただし、住宅ローンなどの各種ローンは一切考慮されません。

Q 2年前に姉が不採用となりました。今回弟が出願しても採用される可能性は低いですか？

A 一概には言えません。採用数は毎年変わります。また、出願数や出願された方の状況も年によって変化しますので、奨学金を希望される場合は、出願されることをおすすめします。

Q 採用されたら4回生(薬学部は6回生)まで受給できますか？

A できます。ただし、継続して受給するためには、以下の2つの条件を満たしている必要があります。

- ① 毎年1月に「継続手続き」をすること
→手続きをされなければ「廃止」となり、以降受給できません。
- ② 4(薬学部は6)年間で卒業できる程度の単位を取得していること
→基準に達していなければ、翌年度の受給が「停止」あるいは「廃止」となります。

VOICE

アンケートに寄せられた声

- 4年に渡る金銭面における支援にとっても感謝しています。今後もこの制度が末永く続き、より多くの人々が大学で学ぶことができるようになるのを願うと同時に、私自身も必ず返済することを誓い、先輩方からのバトンを次世代につなげます。(経済・男)
- 私はこの奨学金により勉強とサークル活動の両立ができるようになり、充実した大学生活を送ることができました。ありがとうございました。(理工・男)
- 時間はあるが金はない学生、金はあるが時間はない社会人。このジレンマをなくす事が出来るのは奨学金システムだと思う。延滞をせずに後輩のためお金を返していこうと思います。(経営・男)
- 奨学金がなければ大学に通えていなかったのも非常に助かった。おかげ様で知識や幅広い経験、大切な仲間、教授と出会える事ができた。(産業社会・男)
- 今の卒論作成時期はバイトに入れないので自宅からの交通費が奨学金で賄えありがたかった。また、就職活動費にも充てた。これが無かったら満足のいく就活が出来なかったと思う。(文・女)
- 金額を選べるのは助かった。年間通じて安定した入金があるのは気持ち的に安心した。(文・女)

COLUMN

立命館大学独自の奨学金

本学独自の奨学金は、経済的な理由により修学が困難な学生を支援することを目的とした「経済支援型奨学金(個人)」と学生の成長を支援する「育英奨学金(個人)・助成金(集団)」の2つを柱としており、予算総額は19億円にのぼります。近年の経済状況に鑑み、今年度から経済支援型奨学金の予算の比率を高めました。また、育英奨学金の制度を見直し、自分の目標に向かって挑戦する学生を支援する奨学金を新設しました。詳しくは本学の奨学金のホームページをご覧ください。

 <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/scholarship/>

学生生活を支える

親の心配、 子どものホンネ。

4年間、正課での学びや課外活動に全力で打ち込むことで、学生は着実に成長を遂げます。しかしその過程では、時に大きな挫折を味わったり、時に迷いや不安を覚えて立ち止まったり、どんな学生も壁を乗り越える経験を重ねています。かたわらで見守る父母の心配は尽きないことでしょう。

立命館大学で生き生きと学生生活を送り、ひと回り大きくなった学生と、父母が登場。学生の成長の陰にはどんな試練や父母の心配があったのか。ふだんの親子関係から父母の悩み、子どものホンネまでを語っていただきました。



子どもは親が思う以上に 大人になっているもの

親 → 賀未慎一郎さん

子 → 賀未大樹さん(理工学部4回生)

case 1

息子が高校生になる頃までは仕事が忙しく、教育は殆ど家内に任せきりでした。反抗期には、家内に乱暴な言葉を投げつけることもありましたが、私と息子に間に会話は少なく、たまに説諭をしても真意は殆ど伝わりませんでした。立命館大学へ進学し、親元を離れることが決まった時には、大きな節目として、自分の学生時代の失敗を思い出しながら、「これだけはしてはいけない」ことを父親の言葉として伝え、送り出しました。

大学に入って一人暮らしを始めたことが、精神的に大きく成長する契機になったようです。コンビニエンスストア等でアルバイトを経験し、お金を稼ぐことの大変さも身に染みて分かった様子。それまでは何かをしてもらったり、買ってもらうても、「ありがとう」と言いながら「当たり前」という顔をしていましたが、一人暮らしの経験が「当たり前」を「有り難い」に変えてくれたのでしょう。最近は、会話の中で心から且つ自然に「ありがとう」が出てくるようになりました。息子の二十歳の誕生日、家内が「おめでとう」とメールを送った時のこと。息子から「産んでくれてありがとう」と返信が帰ってきた時には、夫婦共に嬉しかったですね。反抗期に子育てに悩んだ家内は、その言葉一つで全てが報われた気がしたと思います。



離れて暮らしていると、息子の身に起こった出来事や悩み等にリアルタイムで接することはできないので、何かあったら心配が増幅されます。それでも子どもは親が思う以上に大人に成長しているものです。大学生活で困ったことがあっても、私たちの心配をよそに自分で解決しているようです。ただ、息子が思うほど大人になっていないことも確かであり、これから様々な経験をし、時には失敗をし、それを乗り越えることでわかってくることもあるのではないのでしょうか。

息子たちを見ていて最近思うのは、「子育て」は、私たち親が親として教育されること、子供の成長と共に私たちも成長させてもらっている、ということ。子供のお陰で今がある…。最近、息子とは大人として自然に話す機会も増え、これからの成長をいっそう楽しみに思うようになりました。元気に明るく、幸せに人生を送ってくればそれでいい…。それ以上に望むことはありません。

子どもの声

中学時代は父親と派手に喧嘩したり、母親に反抗的な態度を取ったり、ずいぶん心配させました。大学で一人暮らしを始め、自分がいかにこれまで両親に支えられてきたかを実感。「両親の子どもで良かった」と自然と感謝の気持ちが湧くようになりました。卒業後は、大学院へ進学する予定。あと2年しっかり勉強し、将来を見極めたいと思っています。



辛いことや苦しいことを 親には言わないところが心配

親 → 岩田由香里さん

子 → 岩田理加さん(国際関係学部3回生)

case 2

5人兄妹の4番目、3人の兄の後をついて回っていた小さい頃はおとなしく、ともすれば親や兄たちの背中に隠れるような子どもでした。そんな娘を見ながら、親としては、自分のことは自分でできるように、なるべく静観することを心がけてきました。悩みや壁にぶつかった時、苦しみながらも自分で答えを見出していかなければ、次の困難を乗り越えられないと思っているからです。そんな「放任」が良かったのか、成長するにしたがって積極的になり、実家から遠く離れた立命館大学への進学も、自分で決めてしまいました。

中学生の頃からボランティア活動に興味を持ち、大学入学と同時にボランティア団体に入部。英語が好きで国際関係学部に進学したこともあって、とりわけ国際的な活動に関心が高いようです。住宅建設のボランティア活動のため、インドへ行くという話を聞いた時は、驚きました。渡航費用はすべてアルバイトでまかなうなど、やりたいことをやりながらも親にはなるべく負担をかけまいと考えている様子。一人暮らしや大学生活を通して自立心が芽生え、少しずつ成長しているなど嬉しく思っています。

ふだんの連絡はもっぱらメールか電話。とはいえ、用事がなければかかってきませんし、こちらからもあえて近況を尋ねたりはしません。辛いことや苦しいことにぶつかっても、そんな様子を親には見せないところが、心配ではありますね。電話の声や会った時の表情からなるべく心情の変化を捉えるよう意識し、「落ち込んでいるな」「悩みごとがありそうだな」というサインを見逃さないようにしています。子どもの方から話してきた時にはいつでも耳を傾けられるよう心の準備をしつつも、肝に銘じているのは「決めるのは娘自身。私たち親はそれを精いっぱい応援するだけ」ということ。その上で、親として、人生の先輩としてアドバイスできたらと思っています。

女性であっても、世界に目を向け、広い世界で活躍してほしい。今秋からイギリスへ1年間の留学に旅立つ娘。新しい一歩に、陰ながらエールを送りつづけるつもりです。

子どもの声

両親は、行儀などには厳しかったけれど、それ以外は好きなことをさせてくれました。「広い世界を見なさい」と、留学も、外国でのボランティアも、力強く応援してくれることがありがたいですね。国際的なビジネスや航空業など、世界とつながる仕事に関心が湧いてきたのも、広い世界へと目を向けさせてくれた両親のおかげだと思っています。



自分で決めたことをやり抜いた 息子の姿に成長を実感

親 → 原 宏さん・美和子さん

子 → 原 慶さん(産業社会学部4回生)

case 3

足が速くて、小学生の時に県の大会で記録も作った息子。中学でも陸上をがんばってくれたらという親の期待に反し、入学と同時に「サッカー部に入りたい」と言い出しました。思えばそれが、優柔不断で自分の意思を定めるのが苦手だった息子の初めての自己主張だったような気がします。

セレッソ大阪のユースチームにスカウトされ、親元を離れて大阪の高校に進学したいと言った時も、子どもの意思を尊重しました。好きなことをやらせたいと思うのは親心。けれどそれを子どもがどう生かすかが試されるのは、本当に苦しい時かもしれません。

高校以降、息子のサッカー人生は、決して順風満帆ではありませんでした。中学の時とは比較にならない高いレベルに悪戦苦闘の連続でした。そ

して、最後の最後に掴んだタイトルがクラ選優勝でした。



関西屈指の強豪である立命館大学のサッカー部に入部してからも、葛藤は終わりませんでした。1回生のある日、突然実家に戻ってくるなり「サッカーを辞める」と言って、一晩中泣き明かしたことがありました。どうやら監督の指導に納得できないところがあった様子。どんなに苦しくても決して辞めると言わなかった息子が苦悩する姿に、親は、子どもが自分で乗り越えるよう見

守ることしかできないと痛感しました。翌日、黙って京都へ戻っていった息子から「やっぱり続ける」と連絡があったのは、数日後。自分で選んだ道だからと、最後までやり遂げようと思ったようです。

その後も、試合に出られなかったり、教職課程を履修し、勉強との両立に悩んだり、辛いことの方が多かったことでしょう。支えになってくれたのは、親よりもチームメイトでした。助けてやれる親がいるより、いい友に恵まれることの方が、この先ずっと心強い糧となるはずですが、たとえ挫折しても、自分で決めたことを最後までやり抜くことで、強く、たくましくなったことが親としては嬉しいですね。これからも自分の力で将来を切り開いていってくれることを祈るばかりです。

子どもの声

「やりたい」と言ったことを両親に否定されたことはありません。いつも応援してくれる代わりに、いつか「自分で決めたことはやり遂げなければ」という責任感が芽生えてきました。大好きなサッカーを10年間続け、どんなこともがんばり通せる自信がついた。最後のシーズン、感謝をこめて両親に試合でピッチに立つ姿を見せたいです。



衣笠
キャンパス

河原典史ゼミ [文学部]

河原ゼミ [文学部] 河原 典史 教授

ゼミテーマ：地理学的アプローチからみる京都の諸問題

文学、歴史、地理学の観点から京都をフィールドワークするというコンセプトで作られた京都学専攻。河原ゼミでは、「場所や、地域の持つ意味が時代によってどう変化しているのか」という地理学的アプローチから京都を考察しています。

ゼミ紹介

ゼミの成長と共に自分も大きく成長できる

私 たちのゼミでは、主に近代から現代における京都のあらゆる事象を研究対象に、地理学的手法に重点を置いた調査・考察を行い、卒論制作を目指しています。研究対象を挙げると、祇園祭・花街・神社など古くから根付いているもの、工業・競馬場・バスなど現代的なものも様々です。ゼミ生の多くはフィールドワークによる聞き取りに力を入れており、それぞれの方法で調査に入っています。

私は、祇園祭の山鉾町の一つである「船鉾町」という地域で調査をしています。2回生の夏からお手伝いとして祭りに参加し、今年で3年目。地域の方々と積極的に関わることでラポール（信頼関係）を築き、様々な方から貴重なお話を聞くことができるようになりました。現在こ

の情報を元に、マンションの出現が祇園祭の運営に与えた影響について考察する論文制作を目指して、さらなる聞き取り、資料収集をしています。卒業後は大学院へ進学し、地理学の研究を続けるつもりです。

京都学1期生の4回生は、先輩がいない中、先生のアドバイスや先行研究の分析を通して自分なりの研究方法を見つけてきました。苦労しましたが、研究を通して知的生産力を養うことができたと思います。3回生にも4回生の調査方法を参考に自分の方法を見つけてもらい、このゼミに知的生産物である卒業論文をたくさん残せるよう願っています。

河原ゼミは、ゼミの成長と共に自分も大きく成長できるゼミです。



文学部4回生
佐藤弘隆さん



良い点も悪い点もしっかりとアドバイス



研究の進捗報告は就職活動での自己アピールにもなる



司会担当者は率先して質問し、ゼミをリード

Schedule

3・4回生

前期

3回生 卒業論文をめぐる研究史の整理、夏休みの研究計画の発表

4回生 卒業論文の中間報告

他大学との交流研究会（予定）

後期

3回生 夏休みの研究結果の報告、卒業論文にむけての研究計画

4回生 卒業論文の最終報告、卒業論文提出・口頭試問

4回生の送別会



Interview

京都から日本、そして海外を理解する

京都は新しく古い町。日本の伝統文化を大切にしながらも、変化を受け続けてきました。「○○発祥の地」というものが京都に数多くあるのはそんな理由から。伝統を守りつつ、新しいものを受け入れてきたのです。

ゼミでは、そんな京都の人々の営みのなかに隠された技や勤、その歴史が作られてきたシステムを明らかにすることで、京都という土地とその文化への理解だけにとどまらず、日本固有の文化をも理解するとともに、京都以外の各地で応用可能なシステムを発見・提案していくことを目指しています。

観光や信仰というテーマならば、京都を事例にすることが日本文化の典型的なタイプになる。また、「過去にこんな問題が起こったため次代につながらなかった」「こんな変革期をクリアしたことで現在も続いている」といったことを明らかにできれば、その発見を京都以外の地域に応用することも可能です。例えば、祇園祭は人々の暮らしの変化に応じて祭りの担い手も変化させ、存続の方法を見出しています。そのシステムを学ぶことで、「祭り」というイベントをこれからの時代に都市で維持していくのに必要なことが分かってくるのです。

日頃の研究活動の積み重ねから就職での強さ培われる

文字に残らない資料は実際にインタビューし、地域の人の暮らしを正確に捉え、実証する。ゼミ生は、論文など先行研究を調査するとともに取材などフィールドワークに出かけ、それぞれのテーマを追求しています。

フィールドワークでは、初対面の人のもとに一人で飛び込んで資料を集め、地域の方と信頼関係を築かなければならない。そんな経験を重ねた学生たちは、どんな進路に進んでも胸を張れる社会性を養うことができると思っています。

ゼミでは、読んだ論文の調査の目的・方法などをまとめた「論文カード」の作成も課題にしています。自分の論理を実証するには、その裏付けとなる証拠を得るためにたくさん論文を読まなければいけません。論文を読む

たびにカードを作っていくと、研究の傾向や各分野でのキーパーソン、よく使われている資料などがつかめてくる。カードを読むだけでも各テーマの傾向が分かるようになります。また、カードの作成を重ねれば、ほぼ同じ分量である就職活動のエントリーシートの作成も苦にならなくなる。継続すれば研究活動だけでなく就職活動でも、大きな力になるのです。カードの作成数の多い学生ほど良い結果を残しています。

フィールドワークを通して「ほんまもの力」を手に入れて

学生たちが、興味のあるテーマを、学生ならではのフレッシュな視点で実証し、やがて地域の人にも気付かないシステムを発見した時が私にとって何よりの喜びです。ゼミ生には、歴史地理学というアプローチならではのフィールドワークを中心にして、「ほんまもの力」を身につけてほしい。埋もれた資料や普通の人気がないことを集め、現地で実際に自分が感じてきたことを文字にして、論理的に実証する力。そしてその過程で他人との間に信頼関係を作ることができる力。それは京都学を学んだ者だからこその力だと思います。社会に出て、人が本当の意味で力を試される時に発揮できる力を、このゼミで手に入れてもらいたいですね。

Profile

河原典史 (かわはら・のりふみ)

文学部教授

1963年大阪府生まれ。1988年立命館大学文学部地理学卒業。1993年立命館大学大学院文学研究科博士後期課程地理学専攻単位取得退学。立命館大学文学部助教授(准教授)等を経て2010年より現職。2001年度、2008年度後期カナダ国・プリティッシュ・コロンビア大学客員研究員。現在、大学コンソーシアム京都・京都学企画検討委員、亀岡市文化的景観検討委員などを務める。



Student's Voice

学術的にとどまらない
人間的な成長を感じる

文学部4回生
株式会社滋賀銀行内定
池村佳央梨 さん



ゼミでの学びを通して、信頼関係の重要性を最も実感しています。私の研究テーマは、「地域住民による観光産業の運営システム」。これを明らかにするには、住民の方の協力が不可欠でした。「まずは、住民の方と信頼関係を築くことが第一」という河原先生の指導のもと、地域に関する事前学習の他、熱意や誠意を態度で表しながらの聞き取り調査を進めました。すると「池村さんだから」の言葉と共に、地域外の人間には閲覧の難しい資料を頂くことができました。「人に学ぶ」ことの難しさや楽しさ、その姿勢を学ぶことのできる河原ゼミ。卒業論文の執筆を通して、学術的にとどまらない人間的な成長を感じています。

Student's Voice

社会性を養える！

文学部4回生
株式会社JR東海ツアーズ内定
高橋 慎 さん



河原ゼミの魅力は社会性を養えるということ。各々が関心のある課題を見つけて取り組みますが、人と関わる研究を行うことが特徴です。研究資料のほとんどが企業や団体に働きかけて得るもののため、コミュニケーション力や自主性といった社会で必要なスキルが自ずと身につきます。和やかでありつつ切磋琢磨できる環境で、先生の的確なアドバイスに研究への意欲が上がります。私は京都市下のユースホステルを中心に、その営業形態について研究を進めています。将来旅行業に携わる者として糧となるこの研究に力を注ぎ、ゼミで培った経験を生かして社会に貢献できる人間へ成長していきたいです。

編集
後記

昨年、ゼミ生たちは、亀岡市が文化庁の重要文化的景観の選定を目指して保護に取り組む「保津川下り」の調査を行政や地域と共に進めてきた。泊り込みのフィールドワークでは、仲間や地域住民との交流を深めることができた。地域のひととの触れ合いから学び、その土地を理解する。調査の結果を行政に報告し、今後の取り組みに生かす。京都学のポリシー「地域に学び、地域に還元する」を実践している。

高田ゼミ [情報理工学部] 高田 秀志 教授

ゼミテーマ：協調的活動支援のための分散コンピューティング環境の構築

コンピューターは、従来の人間の活動を尊重しながら、もっと人をつなぐ機能を果たせるはず。高田ゼミでは、コンピューターによって、日常生活や学習環境などにおける人の協調的活動を支援するシステムの構築を目指しています。

ゼミ紹介

先輩や同級生、ゼミの仲間の言葉から日々多くのことを学ぶ

私 たちの「協調メディア研究室」は、“分散”と“協調”をキーワードに「教室内の学習環境の構築」「未来のオフィスの創造」「次世代の情報処理基盤」「ソーシャルメディアを用いた情報共有」などをテーマとした四つのプロジェクトで成り立っています。私が所属するプロジェクトでは、主に小学生を対象に研究を行っています。実践の場として、NPO法人「スーパーサイエンスキッズ」が主催するワークショップが月に2回ほどあり、簡単なプログラミング体験ができるソフトウェアを用いて、子どもたちに創作活動してもらいます。その活動中に生じた問題や課題をITシステムを用いて解決できないかと議論・開発。子どもたちの「もっともっと学びたい!」という意欲をか

りたてるような教育環境の構築を目指して頑張っています。

ゼミでは、主に研究の進捗状況や文献調査の結果をプレゼン。意見や質問を仲間からもらい、新しい視点や考え方を身につけます。自分の考えの甘さや未熟さを積極的に指摘してくれる先輩方がたくさんいるので、日々多くのことを学んでいます。最近では「根拠を大切にする姿勢」を学び、なぜそのような考えに至ったのか、どのような背景をもとに結論を導き出したのかと考えながら研究に励んでいます。

私の研究生生活は始まったばかり。しっかりと腰を据えて学び、社会人になった時に「もっと勉強しておけば…」と後悔しないよう、全力投球していきます。



情報理工学部4回生
北原惇士さん

Schedule

4回生

前期

研究テーマの具体化と討論

分散・協調システムに関する文献調査

コンセプトデモシステムの構築

後期

システムの実装と評価

卒業論文の執筆

学会発表論文の執筆と発表



厳しい指摘も受けるが、それも良き発見



毎年海外からの留学生も少なくない



先生はゼミを見守りつつ、時に軌道修正



Interview

「人と人をつなぐ」コンピューターの働きを追究

自分が使っているPC上の情報を近くにいる人と共有しようとしても、面倒な操作をしなければならないことが多く、簡単にできるのはせいぜい画面を見せ合う程度でしかありません。最近は携帯端末など情報にアクセスする手段が整っていますが、コンピューターを使って、同じ場所にいる人が情報を即座に共有し、新しいアイデアを生み出したり、合意形成をしたりということがもっとスムーズにできないか。コンピューターによって人と人との間の情報共有や協調作業を促進することがゼミの研究のねらいです。

具体的な研究の一つに、すれ違いざまに人々が情報を交換する「街角メモリ」があります。電車の中で近くの人々が読んでいる新聞の記事をたまたま見て「面白そうだな」と思うことがありますよね。「PCや携帯端末でも偶然に情報を見つけることができれば」という思いから開発されたこのシステムは、すれ違った人同士が興味のある情報をツイッターによって交換できるようになっています。「街角メモリ」はAndroidアプリとして誰でもダウンロード可能なので、ぜひたくさんの方に利用してもらいたいですね。

子どもたちの協調的な学習環境作りについても研究しています。授業などで子どもたちに一人1台ずつコンピューターを与えると、それぞれが自分の画面に没頭してしまう。一人ではなく目の前の仲間と一緒に、コンピューターを使って創作活動をできるようにするにはどうすればよいか。私たちは、コンピューター上に「視点の制約」を入れるという方法を試みました。コンピューターをつないで三次元の空間を共有し、みんなで一つのアニメーションを作ることができるようにする。そこへコンピューターごとに画面で見える範囲を決めると、役割分担が生じ、子どもたちが協力して創意工夫するようになったのです。研究を通して構築したシステムはワークショップなどで実際に使ってもらい、現場での成功や失敗からさらに新しい知見を得ています。

研究では自分たちが主役。学生ならではの発想を大切に

ゼミ委員、備品委員、環境委員など、研究室では様々に分担があり、

ゼミの運営はすべて学生に任せています。日常のことから研究まで、学生には「自分たちの研究室」という意識を持ってもらいたいです。

研究では、どんなテーマがこれから芽を出してくるのか、当たり前になっていくのかと、世間の動向を捉える目が大切です。研究成果を挙げることはもちろん重要ですが、ゼミは学生たちの成長の場。まずは学生ならではの自由な発想を生かして学生間で大いに議論をし、その先で、より良い研究成果を挙げることを目指してほしいと思っています。

今の自分より少し上を追い続けて

ゼミ生には、「共同で取り組み、成果を出す」という基本的な力を伸ばしてもらいたい。組織の一員として取り組む仕事という意識を身につけ、お互いに成長することが大切です。「今までできなかったことができるようになる」「今回よりも次はもっとよくなる」。そんなことをゼミを通してどんどん積み上げてほしい。知らないから、できないからとあきらめているといつまでも成長できないし、いつも90%の力で取り組んでいると衰えてしまいます。自分の力より少し上のものを常に目指して。その積み重ねは必ず人を成長させるはずですよ。

Profile

高田秀志 (ただか・ひでゆき)

情報理工学部教授

1991年京都大学工学部情報工学科卒業。1993年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻博士課程(前期)修了。2001年京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻博士課程(後期)修了。三菱電機(株)産業システム研究所・先端技術総合研究所研究員、京都大学情報学研究科研究員を経て、2006年立命館大学情報理工学部准教授。2010年より現職。博士(情報学)。



Student's Voice

論理的に考え
行動する力の成長を実感

情報理工学部4回生
丸山 薫 さん



協調メディア研究室では、プロジェクトごとのゼミと全体でのゼミの二つで研究を進めており、私は「流通している情報の信憑性はどのような指標があれば判断できるのか」という研究をしています。ゼミでは研究の関連文献を調査して発表したり、進捗状況を報告したりしています。ディスカッションでは、自分の意見をただ伝えるのではなく、裏付けのある論理的なコミュニケーションが求められるので、論理的に考えて行動する力が成長しているのを実感できます。研究では壁にぶつかり挫折しそうな事もありますが、尊敬できる先輩に相談しながら日々進めています。

Student's Voice

成長意識の高い環境で
充実した活動ができる

情報理工学部4回生
伊藤直人 さん



このゼミの方針は、常に成長を志向すること。そこで、研究成果を残すことだけに重点を置くのではなく、その過程での成長を意識し、できないことができるようになることを目標としています。特にゼミでの研究発表は、学会での発表と同じ発表形態をとることで、プレゼンテーション能力の向上に役立っています。また、メンバーとの討論の中で、自らの意見を論理的に述べ、相手に正確に伝える力がつくのもゼミにおける成果の一つ。このように常に高い意識で、充実した活動ができるのは、成長意識の高いメンバーが周りにそろっているからです。

編集
後記

普段の研究活動でディスカッションの実践が積み重ねられているため、学部生・大学院生全員が参加するゼミでは、先輩・後輩の区別なく活発に意見が飛び交う。その一方で上下関係のある「仕事仲間」としての意識もあり、学生たちがゼミを通して「社会」を学んでいることが分かる。卒業後はIT業界だけでなく、ITの知識と経験を生かして広告業界や自動車業界に進む学生もいるという。

サービスラーニングセンター

- 衣笠キャンパス／学術館1階
- びわこ・くさつキャンパス／セントラルアーク2階

■窓口時間

月～金 10:00～17:00

☞ <http://www.ritsumei.ac.jp/slc/>



衣笠キャンパス



Navigator
 法学部2年生 佐々木志織さん
 文学部3年生 谷野圭亮さん

学生コーディネーターが相談に乗るので、サービスラーニングセンターを覗いてみて！

学生のみなさんにボランティアについて知ってもらえるおもしろい企画を練っています！



「ボランティアに興味があるけれど、なんだか安易に尋ねづらくて…」なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。そんな学生に気軽に気持ちで足を運んでほしいのが、サービスラーニングセンターです。センター内には、学内外のボランティア団体の情報がいっぱい。障がい者支援、海外ボランティア、子どもの支援など、カテゴリーごとに分かれて、情報が並んでいるから、自分のやりたいボランティアを探しやすいですよ。

わからないことは、私たち学生コーディネーターに相談してください。サービスラーニングセンターに常駐し、学生の相談に応じて、希望に沿ったボランティア活動や団体を紹介しています。素朴な疑問や他愛のない質問も、大歓迎。ボランティアの「いろは」から教えます。定期的に学内外のボランティア団体を集めたボランティアガイダンスも開催しているので、そちらに参加してみるのもいいかもしれませんよ。もちろん私のようにコーディネーターとして活動することもできます。学生のみなさんに、「ボランティアって楽しいんだ」と知ってもらいたいですね。

僕がサービスラーニングセンターを初めて訪れたのは、キャンパスに貼られていた「パソコンの速打ち得意な人募集」というポスターに惹かれたのがきっかけ。現在、聴覚障がいをもった学生をサポートするボランティアをしています。一緒に授業に出席し、学生が講義を文字で読めるよう先生の話パソコンに入力するという活動です。1年生から同じ学生をサポートしているので、今ではすっかり友達に。「ボランティアをする」などと堅苦しく考えず、友達を増やしやすい機会だと思いながら、楽しく取り組んでいます。

堅苦しく考えず、まずは気軽な気持ちで足を運んでください！



衣笠キャンパスの教職員



びわこ・くさつキャンパスの教職員





インターンシップオフィス

- 衣笠キャンパス／研心館1階 キャリアオフィス内
- びわこ・くさつキャンパス／プリズムハウス1階 学びステーション内

■開館時間

月～金	9:30～17:00
-----	------------

※衣笠キャンパスは水曜日のみ12:30～17:00

☞ <http://www.ritsumei.ac.jp/internship/>



衣笠キャンパス



就職活動体験談も交えて、
インターンシップのこと、
いろいろ教えますよ！

エントリーシートもおいています。
添削など書き方のアドバイスもここで！



「働 くてどういうこと？」「企業では実際、どんな仕事をしているの？」。学生にはわからないそんなリアルな「働く現場」を実体験できるチャンスが、インターンシップです。立命館大学専用WEBサイトでインターンシップに関する情報を調べることができますが、それと並行して一度は訪ねてほしいのが、インターンシップオフィスです。オフィスには、学生による相談ブースがあり、僕のように就職を決めたJA（ジュニア・アドバイザー）が、疑問に答えたり、アドバイスをしたりしています。自分自身のインターンシップ体験はもちろん、就職活動での経験も踏まえ、インターンシップに臨む心構えや押さえておきたいポイントを「学生目線」でアドバイスします。

またエントリーシートを添削したり、申し込みまでの手順も紹介します。中には競争率が何倍という企業も。エントリーシートをおろそかにしたり、申込期限を逸すると、参加することもできないので、準備は不可欠です。「恥ずかしくて聞けない」というような初歩的な質問も、「大学の先輩」だと思って気軽に相談してください。

僕は3回生の4月にインターンシップガイダンスを受け、コーオプ演習に申し込みました。コーオプ演習とは、半年間におよぶ単位授与型のインターンシップで、学部生・大学院生がチームを組み、企業の抱える現実の課題の解決に挑むというもの。僕らは6人で企業の課題を分析し、販売促進につなげる企画を提案しました。仕事の一端にふれ、社員の方々と話し、スケジュール管理の大切さや仕事に対する責任な

ど、社会人に求められる厳しさも実感。残りの学生生活で何をすべきかを考え、将来のビジョンを描くきっかけになりました。

申し込みの方法から
就活につながる
アドバイスまで、
さまざまな相談に
乗ってくれます！



衣笠キャンパスの教職員



びわこ・くさつキャンパスの教職員





きょうのおひる

衣笠キャンパス [諒友館食堂]



玄米ご飯・スタミナスープ・セルフパー 325円

BKC [ユニオンスクエアカフェテリア]



ご飯・スタミナスープ・ハンバーグボン酢おろし 399円



国際関係学部1回生 岡本 琉璃さん

の春、地元北海道から立命館大学に進学しました。今は民間の学生寮に住んでいます。朝・夕の寮での食事はまだ味に慣れてなくて…。母の作ってくれる煮物の味が恋しいこの頃です。両親とは電話でよく話します。「好物を送ったから」などの心づかいがうれしいですね。実家でよく出された玄米ご飯が懐かしくて、学食でもよく玄米ご飯を選びます。この食堂のおすすめは、おかずの量り売り。20種類近くあるお惣菜やサラダメニューから選んでお皿に載せ、重さで値段が決まります。たくさんの品目を食べられる上、びっくりするくらい割安なんです！英語が好きで、念願の国際関係学部への入学だったけれど、授業は想像していた以上にハード。帰宅後も深夜まで英語の宿題に追われる毎日です。がんばったかいあって、今年の8月から1年間のアメリカ留学が決まりました。語学力を磨くことに加えて、以前から関心のあったメディアについて勉強するつもりです。



経営学部3回生 井垣 純さん

今日は、朝から衣料品店でアルバイトをしてから大学へ来たので、もうお腹ペコペコです。昼食は、たいていこの学食で。家計を考えて、昼食代は400円以内と決めています。もうほとんどのメニューの値段を覚え、ご飯、汁物、主菜で400円以内に収める組み合わせを頭の中で計算できるほどです。正課では国際経営を専攻しています。昨年夏、アメリカ・サンディエゴでインターシップを経験し、将来は海外でビジネスに携わりたいと思うようになりました。この夏から1年間、香港の大学に交換留学する予定。躍動する中国経済のスピードを肌で感じながら、国際ビジネスについて学ぶつもりです。留学前の事前講義に加えて、放課後はTOEIC®講座を受講。中国語の勉強も始めたので、夜9時くらいまで授業を受ける生活です。今日も遅い授業に備えて力を蓄えつつ、胃もたれしないあっさりしたメニューを、と考えて、ハンバーグのボン酢おろしを選びました。

学生の数だけお昼ご飯も個性豊か。衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスの両食堂を訪れ、お昼ご飯から、各々の学生のキャンパスライフを垣間見てみましょう。

BKC [ユニオンスクエアカフェテリア]



あんかけチャーハン・大学芋・ベーグドチーズケーキ 462円

BKC [リンクカフェテリア]



冷し麻辣胡麻ダレ麺・辣棒々鶏サラダ・フルーツヨーグルト 672円



生命科学部1回生 笠 由梨絵さん

高校で化学を好きになって以来憧れだった立命館大学の生命科学部に、この春とうとう入学しました。福岡県の実家を離れて3ヵ月、ようやく一人暮らしにも慣れてきました。ほとんど毎日1限目から授業があるので、「寝坊しないように」と朝から気を抜けません。時間のある時は、自分でお弁当を作るようにしているけれど、アルバイトなどで帰宅が遅くなった翌日は、学食で済ませることが多いです。今日は、このあんかけチャーハンにひと目惚れ。いつもは栄養バランスを考えて野菜やお惣菜を中心にメニューを組み立てるんですが、時々は今日のように自分を甘やかして好きなモノばかりを選んでしまうことも。今、夢中になっているのは、国際ボランティアサークルの活動です。いずれ海外ボランティアに行くために、先日AED*の使い方などを学ぶ宿舎に参加しました。正課では高校で習わなかった物理に苦戦しつつも、好きなことを学ぶ楽しさを味わっています。

*AED: 自動体外式除細動器



理工学部2回生 原田和樹さん

兵庫県にある親元を離れて一人暮らしをしています。休日でも毎朝7時半には目が覚めるほど、規則正しい生活習慣がすっかり板につきました。両親は時々電話で元気かどうかを尋ねる程度で、学生生活を見守ってくれています。自炊もするけれど、昼はもっぱら食堂ですね。今日は、30℃を超える夏日。さっぱりと冷たいものを食べたくなって、冷し麻辣胡麻ダレ麺を選びました。自分で作る料理では、なかなか栄養バランスまで考えられないので、昼食では野菜や果物を意識的に摂るようにしています。正課では、水環境に関心を持って学んでいます。1回生の夏、授業で琵琶湖の水質を調査して、身近な水資源の重要性に気づいたことがきっかけでした。授業が終わった後の楽しみは、バレーボールサークルでの活動。コートで思いっきり汗を流すのも気持ちがいいけれど、練習後、仲間と一緒にワイワイ食事をする時間も、サークル活動の醍醐味の一つかなと思います。

2012

父母教育後援会総会

春のオープンカレッジの前日にあたる5月19日(土)に「2012年度立命館大学父母教育後援会総会」が開催されました。当日は、父母委員、大学選出役員合わせて129名が出席。

2011年度の事業・決算報告と、2012年度委員・役員選出や事業計画・予算案が提案され、すべて承認されました。また、総会前には「2012年度地域ブロック懇談会」が開催され、全国の父母委員が熱心に意見交換をおこないました。



■ 地域ブロック懇談会



総会前に「2012年度地域ブロック懇談会」を開催しました。地域ブロック懇談会は、全国47都道府県の父母委員と事務局(社会連携部)が意見交換を行う場として2010年度から開催しています。

今年度は、96名の父母委員と幹事長をはじめとする大学教職員8名が参加。A～E(右記グループ参照)の5つのグループに分かれて、「父母委員の役割と父母教育後援会事業のあ

り方について」をテーマに意見交換をおこないました。

約1時間、グループごとに意見交換をおこなったあと、各グループの意見が報告されました。後援会事業をさらに活性化するための方策や、都道府県父母教育懇談会での委員の役割についてなど、前向きで積極的な提案が数多く出されました。そのうえで、学生

に対する支援体制(危機管理体制の構築や就職活動支援、課外活動支援等)について大学への要望が出され、後援会としても大学と連携しながら学生支援を積極的におこなってきたいという意見が出されました。

続いて石井幹事長が総括をおこない、すでに大学がおこなっている支援プログラムやサポート体制、大学の方針について説明されたあと、「本日いただいた意見は父母の意見とし

て大学に返していきたい。また、父母教育後援会でも今回いただいた意見を後援会事業に反映できるよう常任委員会の中で引き続き検討していきたい。」と述べられました。最後に、父母教育後援会を代表して貴重な意見をいただいたことに対し改めて感謝の意を表し、地域ブロック懇談会は終了しました。

[グループ]

Aグループ	北海道、栃木、千葉、新潟、富山、和歌山、鳥取、愛媛、福岡
Bグループ	青森、茨城、埼玉、石川、長野、三重、島根、高知、佐賀
Cグループ	岩手、東京、福井、愛知、岡山、徳島、長崎、沖縄
Dグループ	秋田、福島、神奈川、岐阜、広島、香川、熊本、鹿児島
Eグループ	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

■ 総会

冒頭に父母教育後援会名誉会長を務める川口清史立命館総長・立命館大学長が登壇。立命館大学の国際化の到達点、目指すべき方向など学園の現状を報告するとともに、昨年の東日本大震災以降の継続支援状況などを紹介し、学生・学園を支えてくださる父母の皆さまへ深い感謝の意を表しました。

大学選出役員紹介後、議案書に沿って各議題が報告されました。公務のために欠席され

た千宗室父母教育後援会長に代わって、2012年度副会長候補の高橋和雄委員が議事進行をおこないました。父母教育後援会幹事長の石井秀則教学部長が2011年度の事業、決算報告、2012度の事業計画と予算案について報告し、全ての議題が拍手をもって承認を得ました。最後に2012年度常任委員の紹介があり、総会が終了しました。



2012年度 父母教育後援会委員一覧

(敬称略)

役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名	役職	都道府県	新任	氏名			
会長	京都府		千宗室	委員	東京都		宮坂 初恵	委員	岡山県	○	森重 明美			
副会長	滋賀県		高橋 和雄			○	小川 実佐枝			○	森下 靖子			
監事	大阪府		日浦 良夫		神奈川県		長島 雅典			広島県		内海 奈美江		
	滋賀県		小林 浩子			○	池部 勝也				○	沖本 千恵子		
常任委員	大阪府		水野 治		山梨県		望月 雅樹			山口県		江藤 龍夫		
	京都府		石原 純子			○	奥田 日出美				○	末永 睦		
			林 妃呂子			栃木県			横松 盛人		香川県		有塚 香織	
		○	竹内 正世				○		秋澤 弘子			○	松下 俊一	
		○	馬場 浩		群馬県		岩田 由香里			徳島県		逢坂 伸司		
	滋賀県		藤木 猛			○	萩原 克宏				○	土井 一代		
	奈良県		西田 裕紀		長野県		勝野 恒彦			高知県		山本 祐子		
			岩橋 直子				忠地 仁誠					○	和田 己歌	
	兵庫県	○	山下 展誉		新潟県		帆刈 隆			愛媛県		寺谷 瑞枝		
		○	眞田 珠美			○	笠原 正弘				○	上甲 千里		
委員	北海道		長江 千恵		富山県		上田 晋介			委員	福岡県		石津 博睦	
			水原 みゆき				中田 達也					○	岩見 徹	
	青森県	○	倉島 恵美子		石川県	○	岡田 明美子				佐賀県	○	藤戸 隆	
			村上 真理子			○	中野 洋					○	赤星 英世	
	岩手県		佐々木 稔		福井県		杉田 尊				長崎県		○	原口 俊彦
		○	勝馬田 康昭				西浦 陽子					○	河村 茂樹	
	秋田県		幸坂 金光		岐阜県		松田 慶子				熊本県		○	徳田 明人
		○	菅原 広二			○	岡田 弓子					○	内田 誠也	
	山形県		伊藤 顕治		静岡県		○		三輪 滋			大分県		賀未 慎一郎
		○	石澤 浩之			○	中村 隆夫						○	古長 妙子
	宮城県		阿部 志保		愛知県		隅田 洋一				宮崎県		○	工藤 浩
		○	遠藤 多都子				坂井 康晃					○	○	山脇 誠
	福島県		小林 美紀子		三重県	○	中澤 茂明				鹿児島県	○	○	田中 智代
		○	星 幸次			野呂 文彦			○		○	桐原 秀成		
	茨城県		西崎 武	和歌山県		辻 美和		沖縄県				仲本 良子		
		○	渡辺 充寿			服部 眞悟						上間 久造		
	千葉県		黒川 忍	鳥取県		赤坂 葉子								
		中牟田 満子	鳥根県		原 宏									
埼玉県	○	片岡 清絵		○	渡部 悟									
	○	双木 桂子												

他、大学選出役員33名

2011年度 決算

〈収入の部〉 (単位:円)

項目	予算額	決算額
經常収入	360,290,000	359,555,559
会費収入	360,000,000	359,190,000
過年度会費収入	0	0
卒業生父母資料費収入	250,000	264,000
預金利息収入	40,000	28,973
雑収入	0	72,586
前年度繰越金	107,862,429	107,862,429
収入の部 合計(A)	468,152,429	467,417,988

〈支出の部〉 (単位:円)

項目	予算額	決算額
I. 事業費支出	376,560,000	304,815,983
1. 懇談会開催事業支出	98,050,000	75,934,461
2. 学生教育支援事業支出	186,410,000	148,164,873
3. 会報・学園案内広報事業支出	27,700,000	27,568,149
4. その他事業支出	64,400,000	53,148,500
II. 管理費支出	38,700,000	28,150,291
III. 予備費支出	35,000,000	0
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出	0	0
当期支出合計(I+II+III+IV)(B)	450,260,000	332,966,274
次年度繰越金(A)-(B)	17,892,429	134,451,714

2012年度 予算

〈収入の部〉 (単位:円)

項目	12年予算額	説明
經常収入	360,280,000	
会費収入	360,000,000	(年会費@10,000円、入会金@5,000円)
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	250,000	卒業生父母の会(年会費@2,000円)
預金利息収入	30,000	
雑収入	0	
前年度繰越金	134,451,714	
収入の部 合計(A)	494,731,714	

〈支出の部〉 (単位:円)

項目	11年度決算額	12年予算額
I. 事業費支出	304,815,983	371,500,000
1. 懇談会開催事業支出	75,934,461	86,700,000
2. 学生教育支援事業支出	148,164,873	194,500,000
3. 会報・学園案内広報事業支出	27,568,149	29,200,000
4. その他事業支出	53,148,500	61,100,000
II. 管理費支出	28,150,291	39,000,000
III. 予備費支出	0	35,000,000
IV. 父母教育後援会基金積立金繰入支出	0	0
当期支出合計(I+II+III+IV)(B)	332,966,274	445,500,000
次年度繰越金(A)-(B)	134,451,714	49,231,714

2011年度 事業報告

(1) 懇談会事業

1 総会

5月21日(土) グランドプリンスホテル京都にて開催。全国47都道府県から95名の父母委員と、総長以下大学選出役員30名が参加。総会前には2011年度地域ブロック懇談会を開催した。

2 春のオープンカレッジ

5月22日(日) 衣笠・BKCの両キャンパスにて開催。両キャンパスあわせて22企画実施し、3,011名が参加した。

3 都道府県父母教育懇談会

5月29日(日)～7月17日(日) 44都道府県46会場で実施。3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県、福島県、宮城県の3県は、別途、立命館大学主催の説明会を実施。46会場あわせて4,535名が参加した。

(2) 学生教育支援事業

1 正課等教育支援

①新入生教育支援事業：1回生におけるクラス活動の豊富化・実質化、初年次教育の活性化を目的とした活動に対する支援。
②表彰制度支援事業：各学部において正課等で顕著な成果をあげた学生777名を表彰。

2 課外活動支援

①文化・スポーツ応援事業：学部生を対象にした試合観戦チケットの配布や、応援グッズの作成、全国大会等へ応援バスの運行、学園祭等の全学行事に対する支援。

3 進路就職支援

①就職活動支援事業：キャリアフォーラムの実施、SPI模擬試験受験料補助、PLACEMENT GUIDEの作成、父母キャリアデザインブックの作成、チューデント・ネットワークの構築等に対する支援。
②資格試験等図書支援事業：進路・就職関連資料や資格取得支援資料、低回生からの社会観・労働観を涵養する図書、一般教養や読む力を育成する図書の購入に対する支援。

(3) 広報・通信事業

1 父母教育後援会だより(会報)の発行

父母教育後援会だより「夏号」を2011年8月に、「冬号」を2012年2月にそれぞれ33,000部発行し、父母教育後援会会員に送付した。

2 ホームページの管理・運営

懇談会事業のコンテンツを新たに作成し、事業内容が分かりやすく、見やすいホームページを作成した。また、「秋のオープンカレッジ」と「アカデミック京都ウォッチング」の参加申込み方法を、全国の会員が同じタイミングで一斉に申込みができるよう、郵送からWEB申込みに変更した。

(4) 特別事業

1 東日本大震災による父母・学生被災者への支援

【災害見舞金の支給】災害で被害にあわれた会員53名に対し、災害見舞金として1世帯あたり50,000円を給付した。
【(災害枠)家計急変奨学金】東日本大震災の直接的または関連する被災によって、2011年4月以降に推測される収入減少・家計急変によって、経済的に修学が困難となる学生を援助することを目的として、修学援助奨学金より10万円少ない額を有資格者20名に対して給付した。

2 「アカデミック講演会」の地方開催

「アカデミック講演会 in Fukuoka」(九州・沖縄ブロック)、「アカデミック講演会 in Tokyo」(関東・甲信越ブロック)を実施。2会場あわせて317名が参加した。

(5) その他

1 入学記念品の作成・贈呈

入学記念品として「キャンパスカレンダー」を作成し、新入生全員に贈呈した。

2 卒業記念品の作成・贈呈

卒業記念品として、「キングジムレザフェスA6ノートカバー&ショットノート」を作成し、卒業生全員に贈呈した。

4 秋のオープンカレッジ・委員懇談会

11月19日(土)秋のオープンカレッジ開始前の12時より、両キャンパスにおいて委員懇談会を開催。全国47都道府県から90名の父母委員と総長以下大学選出役員30名、オブザーバー2名が参加した。秋のオープンカレッジは、学部別懇談会と学生サポートルームカウンセラーによる相談会を実施。両キャンパスあわせて1,440名が参加した。

5 アカデミック京都ウォッチング

11月20日(日)京都歴史回廊協議会特選コース3コース、本学教員と京都の歴史・文化・街を訪ねるコース9コース、学生ガイドと巡るコース5コースの計17コースを実施し、568名が参加した。

4 国際交流支援

①留学生支援事業：留学生の国民健康保険料の補助を311名の申請者におこなった。
②国際交流支援事業：保護者に対して、分かりやすい留学情報を提供するための留学説明冊子作成に対する支援。

5 奨学金支援

①修学援助奨学金支援事業：学費負担者の死亡により修学することが困難な者への援助において、年間26名の出願があり、有資格者26名全員を採用した。
②家計急変奨学金支援事業：学費負担者の病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学が困難な者への援助において、年間122名の出願があり、有資格者53名を採用した。
③留学生奨学金支援事業：父母教育後援会会員を父母または保証人に持つ外国人留学生の学修の奨励に役立てることを目的とした奨学金制度において、20名の外国人留学生を採用した。

3 立命館大学父母教育後援会「入会のしおり」の送付

父母教育後援会の概要、年間を通しての事業、各種問い合わせ先等を掲載するとともに、父母教育後援会の役割の説明や懇談会への積極的な参加を呼びかけた。

4 キャンパスカレンダーの送付

学年暦や学校行事、各種窓口の連絡先などを掲載し、立命館大学の基本情報の共有をはかった。

5 オリジナルスケジュール手帳の送付

実用的で持ち歩きに便利なスケジュール手帳に学年暦や学校行事、各種窓口の連絡先などを掲載し、立命館大学の基本情報の共有をはかった。

3 2015年度大阪茨木新キャンパス開設に伴うキャンパス整備支援

2015年度の大阪茨木新キャンパス開設にともなう3キャンパス(衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪茨木新キャンパス)の展開・整備に際して、2011年度から2015年度までの5年間で総額1億円を学園に対して寄付することを2011年度総会で決定。2011年度において2,000万円の寄付を立命館大学へおこなった。

3 父母教育後援会オリジナルグッズの作成・配付

春のオープンカレッジ、秋のオープンカレッジ、アカデミック講演会の参加者に配付するオリジナルグッズを作成した。

2012年度 事業計画

(1) 懇談会事業

1 総会

5月19日(土)京都全日空ホテルで開催。総会前に「2012年度地域ブロック懇談会」を開催する。

対象：父母教育後援会委員・役員

2 春のオープンカレッジ

5月20日(日)衣笠・BKC両キャンパスで開催。低回生父母の参加が多いことから、低回生父母向けの企画を充実させ実施する。進路・就職企画では、2～3回生父母向けの講演会と、4回生父母向けの個別相談会を実施。また、全回生の父母が楽しめるキャンパスツアー企画やアカデミック講演会等も実施する。

対象：父母教育後援会会員

3 都道府県父母教育懇談会

6月2日(土)～7月15日(日)47都道府県49会場で開催。全体会では、「履修・学生生活」や「進路・就職」について本学教職員が説明する。続いて、回生別や学部別等グループに分かれてグループ別懇談会を実施する。参加者には個別時間割表を配付する。

対象：父母教育後援会会員

4 秋のオープンカレッジ・委員懇談会

11月17日(土)衣笠・BKC両キャンパスで開催。学部別懇談会を実施し、各学部の教員や学部事務室の職員が学部の学びや進路について説明する。あわせて学生サポートルームカウンセラーによる相談会を実施。参加者には、2012年度前期までの成績通知表を配付する。

対象：父母教育後援会会員

※秋のオープンカレッジ開始前に父母委員と大学選出役員とで委員懇談会を開催。

5 アカデミック京都ウォッチング

11月18日(日)開催。京都や滋賀の歴史や文化についての講義を本学教員が実施し、その後、本学教員または京都学生ガイド協会に所属する本学学生がガイドを務め、京都や滋賀の街を案内するフィールドワークを実施する。

(2) 学生教育支援事業

1 正課等教育支援

①新入生教育支援事業：初年次の小集団教育科目となる基礎演習を単位とするクラス活動に対する補助

②表彰制度支援事業：主として正課に関わる分野において、優れた成果をおさめた取組を対象とした表彰制度

2 課外活動支援

①文化・スポーツ活動応援事業

- 全学文化・スポーツ応援活動援助(応援バス・応援団派遣等)
- 応援グッズ作成援助
- 学園祭企画援助

3 進路就職支援

①就職活動支援事業

- キャリアフォーラムの開催
- SPI等模擬試験受験料補助
- 父母キャリアデザインブックの作成
- スチューデント・ネットワークの構築
- 3回生対象ダイレクトメールの作成および発送
- 4回生以上対象ダイレクトメールの作成および発送
- 4回生以上対象求人開拓、模擬面接の実施および父母との連携

②資格試験等図書支援事業：進路・就職関連資料や資格取得支援資料、読み力を育成し幅広い教養を身につける資料の提供

4 国際交流支援

①留学生支援事業：父母教育後援会会員が保証人である外国人留学生の国民健康保険料に対する補助

5 奨学金支援

①会員家計急変奨学金支援事業：父母教育後援会会員で学費負担者たる父母・保証人の死亡・病気・解雇・倒産等により家計が急変し、修学が困難となった学生を援助することを目的とした奨学金制度

②留学生奨学金支援事業：父母教育後援会会員を父母または保証人に持つ外国人留学生の学修の奨励に役立てることを目的とした奨学金制度

(3) 広報・通信事業

1 父母教育後援会だより(会報)の発行(年2回)

2 ホームページの管理・運営

3 立命館大学父母教育後援会「入会のしおり」の送付

4 キャンパスカレンダーの送付

5 父母教育後援会オリジナルスケジュール手帳の送付

(4) 特別事業

1 父母教育後援会設立20年記念事業の実施

①父母教育後援会設立20年記念誌「20年のあゆみ」の発行(2012年8月発行)

②父母教育後援会設立20年記念講演会(2012年10月6日)

※アカデミック講演会in Kyotoと兼ねる

2 「アカデミック講演会」の地方開催

①アカデミック講演会in Kyoto(2012年10月6日)

※父母教育後援会設立20年記念講演会と兼ねる

②アカデミック講演会 in Aichi(2013年1月26日)

3 2015年度大阪茨木新キャンパス開設に伴うキャンパス整備支援

2015年度大阪茨木新キャンパス開設にともなう3キャンパス(衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪茨木新キャンパス)の展開・整備に際して、2011年度から2015年度までの5年間で総額1億円を学園に対して寄付することを2011年度総会で決定。2012年度においても2,000万円の寄付を立命館大学へおこなう。

(5) その他

1 入学記念品の作成・贈呈

2 卒業記念品の作成・贈呈

3 父母教育後援会オリジナルグッズの作成・配付

4 弔慰金の献呈

静岡県

都道府県
父母教育
懇談会

全体会

中村隆夫静岡県父母委員が司会を務めた全体会では、まず学生団体である立命館大学放送局(RBC)が制作した映像が放映されました。図書館や食堂、ピアラーニングルームなどキャンパス内の施設が紹介されたほか、学生生活に密着した様子も公開。慣れた手つきで料理を作る学生の生活ぶりや両親への感謝の言葉を送る姿に、会場からは温かい笑いがこぼれました。続いて、大学代表のあいさつ、総会・オープンカレッジの報告の他、進路・就職や学生生活について報告・解説が行われました。

大学代表あいさつ

最初に八村広三郎情報理工学部長が大学を代表し、多岐にわたるご父母の支援に心から謝意を表しました。「中でも父母教育後援会が実施する表彰制度は、学生にとって大きな励みになっています。昨年度も777名を表彰。これほど大規模な表彰制度は、他に類を見ません」と、深く礼を述べました。



また2015年、大阪府茨木市に新キャンパスを開設することにふれ、大学のこれからの取り組みについても抱負を語りました。経営、政策科学の各学部と研究科など2学部4研究科が新キャンパスへ移転し、新たな教学を展開することに加えて、今後はいっそうキャンパスのグローバル化に力を注ぐことを発表。「情報理工学部では中国の大学と合同で新学部を設置することを構想中です」など、新たな計画も明かし、「今後教学の質のさらなる向上を図っていくためにも、ご父母の皆さまの率直なご意見、ご要望をぜひお寄せください」と結びました。

総会・オープンカレッジ報告

次いで、三輪 滋静岡県父母委員より、5月19日、20日にわたって開催された父母教育後援会総会、および春のオープンカレッジについて報告されました。オープンカレッジでは22もの企画が催され、約2,500名の参加者が集ったと、その盛況ぶりが伝えられました。総会では、2011年度の事業・決算報



告とともに、2012年度の事業計画と予算案が承認されたことを報告。父母教育後援会設立20年にあたる今年度は、記念講演会の開催や記念誌の発刊も予定されていることが告げられました。

履修・学生生活について

山本浩平文学部事務室職員からは、大学生生活の過ごし方や授業の履修について、成績表の見方などが解説されました。留学や教職課程など事前準備や長期的な計画が必要なプログラムについては、早めの取り組みの重要性が説かれました。その他、数々の奨学金制度、学生サポートルーム、保健センターなど学生をサポートする体制についても説明されました。

就職状況について

続いて、池田 真キャリアオフィス職員から、2011年度の進路・就職実績、および2012年度の就職状況について報告されました。2011年度は、東日本大震災による採用動向の流動化や厳選採用といった厳しい条件にあって、立命館大学生の就職決定率は91.4%、大学院進学者も含めた進路就職決定率は82.4%と、他大学と比べても高い実績を収めています。加えて国家公務員や司法試験などの難関試験の突破数も全国トップクラスで、「公務員に強い立命館大学」との評価を実証したと述べられました。



2012年度の就職動向を見ると、求人倍率が昨年度よりわずかながら上昇。「求人低下傾向は下げ止まった感があり、立命館大学への求人数も増加しています」と解説されました。一方、2011年度より「採用選

6月3日(日)、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップで、静岡県の父母教育懇談会が開催されました。親元を離れて京都・滋賀で学ぶお子さまの大学生活について知ろうと、数多くのご父母が会場に足を運びました。

グループ別懇談会

全体会の後は、3グループに分かれてグループ別懇談会が催されました。懇談会では、就職活動や留学制度など、ご父母の気になる点について、率直な質問が続出。大学の教職員と直接言葉を交わし、情報を得るいい機会となりました。また全体会で発表した大学院生2名も懇談会に出席。学生ならではのリアルな体験談や忌憚のない意見は、ご父母にとっても大いに参考になったようでした。





考に関する企業の倫理憲章」が改定され、採用広報の開始が前年より2か月遅くなった影響にもふれられました。「採用までのスケジュールが短縮されたことで、企業の絞り込みや志望動機の明確化を十分にできず、苦戦する学生が増えています。企業研究、自己分析をしっかりとするとともに、最後まであきらめず、粘り強

く就職活動を続けることが大切です」と説かれました。また正課・課外の活動を通じて失敗・成功体験を数多く得る、集団活動を経験するなど、大学生活を充実させることこそが、採用選考で問われる力の獲得につながる」と説明されました。

次いで、学生から就職活動体験が語られました。

就職活動体験談



理工学研究科2回生

伊藤 弘樹 さん

大学院では、通信や情報セキュリティに欠かせない暗号について研究しています。国際学会に論文を投稿したり、学会で発表したり、大学院で身につく力は、専門性だけではありません。就職活動でも、研究内容だけでなく、研究を通して得た経験をアピール。またTOEIC®のスコアを学部時代から150点以上伸ばすなど、「学部からの成長」を示したことで、志望企業から内定を得ることができました。

とはいえ就活では失敗もしました。同じ業界の企業ばかり30社にエントリーしたため、選考時期が短期間に集中するという事態に。1社に対して十分な準備をできないまま面接に臨み、つまづいたこともありました。エントリーの際には、志望企業を絞ることも大切だと思います。

就活は一人では乗り切れません。「自分のやりたいことをすればいい」と、進む道を応援してくれた両親や励まし合った友人の支えに、感謝しています。



経済学研究科2回生

藤井 麻央 さん

就職活動を始める前は、文系の大学院から企業への就職は難しいのではないかと考えていました。けれど目的意識を持って大学院で学び、そこで得たことを熱意をもって語れば、決して不利にはならないと今、実感しています。

経営学部だった学生時代にファイナンスを勉強し、税の本質を学びたいとの思いが膨らみ、大学院へ進学。「自分を成長させる2年間にしよう」と決意し、目的意識を持って学ぶ心がけてきました。国際課税の移転価格税制について研究し、次第に「将来は、企業の国際進出をサポートする仕事をしたい」と思うようになりました。

就活では、研究に至る問題意識や、学んだことを将来にどうつなげるかが問われます。それに対し、経験を踏まえながら、論理的に語ったことが評価されたと思っています。緊張から面接に失敗したこともありましたが、その後しっかり対策したことで希望の進路をつかむことができました。



Social gathering
in
Shizuoka



ご参加いただいた父母の方々の声

Voice

市川 さんご夫妻
経済学部3回生



今年、就職活動を控える息子。心配していますが、離れて暮らしているため、じっくり話す機会も多くありません。親として何が出来るかを知りたくて、参加しました。心に残ったのは、「子どもの選択を見守るべき」というアドバイスです。息子はバスケットボールやゼミでの勉強にがんばっている様子。子どもを信じて、進む道を応援してやるつもりです。

Voice

多々良 さんご夫妻
経済学部1回生



この春入学したばかりの息子は、毎日楽しく過ごしているようで、親の心配をよそにすっかりなしのつぶてです。今日は学生さんの就職体験談が印象的でした。自分の考えを堂々と述べる姿がすばらしかった。息子も4年後、彼らのように成長してくれることを願うばかりです。口で論すより、背中を見せることが親にできる一番の教育かなと思っています。



アカデミック講演会

毎年、春と秋のオープンカレッジの際に大学内で開催し、大変ご好評をいただいている「アカデミック講演会」。大学まで足を運んでいただくのが難しい日本各地のご父母にもご参加いただけるよう、2012年1月21日(土)に福岡で、翌22日(日)に東京で開催しました。それぞれ陰山英男先生(立命館大学教授、立命館小学校副校長)、および後藤典生先生(高台寺執事、圓徳院閑栖住職)がご講演。両先生の熱のこもった語り口に、会場を埋めつくしたご父母の皆さまは聞き入っておられました。

福岡会場

in
Fukuoka

これからの教育 父母の学び、父母のための陰山メソッド

[講師] 陰山英男(立命館大学教授 立命館小学校副校長)

結果が求められるグローバリズムの時代 教育においても重要なのは「効率」

私の本業は、小学校の教師です。本日は主に小学生を教育した経験をお話ししますが、「学び」については、小学生も、大学生も、あるいは皆さまのような大人も変わりはないと、私は思っています。

これからの教育を考える上で、最も大きなポイントの一つは、グローバリズムでしょう。空間と時間を超えて同じ価値を持ったものがつながっていく。それが、グローバリズムの時代です。たとえば10年余り前、公立小学校に勤める一介の教師だった私がコンピュータを使った指導方法を考えたことが国境を越え、共感してくれたビル・ゲイツ氏に会うことになりました。こうした時代に、我々教師、そしてご父母は、どうしていかなければならないのでしょうか。

まず考えてみてください。要領は悪いけれどコツコツ努力する子と要領よく何でもやれる子のどちらが良い子でしょうか？会場でも「コツコツ努力する子」に軍配があがっているようですね。これが一般的

な日本人の考え方です。これまで日本では、努力主導型の教育が重視され、知育よりも徳育に力が注がれてきました。しかし現実の社会で、朝から晩まで生真面目に営業しても契約を取れない人が評価されるでしょうか。いいえ。社会で評価されるのはただ一つ、結果です。とりわけ国際社会はそれが顕著です。こうした現代にあっては、教育においても、重視すべきは「効率」だと私は考えています。一定時間内で最大限の教育効果をもたらす方策が何より必要です。要領がいいことをネガティブに捉えるような発想でいる限り、日本の教育が世界の若者を相手にしていくことは難しいでしょう。

「国際学力調査」の結果から、日本の子どもの化学、数学、読解力が落ちていと言われて久しく経ちます。ここ数年やや持ち直していますが、いまだ低下傾向を克服したとはいえません。

ここでおもしろい事実を紹介しましょう。イギリスのゲームショップで、私が関わった「百ます計算」ソフトがベストセラーになったんです。その理由を知ろうと渡英し、国内屈指のケンブリッジ大学合格者数を誇るロンドンの名門校を訪ねました。校長に「どんな教育をしているのか」と問うと、即座にこんな答えが返ってきました。「徹底した計算力の強化」と「基礎的な言語能力の重視」だと。驚きました。なぜならイギリスは元来、論理数学を重視し、子どもに計算練習をさせる教育文化のない国だからです。ところが授業を見学すると、生徒たちはなんと日本の計算問題集に取り組んでいました。もう一方の「言語能力の重視」とは、日本流に言うと漢字学習です。この校長の見解は、常々私が強調してきたこととまったく同じでした。

計算や言語能力の強化が教育に役立つ理由も、近年明らかになってきました。計算は、脳みそを鍛え上げる最も有効なツールなのです。しばしば「年を取っても百ます計算の効果はありますか」という質問を受けますが、あらゆる人に効果があることが、調査によって実証されています。実際千葉県では、交通事故で脳に障がいを負われた方のリハビリツールとして百ます計算が用いられていますし、そのほか高齢者福祉施設や企業研修でも利用されています。子どもを教育する際にも、難しいことをじっくり考えさせる方が効果があるように思うのは、





錯覚です。実は、簡単な計算を高速で行うことによってこそ、脳は鍛えられるのです。一桁の簡単な計算なら、脳は高速に動いて処理できます。こうして高速に動いている時、脳の働きは最も高まります。つまり学習とは、脳を速く動かすトレーニングなのです。

さらに最近、新たに分かったことがあります。脳の働きを活発にし、学習効率を高めるには、同じ問題を繰り返し解くことが効果的なのです。立命館小学校で子どもたちにまったく同じ百ます計算を1週間続けさせ、最終日にこれまでの百ます計算と新しい百ます計算の両方をさせたところ、新しい問題を解く方が、繰り返し解いてきた問題を解くより速かったという結果が出ました。このことは百ます計算の繰り返し、脳の働きそのものを高めたことを示しています。

脳の力を鍛える上で、百ます計算と並んで重要な役割を担うのが、漢字です。漢字はイメージ力を鍛えます。たとえば「川」と「河」の意味はだいたい同じですが、前者は「小川」、後者は「大河」と使われるように、人は「川」からは日本の清流のせせらぎを、「河」からはガンジス川のような雄大な流れを思い浮かべます。漢字を覚えるトレーニングを継続すると、こうしたイメージ力を高めることができます。

まとめると、学習とは、脳のトレーニングです。そしてその最も効果的な方法は、「読み書き計算」です。読み書き計算を徹底することで、脳の情報処理速度は飛躍的に上がります。脳の基本的な能力が高まってこそ、より難度の高い課題も解けるようになるのです。

睡眠、食事、テレビの見過ぎに注意し 「思い出し能力」を鍛えましょう

脳の働きを高めるためのアドバイスとして、三つ挙げましょう。一つは、睡眠です。人間の脳の働きを高めるには、それにふさわしい睡眠時間があるのです。広島県の小学5年生2万6千人を対象に学力テストを行い、睡眠時間との関係を調べたところ、睡眠時間が長くなるにつれて成績が上がり、7～9時間で安定することがわかりました。これにはホルモンが関係しています。記憶に影響を与える成長ホルモンや情緒をつかさどるメラトニンは、夜10～11時頃から分泌が盛んになり、深夜12時前～1時頃にピークを迎えます。この時間にきちんと眠

ることが、成長ホルモンやメラトニンの分泌を促し、知能向上に結びつくというわけです。奇しくも私が教師になった昭和56年、教育に重大な影響を与える変化が起きました。この頃、日本中の中学校で校内暴力の嵐が吹き荒れていました。一方ではまさにこの年、任天堂からファミコンが発売されました。これを契機に、子どもたちの睡眠と学習が狂い始めたのだと私は考えています。

次に大切なのは、食べることです。1回の食事に使われる食材の種類と成績との関係を調べたデータでは、食品数が少ないと成績も低いことが示されています。食事の中でもとりわけ重要なのが朝ご飯です。

さらに三つ目は、テレビです。テレビを見てはいけないとは言いません。一日1、2時間なら問題ありません。しかしそれ以上は子どもの学力や情緒に深刻な影響を与えます。イライラしてい

る子どもの60%が一日5時間以上テレビを見ているという研究結果も明らかにされています。とはいえ睡眠や食事、テレビの見過ぎに注意することを「勉強のために」やっているうちは本物になりません。生活習慣として定着させる必要があります。習慣とは努力の無意識化のこと。当たり前の習慣として継続を担保することによって、真の力になるのです。

今、社会ではしばしば「思考力」が問われます。「思考力」とは、ざばり「思い出し能力」です。日本では、これまで記憶力というインプット能力が重視されがちでしたが、重要なのはむしろ、ふさわしいことを瞬時に思い出せるアウトプットの能力です。それを高めるには、読み書き計算を通した脳のトレーニングが効果的です。こうした学びは、小中高生だけでなく、大学からむしろ実社会に至った人に効果を発揮するものなのです。

どのような方法で学習しなければならぬのか、それによってどんな能力を高めるのか。それを論理立てて考えていくことが、これからの日本の教育に必要なのではないかと考えています。



PROFILE

かけやま・ひでお

1958年兵庫県生まれ。岡山大学法学部卒。文部科学省、中央教育審議会 教育課程部会委員、大阪府教育委員会教育委員、元内閣官房「教育再生会議」有識者委員などを歴任。兵庫県朝来町立(現朝来市立)山口小学校教師時代から反復練習で基礎学力の向上を目指す「陰山メソッド」を確立し脚光を浴びる。2003年4月尾道市立土堂小学校校長に全国公募により就任。百ます計算や漢字練習の反復学習を続け基礎学力の向上に取り組む一方、そろばん指導やコンピューターの活用など新旧を問わず積極的に導入する教育法によって子供たちの学力向上を実現している。2006年4月から立命館大学教育開発推進機構教授(立命館小学校副校長兼任)に就任。

東京会場

桃山時代に生きた人のこころ 秀吉と寧々ねねと戦国武将から

[講師] 後藤典生 (高台寺 執事 圓徳院閑栖住職)

in
Tokyo

相手を思いやる心を持っていたから 寧々さんに愛され、天下人となった秀吉

毎年春先、高台寺には桜の開花状況を問い合わせる電話がたくさんかかってきます。皆さんはどんな桜がお好きでしょうか。満開の時ばかりが桜ではありません。堅い蕾も、咲き初めのピンクも、そして枝だけになった冬枯れの樹木もまた桜です。これは、私たちの人生そのものです。若さを誇る満開の時期ばかりでなく、いくつになっても人はいきいきと生きています。そのことをどうか忘れないでください。

さて高台寺は、今から十数年前、日本のあらゆるお寺に先駆けて、夜のライトアップを始めたことから全国に知られるようになりました。平安遷都1200年記念の一環として「一度だけ」と行ったのが始まりですが、当初は仲間である寺院から大反対されました。私たち禅宗の僧侶は朝3時に起きます。それから座禅を組み、拭き掃除、食事の後お客様を迎え入れ、午後2時には門を閉め、坐禅や夜の務めを果たすという生活を2000年近く続けてきました。その伝統を変えることはできないというのが大半のご意見でした。伝統を守ることは確かに大切ですが、お寺といえども古いことを踏襲するばかりでは、時代に取り残されてしまうと私は思いました。反対を押し切ってライトアップに踏み切り、今日の京都の賑わいの一端となったのです。この経験から私は、続けることと同時に変えていくことの大切さも教わりました。こ

れは、新しいものを取り入れた桃山時代の感覚にも通じます。これからそんな時代の人々の心について、お話ししましょう。

高台寺は、寧々さんの寺です。その夫であり、桃山時代の立役者・豊臣秀吉とも深いゆかりがあります。秀吉にはわからないところがたくさんあります。一つには、なぜ天下人にまで出世できたのかということです。織田信長の草履を温めて歓心を買ったというエピソードが有名ですが、厳格な身分格差があった時代、実際にはそんなことで出世できたとは到底思えません。さらにもう一つわからないことがありました。それは、なぜ女性にもてたのかということです。高台寺に残る書物に秀吉はこう書かれています。「家甚だ貧なり、身分卑しい」と。しかも秀吉は、美男子でもありませんでした。それにもかかわらず、当時織田家中一かわいらしいと評判だった寧々さんは秀吉に惚れ、両親の反対を押し切って、一緒になったのです。確固とした意思を持ち、自分の人生を自分で選択する。実に桃山の女性らしい生き方です。

秀吉が天下を取り、また寧々さんに惚れた理由が、近年、ようやくわかりました。秀吉が寧々さんに宛てた手紙が出てきたのです。それには、秀吉が命がけの戦のさなかにも相手の体を心配する様子が見られたっていました。しかも秀吉は口先でなく、本気で相手を思いやる人でした。その態度は、仲間や家臣に対しても変わりませんでした。努力家で人の心がわかる。だからみんなに愛され、出世できたのでしょ。これが、桃山時代を代表する天下人・秀吉の心でした。



Parents' Voices

春のオープンカレッジに参加された 父母の皆さまにお伺いしました

衣笠キャンパス

国際関係学部1回生の父母

大学のサポート体制について知りたいと思い、夫婦で学生生活講演会に参加しました。授業をサポートするESという学生アルバイトがあるんですね。これなら勉強と両立できるなと思いました。学生の健康に留意してくれる保健センターの利用も合わせて、帰ったら子どもに知らせたいと思います。それから、座談会で話していた学生2人は、奨学金をもらって下宿生活をしているとのこと。よくやっているなど驚きました。



びわこ・くさつキャンパス

スポーツ健康科学部2回生の父母

子どもの就職活動に備えて「進路就職講演会」に参加しました。内容が大変面白く、教育現場で働く自分のためにもなる時間を過ごせました。就職活動に立ち向かうには、学力はもちろんですが、それ以外にも、話す力、聞く力など、人と関わるためのコミュニケーション力など、大切なポイントがあると知りました。そうした力を身につけさせるためにも、いつも会話のある明るく楽しい家庭を守ることが親の務めだと思いました。



衣笠キャンパス

産業社会学部3回生の父

就職する前に大学院や留学で経験を積むのも選択肢のひとつだと考えています。親も情報収集して、アドバイスできたらと思い、参加しました。大学院進学説明会の学生体験談で聞いた、「就職活動がうまくいかないからと進学しても、目標もなく同じ気持ちのままではだめだ」という話は印象に残りました。また、高卒でも大学院に受け入れる立命館大学の門戸の広さに感心。下の子ども立命館の附属校生なので、いろいろと参考になりました。



びわこ・くさつキャンパス

経済学部1回生の父母

「学生生活講演会」では、学生さんたちの生の声を伺い、親の立場として大変参考になりました。「学生生活は何もしなければそのまま終わってしまう」という言葉に、勉強はもちろん、人との接点を持ちながら打ち込めるものを見つけてほしいと思いました。また、初めて一人暮らしをする子どもを心配していましたが、「あまり口を出さずに支えてほしい」という学生さんの声を聞き、今後は子どもを信頼して見守っていこうと思います。



衣笠キャンパス

文学部1回生の父母

初めてこうした行事に参加して大学を間近に見て、感激しています。帰ったらキャンパスツアーでナビゲーターの学生さんから伺った話を聞かせてあげるつもりです。同じ学部の友達から「名古屋弁」が移ったと言う娘。全国から学生が集まる総合大学ならではの、スペイン語の授業が楽しい様子。いずれは留学したいと考えているようなので、応援したいと思っています。勉強もそれ以外も思う存分楽しみながら、成長してくれたらと願っています。



びわこ・くさつキャンパス

情報理工学部2回生の父母

息子は入学時から大学院進学を志望しています。余裕を持って話を聞いておきたいと思い、今回の大学院進学説明会に参加しました。印象に残っているのは、目標を持って大学院に進まれた大学院生2名の体験談です。大学院での過ごし方はもちろん、進学のための準備も大切であることがよく分かりました。息子にも、明確な目標を持って、その実現のために努力してほしいと思っています。



衣笠キャンパス

経営学部3回生の父母

子どもが学んでいるのはBKCですが、就職活動を前に衣笠の進路・就職講演会が聴きたくて衣笠キャンパスに参加しました。特に、有名企業だけでなく優良企業を探しなさいというお話が印象に残りました。娘にもアドバイスしたいと思います。娘は商品開発やマーケティングなどに興味を持っているみたい。短期留学やTOEIC®や簿記の試験に挑戦するなどががんばっているの、それが報われることを願い、見守るつもりです。



びわこ・くさつキャンパス

経営学部1回生の母

立命館大学には充実した設備や支援体制が整っています。基本的には娘の自主性に任せていますが、取りこぼすことなく活用してほしいと考え、留学説明会とスキルアップ説明会に参加しました。エクステンションセンターについては、さらにお金をかけて勉強するというところに少し疑問があったのですが、体験談を聞いて、それだけの価値があるということを実感。来て良かったと感じています。



立命館大学父母教育後援会だより 2011年度冬号 読者アンケートについて

「立命館大学父母教育後援会だより」では、ご父母の皆さまのご意見・ご要望を今後の誌面づくり、そして大学運営に反映していくため、「読者アンケート」を実施しています。「2011年度冬号」の読者アンケートの返送数は計1,337通、回収率は4.2%でした(2012年3月末現在)。とりわけ進路・就職について高い関心が寄せられるなど、全国47都道府県のすべての学部・回生のご父母のリアルなお声が数多く集まりました。

(1) アンケート集計結果

アンケート数計1,337通のうち、1回生からの回答が40%と最も多く、続いて2回生が29%、3回生が19%、4回生以上が9%となりました。低回生からの回答が全体の約70%となり、低回生の会報への関心の高さが伺えます。また回答者の続柄は、母親が72%、父親が26%でした。母親からの回答が圧倒的に多いものの、父親からの回答も約3割にのびます。この割合(母親7割、父親3割)はこれまでのアンケート結果と同様でした。また学部別に見ると、回答者数が多い学部は、①文学部(15.9%)、②理工学部(12.5%)、③法学部(11.9%)となりました。

参考1 回答者の子供の学部

法学部	11.9%
産業社会学部	11.7%
国際関係学部	4.0%
政策科学部	4.1%
文学部	15.9%
映像学部	1.6%
経済学部	11.4%
経営学部	10.3%
理工学部	12.5%
情報理工学部	6.1%
生命科学部	3.9%
薬学部	2.5%
スポーツ健康科学部	2.4%
無回答	1.6%
総計	100.0%

参考2 回答者の子供の回生

1回生	40.0%
2回生	29.0%
3回生	19.0%
4回生以上	9.0%
無回答	3.0%
総計	100.0%

参考3 回答者の続柄

父親	26.0%
母親	72.0%
その他	1.0%
無回答	2.0%
総計	100.0%

(2) 興味を持たなかった記事について

今号の記事の中では、①「大学で見つける。本当にやりたいこと。」(22.2%)、②「親の心配、子どものホンネ」(19.5%)、③「社会で活躍する校友インタビュー」(13.2%)の順に高い評価をいただきました。特に①の「大学で見つける。本当にやりたいこと。」に対する回答は20%を超えました。

参考4 関心が高かった記事(上位5)

1	大学で見つける。本当にやりたいこと。	22.2%
2	親の心配、子どものホンネ	19.5%
3	社会で活躍する校友インタビュー	13.2%
4	秋のオープンカレッジ	7.4%
5	2012年度からの新たな奨学金制度について	6.7%

(3) 興味を持たなかった記事について

「興味を持たなかった記事はない」という回答が圧倒的に多く、57%を超えました。その他、「興味を持たなかった」と回答された記事は、いずれも5%台から3%台と低い水準でほぼ横並びとなっており、目立つて評価の低い記事はありませんでした。

参考5 関心が低かった記事(上位5)

1	興味を持たなかった記事はない	57.5%
2	きょうのおひる	5.7%
3	アカデミック京都ウォッチング	5.6%
4	保健センター健康通信	4.3%
5	秋のオープンカレッジ	3.8%

(4) 次号(2012年度夏号)の掲載記事について

次号で掲載してほしいテーマとして最も多かったのは、①進路・就職に関することで、37.7%でした。次いで②課外の学びに関すること(19.2%)、③学生生活に関すること(17.8%)、④大学での学び・研究活動に関すること(15.8%)と続き、この4つのテーマへの要望が、全体の90%を占めました。この結果から、ご父母にとっても、お子さまの「進路・就職」が最大の心配であることが分かります。それ以外のテーマについても関心を持って読んでいただくため、「進路・就職×課外の学び」や「進路・就職×学生生活」、「進路・就職×教育・研究」など、さまざまなテーマを「進路・就職」と結びつけて紹介し、読みやすい誌面づくりを工夫していきます。

参考6 次号に掲載して欲しい内容について

1	進路・就職に関すること	37.7%
2	課外での学びに関すること	19.2%
3	学生生活に関すること	17.8%
4	大学での学び・研究活動に関すること	15.8%
5	本学教員や校友(卒業生)のインタビュー	6.0%

(5) 父母教育後援会の活動でもっとも興味のある事業について

最も興味のある事業として挙げられたのは、学生教育支援事業で、全体の58.8%でした。続いて懇談会事業が33.7%を占め、この2つの事業への関心が全体の90%を超えました。こうした結果をふまえ、今後もご父母の期待に応えられるよう学生教育支援事業および懇談会事業をさらに積極的に展開していく予定です。

参考7 次号に掲載して欲しい内容について

1	学生教育支援事業	58.8%
2	懇談会事業	33.7%
3	広報事業	6.2%
4	その他	0.2%

(6) その他、父母教育後援会に寄せられた主な意見(自由記述)

- いつも送っていただいていたが今回初めて読んだ。子供との距離が近くなったように感じた。もっと早い時期から読めば良かったと思った。
- 「後援会だより」を読んでこれからの親としてどうすればよいか考える良い刺激になっている。
- 子どもは、年に数回しか帰省しないため、学校の情報を得るために欠かせないものになっている。
- 大変読みやすく興味のあるものばかり。特に今子どもが就職活動中なので参考になった。あまり話をしてくれないので心配ばかりしてしまう。
- 親が直接見ることのできない学生生活や、迫り来る就職活動についての情報を得られる媒体として、とても期待している。これからますます充実させてほしい。
- 秋のオープンカレッジは悪天候で参加できず残念だったが、その様子がよくわかり、来年は必ず参加したいと思った。立命館大学の父母の方は、教育・子育てに非常に積極的だと感じた。
- いつも内容が充実していて楽しみ。息子が気づかぬことが載っているようで、読み終えると、離れて暮らす京都の息子にメールで知らせたりしている。
- 娘がオリターやライブラリースタッフをしている。特集の「大学で見つける。本当にやりたいこと。」を読み、良い仲間にも恵まれ、少しは大学や他の学生達のお役に立てているのだと実感できた。
- 学生生活、就職活動の成功例だけを掲載するのではなく、失敗したこと、つまづいた時のこと、そしてその失敗やつまづきの対処方なども掲載してほしい。
- 「保健センター健康通信」の内容は今どき知られ過ぎている内容に留まっている。もっと掘り下げた内容を掲載してほしい。

成人・大学生の予防接種について

予防接種は子どもだけのものではありません

予防接種の記録ページが母子手帳にあるためか、「予防接種は子どもにするもの。大人になったらせいぜいインフルエンザの予防接種ぐらい。」と思っている人が少なくありません。大人にも必要な予防接種が多数存在します。本稿では大学生に必要な予防接種についてご説明します。

将来のガンを予防するワクチン（予防接種）があります

〔ヒトパピローマウイルス（HPV）〕

女性特有のがんのうち、「子宮頸がん」はヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因で起こることが知られており、ワクチンでこの感染を防げば発ガン予防になることが知られています。詳しくは、2010年冬号をご参照ください[※]。注射に伴う痛みが強い場合があることと費用が高額なために躊躇する人が少なくないようですが、若年女性は積極的に接種されることをお勧めします。

※ヒトパピローマウイルス（HPV）に関する2010年冬号は保健センターのホームページ内「保健センターからの広報記事等」でご覧いただけます。

子どもの頃に接種していても効果が十分でない（持続していない）場合があります

現在在学中の学生さんが子どもの時には、麻疹（はしか）や風疹は1回だけ接種すれば良いと法律で定められていました。1回だけの予防接種では、十分に効果が出なかったり、たとえ始めに効果があっても年月の経過とともに効果が減弱する場合があります。2007年に大学生・高校生の間で流行した麻疹はこれらが原因で、大学生の年代で十分な免疫を持つ人が少なくなっていたために流行してしまったと考えられています。人口の95%に

予防接種が行き渡れば流行を防止できると考えられていますが、厚生労働省の発表では、高校3年生が対象の第4期麻疹・風疹混合ワクチン（MR）の2011年度接種率は全国平均で62.5%に過ぎませんでした。本学でも4回生薬学部臨床実習前検査（2011年度）で、25%の学生が麻疹抗体陰性であったため追加接種が必要でした。

抗体が陽性の方がワクチンを接種しても問題はありませんが、抗体検査を受ける機会（留学前や臨床実習前など）がない方は、各自で積極的に検査を受けてください。抗体が無ければ追加接種を受けておきましょう。特に、MR4期の接種を受けておられない方は、任意接種で受けておくことを強くお勧めします。

成人の予防接種

わが国では成人に対する予防接種のガイドラインや推奨スケジュールはありませんが、成人でも打っておくべき予防接種がいくつかあります。米国の成人に対する予防接種スケジュールが参考になりますので、表にお示しします。日本では馴染みの無いワクチンや承認されていないワクチンも含まれています。主たるものだけ以下にご紹介します。

〔破傷風〕

破傷風は、土の中などに存在する破傷風菌に感染し、毒素によって強直性けいれんをひき起こす感染症であり、致死率の高い疾患です。定期予防接種を確実に受けておられる場合は、11歳時に破傷風・ジフテリア2種混合ワクチン（DT）を接種されているはずですが、10年以上経過すると破傷風の抗体価は低下するため、10年毎に破傷風トキソイド（T）の追加接種を受ける事をお勧めします。過去に接種をしている場合はとりあえず1回の接種で10年間は効果があると考えられていますが、はじめて破傷風のワクチンを接種する場合は3回接種が必要です。

米国では、破傷風だけではなくジフテリア（D）や百日咳（P）のワクチンを含む成人用の二種または三種混合ワ



米国で推奨される成人の予防接種(2012)

(MMWR/February 3, 2012/Vol.61/No.4 より改編)

ワクチン	年齢					
	13-21	22-26	27-49	50-59	60-64	≥65
インフルエンザ	毎年1回					
破傷風・ジフテリア・百日咳 (Tdap) ^{※1}	Tdapを1回だけ接種後、その後は10年毎にTd					Tdap/Td
水痘	2回					
ヒト・パピローマウイルス (HPV) 女性	3回					
ヒト・パピローマウイルス (HPV) 男性 ^{※1}	2回					
帯状疱疹 ^{※1}					1回	
麻疹・ムンプス・風疹 混合 ^{※1}	1又は2回				1回	
肺炎球菌 13価 ^{※1}	1又は2回					1回
髄膜炎 ^{※1}	1回又は複数					
A型肝炎	2回 ^{※1}					
B型肝炎	3回					

※1 日本では未承認 ※2 日本のワクチンは3回接種

対象年齢全員:過去の接種記録が不明、又は既往の明らかでない場合。

他の危険因子が存在する場合に推奨。(例:疾病、職業、生活習慣、その他)

12ヶ月未満の乳児に接触する65歳以上の人にはTdapを推奨する。乳児との接触がない場合は、TdでもTdapでも良い。



クチン(Td/Tdap)の接種が勧められています。残念ながら、これらのワクチンはわが国では承認されていません。近年、成人での百日咳の発症・流行が問題になっていることから、今後日本でも成人に対する百日咳ワクチン製剤や接種ガイドラインが必要と考えられます。

【肺炎球菌】

日本人の死因の4位は肺炎です。その原因の半数を占める肺炎球菌に効果のあるワクチンが開発されています。肺炎球菌には80種類以上の型がありますが、そのうちの23種類の成分を含む23価が成人用、7種類(あるいは13種類)の成分を含む7価(あるいは13価)が小児用です【日本では7価のみ・米国では13価】 65歳以上の方には23価の接種をします。若年成人であっても心臓病・呼吸器疾患・糖尿病・腎臓病(腎不全や人工透析を受けている人)などの慢性疾患のある人には米国では接種が勧められています。当初認められていなかった再接種は2009年より対象を限定して認可されたので、若年成人でもリスクがあれば積極的に接種することが勧められます。

渡航前の予防接種

【A型肝炎】

A型肝炎は、A型肝炎ウイルスの経口感染で発症する肝臓障害です。小児期に感染しても多くは不顕性感染と

なり、肝炎は発症しません。高齢者の多くは抗体を持っていますが、50歳未満の方はほとんど抗体を持っていないことが知られています。大学生の年代ではほとんどの人に抗体がありません。アジアの各国へ旅行・留学する前には予防接種をしておくことをお勧めします。

A型肝炎のワクチンは、日本では16歳以上に3回(0日、1か月、7か月)接種する製品が存在します。米国で使用されているもの(HAVRIX®)【日本では未承認】は2回(0日、1年)接種すれば足ります。

【コレラ・大腸菌ワクチン】

発展途上国へ旅行する人の半数以上は旅行者下痢症にかかり、スケジュールに支障をきたすことがあるそうです。その原因として最も多いのが病原性大腸菌ですが、コレラに対する経口ワクチン(DUKORAL®)【日本では未承認】がこれにも有効であると言われています。希望される方は個人輸入で投薬してもらえらるトラベルクリニックへご相談ください。

下記の保健センターのホームページもご覧ください。

〈立命館保健センター〉

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/hoken/>

立命館大学ホームページ ▶ 各センター等 ▶ 保健センター

公費助成の取り組みへのお礼とご協力のお願い

私学助成は1970年に補助金制度が創設されたときから始まり、私学関係者や保護者からの要求と運動によって1975年に成立した私立学校振興助成法には「経常的経費の2分の1以内を補助することができる」ことが明記されています。しかし近年、私学の経常費に占める補助金の割合は10%程度にとどまっており、またその補助金は多くが国立大学へ配分されるなど、国立大学と私立大学への公的な補助については大きな格差があります。その結果、家計に占める教育費負担の割合も大変高くなっています。

このような状況のなか、立命館大学では、1971年から学内の関係パートによる「公費助成のための立命館大学全学連絡協議会（通称：全学公助連）」を組織し、これ以降、保護者負担の軽減、教育・研究の充実等のため公費助成の増額を求める取り組みを進めてきました。

2011年度も保護者の皆さまに署名へのご協力をお願いしてきましたが、学生・院生や教職員による署名とあわせて全体で8万筆近くの署名を集めることができました。改めて御礼申し上げます。

2011年度の活動報告

① 学習会

教職員、学生・院生が公費助成に関する情勢や必要性を共有できるよう、公費助成に関する学習会を実施しました。

② 署名活動

学内では、各職場や小集団クラスにおいて署名用紙を配布し、その意義の説明とあわせて署名への協力をお願いしました。また前期セメスター [6月29日(水)から7月1日(金)]の3日間、後期セメスター [11月7日(月)から11月8日(火)]の2日間、学生・院生と教職員が協力し、全学署名デーを実施し、キャンパス内の学生・院生、教職員に署名を呼びかけました。

③ 中央要請行動

2011年11月25日(金)に、全国の私大関係者とともに私大助成中央要請行動を行いました。本学からは教職員と学生が参加し、衆参両議院の国会議員等を訪問し、署名用紙を届けるとともに、公費助成の増額や必要性について直接訴えました。また、日本商工会議所や日本貿易振興会を訪問し、就職活動の早期化・長期化の改善を求める取り組みについて、学生が直接状況を説明しました。例年より多くの議員や関係者の方が学生等の説明に熱心に耳を傾けていただき、多くの共感を得ることができました。



2012年度の予定

今年度も2011年度に引き続き、学生・院生や教職員に対して公費助成に関する理解を広めるとともに、署名活動や請願活動に取り組む予定にしています。

今年度についても、1～3回生の保護者の皆さまに署名用紙をお送りいたします。
引き続きご協力をお願いいたします(郵送は7月下旬、返送締め切りは9月中旬の予定です)。

学園トピックス

学生の取り組み

「ミンナDEカオウヤ～ええもん買って被災地支援～」プロジェクトを実施

6月18日(月)～6月22日(金)の5日間、衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパスにて、立命館大学震災支援情報ネットワーク[311+Rnet]が「ミンナDEカオウヤ～ええもん買って被災地支援～」プロジェクトを実施しました。このプロジェクトは、東日本大震災で被災した障害者福祉事業所で製作されている授産品を都市部で販売して、被災地の障害者の方々の生活を支えようというプロジェクトです。5日間の総売上は、約33万円にも上り、学生だけでなく周辺地域の方々もお越しくださいました。



教育・研究の取り組み

「白華」現象を利用したコンクリートに模様づけをする技術を開発

立命館大学工学部の岡本享久研究室と平尾和洋研究室は丸栄コンクリート工業株式会社と共同で、コンクリートの素材を活かして模様づけを行う技術(特許出願中)を開発しました。この技術を活かし、特急列車のヘッドマークをあしらったコンクリート製の椅子を2脚製造し、大阪ステーションシティの広場に設置しています。また、同じく「超高強度繊維補強コンクリート」を使用した桜の柄の椅子とテーブルのセットも展示しています(2013年4月26日まで)。



学園の取り組み

立命館大学、広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)による「キャンパスアジア・プログラム」国際交流協定の締結

立命館大学と広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)は、3大学による国際交流協定を締結しました。3大学はそれぞれの国の文部科学省・教育部が連携し、募集した「キャンパスアジア・プログラム」に採択され(2011年11月)、2013年2月より共同プログラムをスタートします。本プログラムでは各大学で選考された学部生30名(1大学10名、立命館大学は文学部)が、2年間にわたって3大学において共同生活をしながら共に学び、日中韓の言語力および文化・文学・歴史等に関する深い理解力を身につけ、3カ国間に存する諸問題を



人文学的知見から洞察・分析し、具体的な解決を図ることができる、東アジア次世代リーダーを育成することを目的としています。

BKCに「びあら」がオープン

4月3日(火)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)の2つの図書館内の一部を改装し、学生同士の学び合いを促進する学習空間として、「ピア・ラーニングルーム(呼称『びあら』)」が誕生しました。2011年4月に衣笠キャンパスオープンした「びあら」のコンセプトを踏襲しながら、BKCでは新たに学習支援サービスを行なう場として、大学院生や若手講師が個別の学生ニーズに合わせた学習支援を行う「数学・物理学学習サポート」、「化学・生物学学習サポート」や、日本語の論文やレポートの書き方をサポートする「ライティング・サポートカウンター」を設けています。



「2011年度事業報告書」および「2012年度事業計画書」のご案内

このたび、学校法人立命館の「2011年度事業報告書」および「2012年度事業計画書」を発行いたしました。大学ホームページでも閲覧可能です。http://www.ritsumei.jp/profile/a08_j.html なお、冊子をご希望の場合は、下記の事務局宛にご希望の冊子名、冊数とお名前、送付先、電話番号をご記入の上、FAXにてお申込みください。



学校法人立命館
事業計画課

〒604-8520
京都市中京区
西ノ京朱雀町1番地
TEL:075-813-8244
FAX:075-813-8252

立命館CLUB

立命館大学のメールマガジン
「立命館CLUB」をスタートいたしました。
ただいま会員募集中!!



立命館CLUBは、立命館大学の「いま」をお届けする無料のメールマガジンです。会員登録すると、大学の近況、活躍する学生や教員の情報、参加可能なイベント案内などの情報が月に2回届きます。毎号読者プレゼントもご用意しています。立命館CLUBのホームページより、ぜひ会員登録をお願いします。



立命館CLUB会員登録用HP
<http://www.ritsumei.ac.jp/rclub/>



立命館大学

学生イベント & スポーツ

EVENTS & SPORTS

SPORTS スポーツ

【問い合わせ先】スポーツ強化センター：075-465-7863

立命館大学の在校生・校友6名がロンドンオリンピック・パラリンピックに出場決定！

7月27日から開幕するロンドンオリンピックおよび8月29日から開幕するロンドンパラリンピックに以下の6名の在校生・校友の出場が決定しました。ロンドンオリンピックおよびパラリンピックでの活躍が期待されます。

[ロンドンオリンピック]

- シンクロナイズドスイミング、チーム・デュエット
乾友紀子さん(経営4)、小林千紗さん(校友・2010年経済卒)
- セーリング男子49er級
牧野幸雄さん(校友・2004年経済卒)

- ホッケー女子日本代表チーム「さくらジャパン」
林なぎささん(校友・2009年産社卒)
- カヌースプリント男子カヤック200m
渡邊大規さん(校友・2011年経営卒)

[ロンドンパラリンピック]

- 水泳
江島大佑さん(校友・2008年産社卒)

スポーツ関連団体の主な成績 (2012年4月～6月)

団体名	開催日	成績
硬式野球部	4月7日～5月27日	関西学生野球連盟春季リーグ5季ぶり33回目の優勝 最優秀選手賞(MVP)に瀧野光太郎さん(文3)、最優秀投手賞に工藤悠河さん(政策3)、首位打者に宮本剛さん(産社3)が選出
女子陸上競技部	4月14日	第18回世界学生クロスカントリー選手権大会で池田睦美さん(スポ健2)が6位
	6月8日～10日	第96回日本陸上競技選手権大会女子走幅跳で梶木千妃呂さん(経済4)が6位
	6月22日～24日	2012日本学生陸上競技個人選手権大会で前田浩唯さん(経済3)が女子10,000mWで2年連続優勝
男子陸上競技部	6月3日	第44回全日本大学駅伝対校選手権大会関西学連出場大学選考競技会大会で1位を獲得
	6月8日～10日	第96回日本陸上競技選手権大会 三田恭平さん(経営3)が男子110mHで4位、小西勇太さん(経済4)が男子400mHで7位、今崎俊樹さん(経営4)が男子800mで8位、1,500mで7位、堀江新太郎さん(経済4)が男子200mで8位
	6月22日～24日	2012日本学生陸上競技個人選手権大会 三田恭平さん(経営3)が男子110mHで4位、小西勇太さん(経済4)が男子400mHで4位
ホッケー部	4月14日～5月20日	関西学生春季リーグでホッケー部男子・女子がともに優勝
	6月17日～19日	第31回全日本大学ホッケー王座決定戦でホッケー部男子が3位
弓道部	5月26日、27日	第56回関西学生弓道選手権大会男子団体で優勝(史上初の4連覇達成)
	6月24日	第24回全国大学弓道選抜大会男子団体で3位
ソフトテニス部男子	4月28日、29日	関西学生春季1部リーグ9年ぶりの優勝
柔道部	5月27日	第20回関西学生女子柔道優勝大会で3位
日本拳法部	4月22日	第16回西日本学生拳法選手権大会で団体準優勝
	6月3日	第25回全国大学選抜選手権大会男子団体で初優勝、辻竜汰さん(政策4)が最優秀選手賞を獲得



CULTURE / ART 文化・芸術

【問い合わせ先】学生オフィス：075-465-8167

将棋研究会 中川慧梧さんが第68回学生名人戦で初優勝！

[6月2日、3日 東京都港区チサンホテル浜松町]

東京都港区で第68回学生名人戦が行われ、中川慧梧さん(将棋研究会・産社2)が初優勝を果たしました。中川さんは、接戦の末、沖田幸輝さん(岡山理科大学)を決勝で破り、2011年学生王将戦に続く、優勝を勝ち取りました。8月初旬に開催される富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会や12月下旬に開催される学生将棋対抗団体戦(王座戦)などの団体戦での活躍も期待されます。



能楽部 第29回立命薪能を開催

[4月23日 衣笠キャンパス]

能楽部は、衣笠キャンパスにて第29回立命薪能を開催しました。以学館前の屋外に設置された特設舞台では、能楽演目「小鍛冶」が行なわれました。立命薪能は、今年で29回を数える能楽部の伝統行事となっており、学生・教職員はもちろん、地域の方を含めて多くの方が特設舞台に足を運ぶ様子が見られました。なお、今回の薪能は放送局出身の学生による立命館大学ライブストリーミング(rtv)により、U-streamを利用したインターネット配信が行われました。



Tri-C 立ち寄りカフェ「ゆかい家」で 学生たちがオリジナルスイーツを調理・販売

[5月23日、24日 立ち寄りカフェ「ゆかい家」滋賀県草津市内]

料理作りサークル「Tri-C」の学生は、オリジナルスイーツを、草津学区社会福祉協議会が運営する立ち寄りカフェ「ゆかい家」にて販売しました。この取り組みは、2012年3月にオープンした「ゆかい家」を学生の力で市民の交流の場として一層発展させていきたいという、草津学区社会福祉協議会から大学への相談をきっかけとして始まりました。今回は第一弾として、学生たち約10名がロールケーキとパウンドケーキを「ゆかい家」にて販売。今後も地元の食材を使ったスイーツやお弁当などを開発し、販売していくことを検討しています。



CAMPUS ACTIVITIES 学生の活動

【問い合わせ先】学生オフィス：075-465-8167

2012年度 「新歓祭典～キミの世界が開くとき～」を開催

[4月21日 びわこ・くさつキャンパス]

びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「新歓祭典～キミの世界が開くとき～」が開催されました。新歓祭典は秋の学園祭に次ぐ学生主体の大きなイベント。特設ステージでは、課外自主活動団体によるダンスや太鼓、ダブルダッチなどのパフォーマンスやライブ演奏が披露されました。また教室やセントラルアークには、学術団体・学芸団体の展示・体験コーナーなどが設けられ、これらの企画を通じて多くの新入生が同級生・上回生と親交を深めていました。



第44回草津宿場まつり 立命館大学課外活動団体が多数参加

[4月29日 JR草津駅、草津市役所周辺]

このイベントは、毎年、草津地域の方々によって開催されるもので、東海道と中山道が出会う旧草津宿の歴史や伝統を身近に感じ、楽しむことができる草津市の春の風物詩としても知られています。昨年は東日本大震災の影響で開催されなかったものの、今年は晴天にも恵まれ、多くの観客で賑わいました。街道では、多彩なパフォーマンスが行われ、立命館大学からも14の課外活動団体、運営スタッフや実行委員など約190人もの学生が参加しました。



2012年度前期 卒業式・学位授与式ご案内

2012年9月22日(土・秋分の日)

[対象者] 全学部の2012年9月卒業者

※卒業合否発表は、9月7日(金)になります。

式典は朱雀キャンパスにて行います。
衣笠・BKC所属の方も朱雀キャンパスで出席してください。
所属キャンパスにより開式時間が異なりますのでご注意ください。
朱雀キャンパスへのアクセスは、立命館大学のホームページをご覧ください。

衣笠キャンパスの学部にも所属の方

時間 / 10時30分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室(5階ホール)

びわこ・くさつキャンパスの学部にも所属の方

時間 / 13時30分～

場所 / 朱雀キャンパス 大講義室(5階ホール)

- 30分前開場(10分前までにご着席ください)、開式後は入場できませんので時間厳守をお願いします。
- 式典に出席される方で手話通訳の必要な方は、8末日までに所属の学部事務室へ申し出てください。

秋のオープンカレッジ・アカデミック京都ウォッチング開催のご案内

秋のオープンカレッジ

2012年11月17日(土) 13:00～16:00(予定)

[場所] 衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス

学部別懇談会を実施。お子様が学ばれている学部の教員や職員が学生生活や進路・就職についてお話しします。また学部内に在籍している学生の体験談などもお聞きいただけます。あわせて、学生サポートルームも開室し、カウンセラーの相談も実施します。お子様の所属する学部・学科の学びや進路について知っていただけるまたとない機会です。



アカデミック京都ウォッチング

2012年11月18日(日)

京都や滋賀の歴史や文化について詳しい本学教員による講義の後、フィールドワークを実施します。本学教員または京都学生ガイド協会に所属する本学学生がガイドを務め京都や滋賀の街をご案内します。



- 父母教育後援会会員様には別途ご案内を送付いたします(9月中旬発送予定)。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは…
「保護者の皆さまへ」▶「立命館大学父母教育後援会」をクリック

会報が複数届いた方へ

ご兄弟で立命館大学に通われている場合、父母教育後援会の会費1名様分をご返金させていただきます。本誌が2通届いた方は事務局までご連絡ください。申請用紙を送付させていただきます。

■会員様の住所変更について

本誌は、登録されている学生の保証人住所に送付しております。住所を変更された場合は、学生本人による住所変更の手続きが必要です。お子様に学生証をお持ちの上、所属の学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。

■立命館大学夏期一斉休暇のお知らせ

8月13日(月)～8月17日(金)は、全学一斉休業期間につき全窓口が閉鎖となります。

※最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会から、会員の皆さまに直接電話で個人情報をお訊きすることはございませんので、くれぐれもご注意ください。

立命館大学父母教育後援会だより 2012年度 夏号

2012年8月発行 立命館大学父母教育後援会 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel. 075-813-8261 Fax. 075-813-8262